

1) シンポジウム記録

「大学教育の成果をどう評価するか?」

日時 2005年5月22日(日) 13:45~16:30

場所 九州大学箱崎文系キャンパス大講義室

司会 矢野眞和(東京大学)

八尾坂修(九州大学)

報告者

- 1) 村山詩帆(佐賀大学)「シンポジウム趣旨説明と会員アンケート結果紹介」
- 2) 安部直樹(長崎短期大学)「卒業生調査の意図と活用—九州地区8短期大学の事例—」
- 3) 谷田薫(関西学院大学)「関西学院大学第1回卒業生調査—教育評価としての卒業生調査—」
- 4) 吉本圭一(九州大学)「卒業生調査は役に立つか—日欧比較調査から—」
- 5) 米谷淳(神戸大学)「教育の成果を把握するための授業評価と卒業生調査」
- 6) 滝紀子(学校法人河合塾)「出口からみた大学教育の成果をどう活用するか」

討論者 小方直幸(広島大学)

教育機関の説明責任が強く問われる時代に入り、「教育の成果」を点検・評価することが多くの高等教育機関の中長期計画における具体的な取り組みの課題として明記されるようになってきた。しかし、高等教育研究の分野において、何をもって「教育の成果とするのか」「それがどのように把握できるのか」「その点検・評価を通してどのように教育改革に結びつけていくことができるのか」、評価の方法やその成果の蓄積はまだ不足しているようと思われる。特に、「教育の成果」を社会的な説明責任という枠組みで検討しようとすれば、大学教育の自己点検評価の常套手段となっている授業評価や、単位取得・試験成績だけでは測れるものではない。

しかし、教育の成果が現実に発揮される卒業後の社会での活躍の状況を点検・評価していこうとする高等教育機関は、構想はあっても実行しているところはまだ多くないようです。そこで、本シンポジウムでは、卒業生調査に取り組んでいる先端的な事例紹介を踏まえて、また「学生による授業評価」や「企業人事担当者による評価」などの方法論との比較をしながら、「教育の成果の点検・評価」の現状を点検・評価し、その将来的展望を探つていきたいと考えた。

当日の司会進行は、このテーマから当然ながら学会会長の矢野眞和氏(東京大学)と、九州大学から八尾坂修会員にお願いした。シンポジウムでは、まず企画サイドから村山詩帆会員(佐賀大学)が「シンポジウム趣旨説明と会員アンケート結果紹介—旧くて新しい課題(アポリア)としての大学教育の成果—」と題して問題提起を行った。会員アンケートでもあきらかのように、会員のなかの一定数が卒業生調査に関わるようになっており、「教育の成果」を測る方法論として注目されている。ところが、大学教育が多次元的な目的を追

求している以上、「教育の成果」を証明するためにはその複雑な目的を分析的な課題に卸して検証するという課題に直面する。卒業生調査を企画していくことは意義あることではあるが、そうした本来必要な理論的な考察を経ずして現実が進んでいく懸念についてまず指摘がなされた。

こうした問題提起に対して、実際に行われてきた卒業生調査がそれにどのように応えているのか、まず3つの大規模な卒業生調査事例の報告があった。第一報告者の安部直樹会員（長崎短期大学）は、「卒業生調査の意図と活用—九州地区8短期大学の事例ー」を紹介した。短期大学が若年人口減少期に経営困難のなかで、短期大学教育の役割を再評価しようとして九州地域の短大関係者が多面的な共同研究活動を行い、その一貫として卒業生調査を行ったものである。短期大学は多様な機能を果たしてきたおり、家庭生活、人格形成、就職や長期的な職業キャリアなど、短大が歴史的に果たしてきた多様な機能に注目しながら、卒業生が卒業後の多様な時点でそれらの効用をどう評価しているのか、そして多様な専門分野間、入学動機、短大間などの比較検討を行っている。ここで注目すべき点は、入学募集などでは競争相手である地域の近隣短大同士が自分の短大の教育の特徴を把握しながら短大全体としての役割の再設定にむけて切磋琢磨するという戦略的パートナーシップの形成が明瞭に見えてきている点である。

第2に、個別大学が単独に実施している大規模な調査事例として、谷田薰会員（関西学院大学）は、「関西学院大学第1回卒業生調査—教育評価としての卒業生調査ー」と題した報告があった。関西学院大学では、大学紛争後に設立された総合教育研究室を中心として、授業評価や学生生活に関する各種調査を実施してきている。しかし、大学教育について考える場合に、単なる教科教育の側面だけではなくクラブ活動やゼミ活動、キャンパスでの人間関係を通じた人格形成まで含めて把握し、在学中認知している大学教育の意味とは異なる再評価が卒業後、社会人として経験を積む中で形成されていく面を把握することの重要性を認識した。そして創立100年を超える15万人余の卒業生を社会に送り出している現状から、これらの多様な活躍をする同窓生を通して教育の総合的な評価を得る時期にきたという判断をもとに、在学生の諸調査と関連づけた調査項目による卒業生調査を実施したという紹介があった。総合的な評価として、建学の精神である「Mastery for Service」が「常に行動の規範としている」といった卒業生が多く、これは在学中よりも高いレベルになっており、また高い教育評価は、正課活動での評価よりも「キャンパスのイメージ」「クラブ・サークル」の充実が影響を及ぼしていることが明らかになった。ただし、卒業して年数を経るによってこのモットーの意味が行動規範として浸透していくのか、あるいはその時代の卒業生が当時受けた教育が効いているのか、1回の調査だけでは明らかにできないので、さらに卒業生調査を積み重ねながら検討することが課題となっているとの報告であった。

第3に、学術的なアプローチとして、吉本圭一会員（九州大学）から「卒業生調査は役に立つか一日欧比較調査からー」という報告があった。教育の成果を測定し、かつそれを教育改善に結びつけようとすると、教育の收益率などの生涯にわたる効用を把握する枠組みは有効性を失うのであり、卒業生調査を通して調査分析するほかない。しかしその設計

にあたっては日本的な高等教育と労働市場の特色を踏まえて、つまり高等教育の効用の遅効性を前提として、中長期的な枠組みが必要である。そして、こうした枠組みをもって日欧比較と卒業後の一定期間の比較という枠組みをもって調査した結果として、教育におけるアカデミックな要素と職業的な要素の統合、カリキュラム外での職場体験においてもそれが大学教育の内容と関連づけて意識されていること、こうした点が重要であり、つまり「統合的な学習の重要性」という日本の高等教育のこれから課題が明らかになってきたと論じた。

「教育の成果を把握する」ためには、卒業生調査だけではない。米谷淳会員（神戸大学）からは「教育の成果を把握するための授業評価と卒業生調査」と題して、授業改善に関する実践的研究を進めている研究者としての立場から、卒業生調査について、とくに大学教育や大学授業の効果の測定という観点からの卒業生調査の難しさ、危うさ、可能性を論じていただいた。一方では、授業評価がその労力の割に授業改善に結びつかないという批判、またカリキュラム全体に言及していないという批判があるが、といって、教育の成果を総合的に測るために、「創造性」や「国際性」といった教育理念を評価項目に落とし込むことは可能かという疑問が提起された。そして、具体的な基準を示さずに評価させた回答結果は、単に回答者本人の基準の厳しさ、甘さを示しているという妥当性に関する危険がある。その意味で、大学教育の基本である「授業」を軽視することなく、授業評価の統計的な方法論の発達を踏まえて、具体的な改善に結びつく授業評価の再活用も慎重かつ積極的に考慮すべきではないかと論じた。

最後に、大学外から大学の教育力を把握・評価していくという立場から、滝紀子会員（学校法人河合塾）が、豊富な企業とのコンタクトや、人事担当者の調査を踏まえて、「出口からみた大学教育の成果をどう活用するか？」と題した報告があった。特に、産業界からは大学における教育面での期待が大きくなっているが、担当してきた『大学ランキング』などでは、一部の大都市の大規模銘柄大学しか目に映らないというバイアスがあるし、文系－理系という区分では、産業界の期待する大卒者の職業能力についても、また受験生がキャリアを捜していく上でも十分な比較のための指標を提示することができない。むしろ、金沢工業大学が、自分の卒業生が就職先企業でどのように評価されているかを調査した事例を紹介しながら、卒業生調査を大学が自分の教育の強みと弱みを検討するために使うことが有望との指摘があった。特に、卒業してから3～5年という対象者に絞って、卒業生から情報を得るというスタンスが重要なのではないかとの提言があった。

小休憩の後、小方直幸会員（広島大学）からディスカッションのための論点の提起があった。第一には、教育の成果を把握するために授業評価だけでなく卒業生調査も実証的に展開していくようになってきたが、これは大学教育改革にとっての有用な手段になりうるのか、それとも危険で困難の方法への誘惑であるのか、その可能性と困難・限界について自覚的におくべきだという点である。小方会員は、誰が成果を把握できるのか（自己評価－他者評価）、何時把握できるのか（在学中か卒業後一定期間か）という2つの成果評価軸で各発表者の観点を位置づけ、ディスカッションを展開した。議論の焦点は、卒業生調査を何のために実施するのか、学術的に教育の成果を明らかにするのか、それとも教

育改善や政策的なインプリケーションにつなげるのか。このねらいの違いは方法論の違いとも関わってくるのではないか、両者は本質的に異なるのではないかという問題提起であった。また、フロアーからも、串本剛会員（広島大学）から「教育の成果」を扱うねらいは「教育改善」にあるのか「外部評価対応」にあるのか、金子元久会員（東京大学）から主体的な学習動機の有効性などのファインディングは多くの卒業生調査である程度共通に見いだされているが、個々の教育改善には直接結びつきにくいので、どこか枠組みのブレークスルーが求められるのではないか、羽田貴史会員（広島大学）から目的・過程・成果の測定問題は目的さえ改善し操作化・明確化していけば解消するのではないか、また戦略的な評価への大学関係者の政策と対策というのは具体的にはどのような方向か、早田幸政会員（金沢大学）からは教育の成果について企業人材としてだけでなく人間形成など面をどう把握していくのかなどの質問があり、活発な議論がなされた。議論はつきないが、卒業生調査は大学改革のいっそうの進展のなかで授業評価やF Dの次に焦点となっていくテーマであり、高等教育学会として取り上げるべき今後の重要な研究課題であることが明確になったとの司会矢野会長のまとめを得て、三時間近い充実したシンポジウムは閉会した。

（文責：吉本 圭一）

英国ヨーク大学 －英国ヨーク大学におけるキャリアサービスの支援と活動プログラム－

1. はじめに

イギリスでは、1997年の政策文書「学習社会における高等教育」を起点として、大学教育におけるエンプロイヤビリティ(Employability)向上の動きが見られる。この背景には、労働市場の変化や高等教育人口の拡大、生涯学習の推進等の社会的変化がある。こうした現状が進むとともに、大学授業料徴収制も導入され、大学のアカウンタビリティが厳しく問われるようになってきている。2009年の経済不況も影響し、エンプロイヤビリティ向上に向けた教育がより一層大学に求められるようになってきている。

日本においても、高等教育の大衆化と労働市場の変化のもたらす大学教育への影響は大きく、大学教育の質が期待されるだけでなく、エンプロイヤビリティの向上についても期待されるようになってきている。大学教育で育成できるスキルと雇用側の求めるスキルとのギャップや大学教育の質の維持、大学教員の意識改革等の課題が多い。

本稿は、両国の大学教育における方向性の一つにエンプロイヤビリティがあることに注目する。事例としてイギリス北部に位置するヨーク大学を取り上げ、大学の全体計画を概観した上で、キャリアセンターのエンプロイヤビリティ向上への支援と活動プログラムを取り上げる。ヨーク大学は、教育の質について高く評価されているとともに、学生による評価も高い。また、キャリアサービスが運営する「ヨーク賞」プログラムやエンタープライズは、学生に多様な経験とスキルを提供するとして産業界からも高く評価されている。さらに、エンプロイヤビリティの向上について、イギリスの大学におけるキャリアセンターの事例を扱った論考は日本では少数でありⁱ、わが国の大学教育プログラムに示唆を与えることができると考えられる。

そこで、本稿は、イギリスのヨーク大学におけるエンプロイヤビリティ向上に向けた大学全体計画を概観し、キャリアサービス(Career Service)の支援と活動プログラムを紹介する。その上で、エンプロイヤビリティ向上へのキャリアサービスによる支援と活動プログラムの特徴と課題について明らかにする。

2. ヨーク大学の計画

1963年、イギリス北部のヨーク市に設立された国立ヨーク大学は、約30の学科を置き、およそ9,700人（6,500人がフルタイムの学生）の学生が在籍している。学生数はイギリスの大学の中でも少数であり、1年次生に対する学生寮と個人指導教官システムを中心とする学生支援と優れた教育活動を特長とする大学である。イギリスで実施される研究評価及び教育評価においては、常に上位にランクされ、学力の向上に力を入れてきた伝統的な大学である。

1998年、ヨーク大学は「2000年から2004年第一期大学運営協力計画」(Corporate Plan)を立ち上げ、国際社会をリードする学習活動の提供、社会に資する研究の主要機関としての発展、充実した生き方と社会貢献を担う能力の育成を将来的ビジョンとして掲げた。学内・学外における連携・協力の確立、優れた学習活動機会の拡大及び学習環境の改善を重点とする実施方針のもとで、①研究、スカラーシップ、特色を持つ優れた学習環境の提供、②入学選抜、カレッジ制による最高水準の学習環境、学生支援による先導的立場の維持・向上、③教育と訓練、研究及び雇用のニーズへの継続的かつ発展的な対応等の目標が設定され、今日も継続している。この計画書の中で、エンプロイヤビリティは、労働市場のニーズとの関係が強い。しかし、学力の向上と個人の成長との間でバランスを図らなければならない。エンプロイヤビリティに必要な多くのスキルは、学問をする上で重要なスキルである。学生は、このことを認識し実行する必要がある。すなわち、エンプロイヤビリティは、学問と切り離されたスキルではなく、学問の知識、理解、並びに応用力は、エンプロイヤビリティに含まれるスキルであり、エンプロイヤビリティをより一層向上させ得るスキルであることが明確に述べられている。さらに「学習とティーチング戦略」(Learning and Teaching Strategy)を中心として実施していく方向性が示された。この戦略は、学士課程と課外活動による継続的なスキル学習の機会の提供ならびに職業経験機会の拡大によって達成され得るとして、優れた学習経験を軸としたものとなっている。学習経験の充実は、①学生のニーズへの対応、②厳格な評価によるカリキュラムの内容及び教育方法の革新、③指導教官システムの充実、④課外活動による教育機会の増大、⑤教員研修の実施、⑥教育施設の改善を通して今日も遂行されている。1998年以降、設置されたティーチング委員会と福祉調整委員会、2003年に設置されたアカデミック・コーディネーター及びカレッジコーディネーター、さらにキャリアサービスと学部とのリエゾンとなるキャリアアドバイザーによって、学内におけるコミュニケーションの向上の徹底と学生支援の効率化が図られているⁱⁱ。2009年には、大学全体計画の中に「雇用者エンゲージメント戦略」(Employer Engagement Strategy)が新規導入されたⁱⁱⁱ。これは、3つの領域をカバーすることを目的としている。一つは、学部生と大学院生の就職率を上げること、2つ目は、継続的な職業能力開発コースを通して、大学の専門知識にアクセスする機会を雇用者に提供すること、3つ目は、産業界のニーズに合うリサーチを保証することである。この導入により、学部や学科は、何らかのエンプロイヤビリティ育成への手段を講じることが強く奨励されることになった。この戦略は、必須の取り扱いではないが、大学のシニア・マネジメント・スタッフにより体系的に視察され、全ての活動が記録される。

ヨーク大学は、外部機関との連携に力を入れており、地域及び学外機関とのネットワークを通じた研究やティーチング、学習活動、コミュニケーションへの参加等を推進し、学生ならびに教職員の意欲の向上と地域への貢献力を高めている。また、2000年頃より、公営機関や民間機関、ボランティア機関との連携による活動機会の拡充に力を入れはじめ、その多くのプロジェクトは政府による財政支援によって推進されている。外部との連携については、特に、キャリアサービスの機能を重視しており、学生への就職情報の提供、キャリア・マネジメント・スキルの育成、外部機関と大学との効率的な協力連携の維持・向上、

外部機関によるフィードバックに基づいた効率化の促進等を任せている。

3. エンプロイアビリティ・スキルの定義

ヨーク大学が示しているエンプロイアビリティ・スキルは、卒業生リクルーター協会 (Association of Graduate Recruiters、AGR) と産業界との討議によって決定したものである。このスキル向上への各プログラムの質保証は、ヨーク大学のティーチングとラーニング委員会が担当している。

ヨーク大学の目指すエンプロイアビリティ・スキルは、大きく 3 つに分類されている。一つは、個人的特質である。この分野における項目は、①自己形成、②自己管理、③献身／意欲、④柔軟性／適応力、⑤自信、⑥弾力性、⑦高い処理能力、⑧熟考、である。二つ目の相互作用に関する個人的特質では、①相互作用のスキル、②コミュニケーション、③チームワーク、④リーダーシップ、⑤困難な問題への処理能力、⑥ネットワーキング、⑦交渉力、⑧顧客の要求への対応能力、⑨自分の価値と目的を評価し、他者を尊敬する能力、である。三つめが、一般的な個人的特質である。この分野における項目は、①問題解決能力、②立案と準備、③指導力とイノベーション、④分析能力、⑤リサーチ能力、⑥時間管理能力、⑦数的処理能力、⑧コンピューター・リテラシー、⑨産業界への知識と商才、⑩外国語運用能力、⑪専門的能力開発への献身、である。

4. キャリアサービスの支援と活動^{iv}

キャリアサービスは、伝統的な活動である学生へのアドバイスとガイダンス、イベント、就職に関する情報提供の他に、学部との連携協力、「ヨーク賞」プログラム (York Award)、エンタープライズ (Enterprise)、ならびにボランティア活動の運営を行っている。2009 年に導入された「雇用者エンゲージメント戦略」においては、第一の目的である学部生ならびに大学院生の就職率を上げるための責任をキャリアサービスは担っており、学士カリキュラムへの職業体験のより多くの導入とボランティア活動ならびに課外カリキュラムへの組織的な職業体験機会の増加を計画している。

ここでは、1998 年以降実施されているキャリアサービスによる支援と活動について取り上げる。

(1) 学部との連携^v

ヨーク大学において PDP (Personal Development Plan) は、指導教官システムの中心となっている。2004 年 7 月から実施されている PDP は次の目的でスタートした。それは、①学問上の経験、職業やボランティア、個人の経験等の学生の経験についての学生自身の省察を促す、②専門的能力の開発と個人的発達を促進するための適切なサービスを特定するための支援を提供することである。PDP の導入の背景には、モジュール制の導入による学生自身の学習方法の確立とレビューの重要性の高まり、試験文化による広範囲のスキ

ルと知識の獲得機会の減少、ワイドニング・パーティシペーション政策（Widening Participation）による多様な経験を持つ学生の増加、雇用機会の変化と産業界による被雇用者への柔軟性の要求等がある。PDP は、次のように構成されている。①計画（個人の目的をいかに達成するのか）、②実行（正規課程と課外で獲得した経験を通しての学習）、③記録（考え、アイデア、経験、証明）、④評価（自己評価、他者からのフィードバック、改善点）であり、個人の発達、課外カリキュラム、学問上の発達、専門能力の発達の 4 分野に分類されている。指導教員は、学期の初めと学期末に学生と話し合いをもつ。話し合いは、学問上の発達や宿題が主となるが、パストラル・ケア的要素も含まれるため、PDP を指導教員システムの中に織り込むことがこの大学では容易にできている。キャリアサービスの職員は、指導教員との話し合いの前に、学生を対象とした PDP の導入とヨーク大学における充実した時間の使い方をテーマとするワークショップを開催している。この時に、学生の省察を支援するための短い質問紙が配布され、学生はこれを記入した上で指導教員との話し合いに臨む。質問の内容は、各学年で異なっている。1 学年では、特にキャリアに関連した質問は無く、次の項目が並んでいる。①経験から何を学んだのか、②近い将来、どのような挑戦をしようとしているのか、どのような取り組みを考えているのか、③それに対するアドバイスや支援をする場所を知っているのか等である。2 学年では、①1 年次の大きな挑戦から何を学んだのか、②好きな学習方法は何か(行動提案を含む)、③正規課程のコース以外で参加した活動があるか、④ヨークでどのようなスキルを向上させていると感じるか、⑤どのようなスキルを向上させたいのか (行動提案を含む)、⑥卒業後の進路 (行動提案を含む) 等である。最終学年では、①前の話し合いで提示した行動提案の進展について、②正規課程以外で何か活動をしたのか、それは、どのように将来に影響するか、③その学科の卒業生であるという意味は何か (どのようなスキルを雇用者に提供しなければならないか)、④ヨークで直面した最も重要なチャレンジは何であったのか、その経験から何を学んだのか、⑤卒業後の計画は何か (特にその進路が適切であると考える理由は何か) である。これらの質問は、大学で設定している学習成果の基準に基づいて作成されている。学習成果の基準によると、2 年生では、①学士の特性の獲得に向けて達成したことを省察する、②適切なリサーチ、関連した仕事や経験を行い、考えを整理することによって、人的発達と専門能力の開発と職業への次のステップを考える、③少なくとも一つは、課外カリキュラム、学問上の発達、職業・専門能力の向上に関連する抱負や希望を設定し向上する、④指導教員と話し合いながら、自分の獲得したスキルと知識、経験を表す履歴書を作成する等が示されている。指導教員は、話し合いの際に、質問紙をもとにして、学生の経験や達成、学生の長所と短所を省察させ、個人に応じた情報やガイダンスを確認し、それらに応じた行動計画の立案を奨励する。この他に、キャリアセンターには、学部とセンターのリエゾンとなるキャリアアドバイザーが 5、6 名設置されており、アドバイザーは、学部のリエゾンオフィサーと呼ばれる大学教員と規則的に話し合いを持ち、学生の進路や学部で開催するワークショップやイベント等を決定している。また、「ヨーク賞」担当者は、新しいプログラムをウェブ上で紹介し、プログラムの内容に対する学生からのアドバイスや産業界からの指導者を募集することも行っている。

(2) 「ヨーク賞」プログラム (York Award)

「ヨーク賞」プログラムは、課外活動として位置づけられている。課外活動は、大学の授業外で実施される学生や教職員によるボランティア活動という意味合いが強い。教育活動全体を通して、学生を主体とするティーチングと学習方法が活用されている。このアプローチには、次の特徴がある。一つには、学問の向上と学生による意欲の向上を目指して、一人ひとりの学生に焦点を置いていることである。ポートフォリオの採用、多様な学習形態の活用、教職員との交流の機会等を中心としている。二つめに、学習経験は、本人の自主的、自律的学習に依拠するとの考え方から、学生の自己選択と自主学習における自己管理を奨励していることである。三つめに、指導教官制とカレッジ制による学生支援を徹底していることである。この活動を基本として、各学科では学問の向上と人間的成长を促している。一方、課外活動は、スキル教育に重点を置き、人間的成长と職能開発を図る枠組みの中で、スキルの向上を目的とする多様な活動機会が提供されている。学生が参画できるプログラムも多く、学科と Central Service も支援している。「ヨーク賞」プログラム以外の課外活動には、「学校におけるヨーク学生」(York Students in Schools)、「スポーツ・ボランティア・プログラム」(Sports Volunteer Programme)「ヨーク学生の地域活動」(York Student Community Action)、「アクティブ・ヨーク」(Active York)等がある。これらのプロジェクトは、地域の学校やシティ・カウンシル等との連携のもとで地域に貢献する機会を提供し、市民性の発達も促している。これに対して、「ヨーク賞」プログラムは、公的機関やボランティア機関、及び民間企業との連携で実施されることが多く、将来の職業への意識付けや雇用に直結するスキルの育成に焦点を当てている。

「ヨーク賞」プログラムの概要は次の通りである。1996年に開設した「ヨーク賞」プログラムは1999年に新しいプログラムとして再スタートした。これは、スチューデント・ユニオンの活動や休暇中のアルバイト、スポーツ、ボランティア活動等もまた大学における重要な学習機会であるという見地から、課外活動における体験を省察しプレゼンテーションしていく機会を与えることで、スキルの向上と人間的成长を促したいとの考え方から始まったものである。したがって、「ヨーク賞」プログラムは、全学生の潜在的能力を引き出し、課外活動における経験を評価し、資格取得の支援をすることを目的としている。プログラム終了後には、産業界から高く評価されている「ヨーク賞」が授与される。プログラムの推進は、キャリアセンター内にある「ヨーク賞」担当部門が中心となっている。主なサポートとガイダンスは、秋学期の新入生を対象としたガイダンス、学期毎のレビューセッション、ワークショップ（例、職業体験の反省の仕方等）、予約制の個人面談等である。全学科には学生とプログラムとの仲介等に責任を持つ「ヨーク賞」担当教員が配置され、指導教員は学生に助言を行っている。

次に「ヨーク賞」プログラムの構成を見てみると、プログラムは、必修活動と選択活動で構成されている。必修活動は、①「学力の向上」、②「職業体験」、③「個人の興味」である。①は、学士課程で実施される応用可能なスキルと人間的成长を図る活動である。スキルを成績として評価していない学科もあることから、スキル向上への学生の努力を「ヨーク賞」

「ヨーク賞」として評価することをねらいとしている。②は、職業体験や授業以外での経験である。例えば、「学校におけるヨーク学生」などの課外活動が対象となっている。③は、学生が自分自身の興味・関心によって大学で行った活動である。体験を通して自己の成長過程を省察できる能力の育成を目的としている。選択コースとしての多彩な 26 のプログラムは、必修コースのスキル学習を補い、学生の興味・関心等に応じたより広い知識とスキル向上への学習機会を提供している。

「ヨーク賞」取得までの過程は次の通りである。学生は、プログラムの開始前に、6つの分野（コミュニケーション、数的処理と統計、情報テクノロジー、社会への適応性、問題解決能力、及び自己管理能力）のスキルをチェック項目で自己評価し、達成目標を明確にする。その後、「ヨーク賞」担当者の助言の下、アクション・プランを立案し実行する。両コースの自己採点が 100 点を満たすと「ヨーク賞」に申請することができる。必修コースの点数は、「学力の向上」が 20 点、「職業体験」が 20 点から 60 点、「個人の興味」が 10 点から 20 点の配分であり、この点数の範囲内で自分の活動を採点する。選択コースの場合は、プログラムごとに点数配分が異なっており、5 点、10 点、20 点のいずれかが各プログラムに配分されている。「ヨーク賞」に申請する際には、コース毎の自己採点と採点の根拠となる活動内容、及び「評価質問」への回答を規定の申請書に記述する。実際の就職試験と同様のフォームが使われている。例えば、「評価質問」で問われる項目は、困難で複雑な状況の際の問題解決の方法、将来の職業と人生に及ぼす大学生活の意義、学問と職業体験以外で果たした人間的成长等である。「ヨーク賞」担当者は、申請書を審査する。基準に達している学生は評価委員会による面接を受ける。不合格の場合には、再度、挑戦する機会が与えられる。2007 年度には、評価委員の人数も増加した。105 回から 126 回にわたる評価過程において、16 人のキャリアサービスの職員と 9 人の他大学の職員が申請書を評価した。68 人の大学職員（16 の学部の代表者）が評価委員の一部を構成し、インタビューには、50 人の会社代表（卒業生を含む）が従事した。2008 年度には、すでに評価過程への参加希望が 42 件も来ており今後、ますます増大することが見込まれている。

「ヨーク賞」プログラムへの参加者は、1999 年以降増加しており、2007 年度にはかすかに減少したが参加人数は 251 人であった。そのうち、受賞者は 236 人と好成績であり、全体学生数の約 10% が毎年受賞している。参加した学生は、プログラムの利点として次の点を挙げている。①ヨークで充実した時間を費やすことができる、②自分の長所と短所の評価の手助けとなる、③雇用者としての能力の改善を図ることができる、④「ヨーク賞」担当者による運営が優れている、⑤他の学生に推薦できる。しかし、プログラムにおける学習が正規課程のアカデミックなスキルを向上させたかどうかについては、意見が分かれていた。受賞のための申請書作成とインタビューについては、70%以上の学生が特に有効であったと感じている。具体的には、①スキルの向上と経験を評価し省察する機会となる、②大学で学習したスキルの産業界における応用を知ることができる、③多様で豊富なコースがある、④個人面談の機会が提供される、ことである。また、改善すべき点として挙げられたのは、①各コースにおける時間の多様性、②週毎の電子メール、③インタビューと申請書の基準等である。

近年、「ヨーク賞」担当者は、インターネットを通じて活動プログラムの内容に対する学生からのアドバイスや産業界からの指導者を募集することも行っており、双方向の意見を生かしたプログラム作成を実施している。2008年秋には、中国の Zhejiang 大学との連携を進め、ヨーク大学生と Zhejiang 大学生とが同じビジネスケーススタディを開始した。両者はビデオ会議を通して問題解決への意見を交換する。この機会は、学生にとってビジネス意識や考え方の違いを発見するよい機会となっていることである。また、将来の計画として、2008年度のヨーク賞プログラムがすばらしい評価を得たことから、ヨーク賞プログラムを大学院生にまで拡大することを計画しており、2010年から開始される可能性が高い。

(3) エンタープライズ (Enterprise)

エンタープライズは、DTI (Department of Trade and Industry) によるサイエンス・エンジニアリング・チャレンジ・ファンド (Science Engineering Challenge Funds) を受け、1999年にスタートした。当初は、エンタープライズのためのホワイトローズ・センター (White Rose Centre for Enterprise; 以下 WRCE と略) による資金によって運営されていたが、2005年にティーチングとラーニングのエンタープライズにおける卓越性のためのホワイトローズ・センター (White Rose Centre for Excellence in Teaching and Learning Enterprise; 以下 WRCETLE と略) によって置き換えられた。WRCE は、科学、テクノロジー、エンジニアリング、数学の学部のみに焦点を当てていたが、WRCETLE は、人文学部を特に優待すると同時に理系学部にも資金を提供している。WRCETLE は、ヨーク市近郊にあるシェフィールド大学とリーズ大学とのコンソーシアムによって運営されている。キャンパス内に4つのエンタープライズ・ゾーンが設置され、いずれも、最新のソフトウェアとハードウェアが装備されている。使用時間は、基本的に9時から5時までであるが、中央図書館のみが9時から夜12時まで開館しており、いずれも予約が必要となっている。学生は、使用前に、不動産権にサインすることが義務づけられている。WRCETLE は、大学教員と学生用の2種類の資金を用意している。大学教員には、10,000ポンドのエンタープライズのためのカリキュラ開発プロジェクト資金 (Enterprise Curriculum Development Project Funds) を得る機会が提供されており、エンタープライズや起業家 (Entrepreneurship) の新しいカリキュラムを設置したり、既存のカリキュラムにエンタープライズの内容を加えたりするなどのカリキュラム改善への資金として提供されている。この主な使い道としては、新しい学習教材の開発や既存の教材にエンタープライズの要素を加えることが奨励されている。現在、実施されているコースは、生物学部によるバイオロジー・テクノロジー・ファシリティー (Biology Technology Facility)、音楽学部によるエンタープライズ・イン・ミュージック (Enterprise in Music)、哲学学部による批判的思考力 (Critical Thinking)、社会政策と社会福祉学部によるボランティア体験からの学習 (Learning from Voluntary Placement) である。

一方、学生には、起業のためのスキルと資金を得る機会が提供されている。それは、ヨーク起業家クラブ (York Entrepreneurship Club) である。2007年の評価機関 SQW によ

るレポートの中で高く評価されたクラブの一つであり、学生の起業を支援している。スキルは、「ヨーク賞」プログラム、インターンシップやボランティア活動等を通して向上させることが推奨されている。この他に、次の2つの方法によって資金獲得の機会が与えられている。一つは、WRCECtleによる支援である。この額は少なめであるため、起業家としての成功を願う学生は、他のリソースからも資金調達することが必要となる。WRCECtleの資金を獲得するために、学生は、プロジェクトの詳細と他のリソースから得られる資金繰りを説明することが要求される。二つ目の手段は、プルーフ・オブ・コンセプト・ファンド(Proof of Concept Fund)である。この資金の目的は、資金獲得までのプロセスを通して、学生のエンタープライズに対する基本概念、いわゆる、起業家としてのアイディアを育成し、資金の実践的な支援を行いながら、起業の実現可能性を高めていくことである。初期の提案の段階で市場における需要が高いと判断されたプロジェクトには、250ポンドから1000ポンドが提供される。現在では、このクラブによる起業に成功し、活動を継続している子会社も少なくない。テキストベースの劇場であるボックス・オブ・トリックス・シアター・カンパニー(Box of Tricks Theatre Company)、クラフト店の(Crafters Companion)、イタリアンアイスクリームショップの(La Cremeria)、栄養サプリメントの会社(Q-Sprots)、ヨークのポイントカード会社の(York VIP)などがある。開始当初は、参加人数が少なかったが、年々、増加しているという。

2008年度の学生によるプログラムへの評価は高く、アカデミックな学習とエンタープライズとの関連性について肯定的な評価を得た。例えば、英文学部のモジュールの一つである文学とエンタープライズでは、文学の学習と同時に、出版関係者を訪問する等の交流が図られた。この活動とセミナーを通して、学生は、本に関する業界の仕事を学ぶとともに学生同士の交流も含めて、多様な考え方や知識とスキル、さらに将来の職業へのアイデアを広げていくことができた。このモジュールは、本来、職業とイギリス文学学習との関連性を見出せない学生が多いことから作られ、文学、文化ならびに市場との複雑な関係を探求ことが目的とされた。

(4) ボランティア活動

ボランティア活動は、伝統的にヨーク大学で実施されている活動であり、学生と大学職員の参加が強く奨励されている。キャリアサービスのコミュニティーとボランティア課(Community and Volunteering Unit、以下CAVUと略)が運営を担当しており、ヨークで実施される多様なプログラムを手掛けている。ボランティア学生は、活動中に経験を振り返る機会が提供されるとともに、活動時間に応じたスタンプを収集することによって、若者ボランティアチャリティ(Youth Volunteering Charity)から各種の資格が授与される。プログラムへの参加と活動のプロセスは次の通りである。はじめに、キャリアサービスに登録すると規則的にボランティア活動を紹介するメールが送付される。相応しい活動プログラムが見つからない場合は、CAVUのデータベースにアクセスし検索することが可能であり、スタッフに相談することもできる。一度、選択すると、ボランティア組織の詳細が提供される。学生は、ミーティングのアポイントメントを取り、計画会議等に参加する。

この会議でハンドブックが提供され、その中に活動時間を記録しスタンプを収集する。50時間活動すると、ボランティア 50 賞 (Volunteer 50 Award) が提供される。100 時間活動し地域への影響力を証明することでボランティア・インパクト賞 (Volunteer Impact Award) が授与される。さらに 200 時間活動すると 200 時間賞 (200 hours Award) が提供される。時間にかかわらず、ボランティア活動を継続した参加者には、感謝証 (Thank you certificate) が授与される。これらの活動は、ヨーク賞ならびに大学における個人的発達の証明として認証されている。また、スチューデント・ユニオンやミレニアム・ボランティア (Millennium Volunteer) において実施したボランティア活動も加算することできる。

次に、トップ 20 として掲げられているプログラムのいくつかを紹介する。これらは、2 つに分類されている。一つは、学生が主として運営する活動である。例えば、YSIS (York Students in Schools) は、ヨークの小学校と中・高等学校において 10 週間のボランティア活動を行うプロジェクトであり、SWAP (Student working alongside prisoners) は、ヨーク市にある若者犯罪者課において、チームワークやアイデンティティ等の様々なライフスキルのワークショップを学期に 4 回提供するプロジェクトである。二つ目は、地域の慈善団体ならびにコミュニティ・グループが主に運営する活動である。自然保護に関連した実践的な活動である学校の自然公園の工事や歩道工事を行う BTCV、自然環境についての学習を促す OPAL (Open Air Laboratories)、5 歳から 11 歳の子どもにクラフト作りや読み語り等を通して支援するファンフィッシャー (Funfisher)、住居のない人々に一時的に住居や食べ物を提供しサポートするアーク・ライト (Arc Light)、楽屋スタッフや宣伝スタッフ等を通して舞台づくりに協力するジョセフ・ローンツリー・シアター (Joseph Rowntree Theater) 等がある。

5. 特徴と課題

ヨーク大学のキャリアサービスの支援と活動プログラムの特徴として 4 点を挙げることができる。

一つは、多様な背景と経験を持つ学生の増加や学士コースの特徴の変化等から、個人に適したプログラムを提供しているという点である。「ヨーク賞」プログラムやボランティア活動、エンタープライズにおいて、いずれも多種多様な情報提供とスキル獲得の機会を学生に与えている。

二つめには、エンプロイイヤビリティ向上という共通の柱を学部とキャリアサービスで共有しているが、伝統的なアカデミックな教育の質については、学部が維持し、キャリアサービスは、課外活動においてスキル向上の機会を提供することでエンプロイイヤビリティの向上に大きな役割を果している。その一方で、エンプロイイヤビリティ向上という柱は、リエゾンとなるスタッフの設置とヨーク大学の強みである指導教官システムの活用によって共有され、効果を上げている。

三つめには、キャリアサービスのプログラムが雇用側と学生の声を反映しているという点である。数年前までは、キャリアサービスがプログラムを一方的に作成提供し、協力の

得られる雇用者を探すというパターンであった。しかし、近年は、雇用側が積極的にプログラムに参加したり、学生の意見にもとづく内容が作成されたりするという変化が起こっている。

四つめに、PDP ならびにプログラム活動において、学生が自己の経験を振り返り、考えるというプロセスが非常に重視されているという点である。

キャリアサービスの支援と活動プログラムは多くの利点をもつと考えられるが、エンタープライズにおいて、人文系の職員に資金獲得の機会を優遇しているが、その多くが学部以外の仕事を希望しないという^{vi}。エンプロイヤビリティ関連の新規プログラムの推進は、容易ではないようだ。その主な理由は、エンプロイヤビリティ向上関連のリサーチ等の貢献が個人の研究関連活動よりも高く評価されないことから、大学教員が個人の研究にエネルギーを注ぐ傾向にあるからである。新規プログラムの開発や革新への教員のモチベーションの向上と時間の確保が課題としてあげられる。

以上のことから、問題点は指摘されるが、ヨーク大学のキャリアサービスの支援と多様な活動プログラムから学ぶことは多いと感じる。

2009 年の大学全体計画における「雇用者エンゲージメント戦略」の導入により、一層エンプロイヤビリティ向上への活動を広げることが学部とキャリアサービスに要求されたことから、この強調がどのような形で大学のカリキュラムに影響していくのか等について今後もヨーク大学の動向に注目し研究を進めていきたい。

【注】

i) 稲永由紀(2008)「英国高等教育におけるエンプロイヤビリティと就業経験の強調－一元化された「多様な」大学と大卒者の「就業機会保障」－」日本インターンシップ学会編『インターンシップ研究年報』第 11 号 1－7 頁がある。

ii) アカデミック・コーディネーターは、学部と大学の管理運営委員会との連結を強めるために設置されている。

iii) 筆者が 2009 年 3 月にエンタープライズのディレクターに実施したインタビューにもとづいて執筆している。シニアマネージメントスタッフは、学長、副学長、ティーチングと学習の副課長、副研究課長、対外関係と登録担当課の副課長で構成されている。対外関係と登録担当課の副課長が責任者である。

iv) 筆者が 2008 年 2 月と 10 月、および 2009 年 3 月に「ヨーク賞」担当者とエンタープライズのディレクターに実施したインタビューをもとに執筆している。

v) 筆者が 2008 年 2 月に「ヨーク賞」担当者とエンタープライズのディレクターに実施したインタビューをもとに執筆している。

vi) 筆者が 2008 年 10 月と 2009 年 3 月にヨーク大学の「ヨーク賞」担当者とエンタープライズのディレクターに実施したインタビューにもとづいて執筆している。

【参考文献】

National Committee of Inquiry into HE, 1997, "Higher Education in the Learning

Society. Summary Report ” London
The University of York, 2008, “Communications Office ”
(<http://www.york.ac.uk/admin/pressreleasae/st2008.htm>).
The University of York. Planning Office. “Corporate Plan 2000-2004 ”
The University of York, 2003, “Learning and Teaching Strategy
2003-2008 ” .(<http://www.york.ac.uk/admin/aso/teach/strategy2003.pdf>)
The University of York, 2003, “The Management Quality and Standards in Teaching
and Learning” (http://www.york.ac.uk/committee/teaching/policies_and_procedures/quality_and_standards_frameworke.wpd)
The University of York, 2008, “Careers Service Employability Skills ”
(<http://www.york.ac.uk/careers>).
The University of York, 2008, “Careers Service ” (<http://www.york.ac.uk/careers>).
University of York, “Undergraduate Prospectus 2004,” 2004.00.2-3.
稻永由紀, 2008「英国高等教育におけるエンプロイヤビリティと就業経験の強調－一元化
された「多様な」大学と大卒者の「就業機会保障」－」日本インターンシップ学会編『イ
ンターンシップ研究年報』第 11 号 1 – 7 頁

(文責 : Junko Ladd)

北海道教育大学 －卒業生から企業・行政までの広範囲の調査－

日時：平成 21 年 3 月 6 日（金）9：30～11：30

場所：北海道教育大学理事（総務・教育担当）室

対応者：後藤嘉也氏（理事（総務・教育担当））

大久保和義氏（理事（学生支援・国際交流担当）、キャリアセンター長）

訪問者：吉本圭一（九州大学）、亀野淳（北海道大学）、稻永由紀（筑波大学）

1. 大学の概要

昭和 24 年 5 月に北海道学芸大学として設立される。札幌、函館、旭川、釧路、岩見沢の 5 校からなり、学生数約 6 千人、教員約 4 百名、職員約 2 百名（いずれも大学のみ）である。平成 18 年度の教育組織の再編により、教員養成課程を札幌校、旭川校、釧路校に集約し、函館校（人間地域科学課程）、岩見沢校（芸術課程及びスポーツ教育課程）はいわゆるゼロ免課程となっている。

2. 調査実施について

2-1 調査内容

平成 19 年 11 月に、同大学の教育内容及びキャリア支援の改善のために、平成 16～18 年度の卒業生（配布 1,631 名、回収 432 名（回収率 26.5%）及び卒業生の就職先（配布 932 機関、回収 427 件（回収率 45.8%）にアンケート調査を実施した。なお、卒業生については、教職就職者と官公庁・企業就職者、就職先については、学校、官公庁、企業に分けて別々のアンケート調査票を作成した。

上記のように、就職先によりアンケート調査票が分かれているのは、教員以外の就職も増加していることから就職先の違いによる詳細な情報を得るためにである。

質問内容は、卒業生については、①教育プログラムの満足度、②業務遂行上必要な知識・能力、③キャリア支援・就職支援に関する充実度など、就職先については、①卒業生の勤務状況に対する満足度、②重要な資質・能力と卒業生の達成度、③キャリア教育・就職支援活動に対する認知度や要望などである。

2-2 調査実施に至る背景、議論

中期計画の点検評価とキャリア支援の具体策について検討することを目的に実施した。特に、教員以外の就職も増加し、教育大で学んだことが就職先の職場でどう活かされているのかを明らかにすることにより具体的なキャリア教育や就職支援のあり方を検討す

るための資料とすることも大きな目的の一つであった。

なお、16～18 年度の卒業生を対象としたのは卒業生の住所の把握が困難であったからである。

これまでにも、卒業式当日に卒業時のアンケート調査を平成 16 年度から実施しており、その結果は同大学のホームページ上でも公開している。

2-3 実施体制

教育改革及び学生支援担当の学長室の担当教員（担当理事と各キャンパス 1～2 名程度の教員で構成）と職員（学部部長と教務課職員）が本調査を担当した。

調査の実施に当たって、中心的な役割を果たしていたのは 2 名の教員であり、また、アンケート調査票の大枠は函館校の教育学専攻の教員が作成したものである。また、就職支援の部分は学生支援担当の教職員が中心に作成した。アンケート調査票は 2～3 カ月程度で作成した。

平成 16 年度から、卒業式当日に卒業時のアンケート調査を実施しており、その調査を参考にした。

3. 調査結果の活用方法

3-1 調査結果の集計と対象者へのフィードバック方法

卒業生については、教職就職者と官公庁・企業就職者別、就職先については、学校、官公庁、企業別に単純集計を実施しているのみであり、今後詳細な集計と分析が必要であると認識している。

対象者へのフィードバックについては、今後どのように行うか現在検討中である。

3-2 教育改善、就職支援への活用方法

卒業生に対するアンケート調査結果から、教育プログラムに対しては、一定の満足度及び評価が得られたものとなっており、これまでの教育プログラムに対して一定の評価が可能であるが、教員就職者については、「地域・保護者などとの人間関係調整能力」「生徒指導に関する実践的指導力」に関する達成度がやや低くなっている。平成 18 年度から導入した教員養成カリキュラムや教育フィールド科目などの実践的なカリキュラムの必要性を裏付ける結果となっており、今後、一層のカリキュラム改革にも活用する予定である。

また、キャリア支援、就職支援についても一定の評価を得ているが、平成 18 年度よりキャリアセンターを設置し、就職支援・進路指導を行っている。また、平成 20 年度より「キャリア開発の基礎」（2 年生対象）を開講し、就職の心構えや社会に出るに当たって必要な能力などについての理解を深めるなどの努力を行っている。同大学の卒業生は、教員だけではなく、官公庁や民間企業への就職者も多数いることから、今回の調査結果も踏まえ、キャリア支援、就職支援の拡充を図る予定である。

さらには、学生に対するキャリア支援については、教員も積極的に対応すべきであると考えており、低学年から指導教員を定めている。

また、教育に関する電子ポートフォリオの導入についても検討している。

4. 今後の実施予定や検討課題

卒業生、企業に対する調査は3年に1回程度を考えている。また、今回の調査では、18年度に実施したカリキュラム改革の点検もある程度は可能であるが、実際にカリキュラム改革後の卒業生を対象にすることによって、その評価も明確になるとを考えている。

卒業生調査や就職先調査の結果からディプロマポリシーを明確に示すことも可能になると考えている。

(文責：亀野 淳)

金沢工業大学 －学士課程教育とエンプロイアビリティ育成－

はじめに：本稿の趣旨

我が国の高等教育においては、「エンプロイアビリティ」という概念そのものが依然として馴染み深いものとは言えない。例えば英国のように、エンプロイアビリティの育成に関し、政府や大学関係者等を挙げた全国的・組織的取組が行われてきているわけではない。しかし、個々の大学を見れば、たとえエンプロイアビリティという言葉は使っていなくとも、実質的に同様の取組が行われている大学は、もちろん日本にも存在する。本稿で採り上げる金沢工業大学も、こうした大学の一例である。

ここで明確にしておかなければならないのは、同大学においては、その取組についてエンプロイアビリティという言葉は使われていないことである。あくまで筆者の判断と責任により、エンプロイアビリティ概念を当てはめて、同大学の教育実践の分析を試みる、という点をお断りしておきたい。

本稿は、同大学を訪問して行ったインタビュー調査、その際に入手した資料、ホームページ上の情報等を総合して、エンプロイアビリティの視点から、同大学の学部段階の教育すなわち学士課程教育について分析し、考察を行うものである。これにより、日本の大学教育の文脈におけるエンプロイアビリティ概念の有効性の検証に役立てるとともに、エンプロイアビリティ論の今後の展開にとって有益な知見と課題の抽出に努めたい。

1. 調査の概要

金沢工業大学へのインタビュー調査の概要は、以下の通りであった。

- (1) 調査日時：2008年3月14日（金）午前9時30分～12時
- (2) 調査者：大森不二雄（熊本大学）、稻永由紀（筑波大学）
- (3) 被調査者：宮本紀男（金沢工業大学教授・工学基礎教育センター所長）及び
村井好博（金沢工業大学企画調整部長）
- (4) 調査の場所：金沢工業大学工学基礎教育センター会議室

2. 調査結果

2.1. 大学の概要

同大学の概要に関し、入手資料及びホームページ等から確認できる客観的なデータにより、本稿の研究目的にとって必要最小限の基本情報を整理すると、以下の通りである。

- (1) 開学：1965年4月1日（工学部機械工学科及び電気工学科設置）
- (2) 学部構成及び学生数等（2007年5月1日現在）

	工学部	環境・建築学部	情報フロンティア学部	合計
入学定員	700	480	300	1,480
志願者数 (2007)	4,058	1,828	1,039	6,925
入学者数 (2007)	879	487	294	1,660
収容定員	2,800	1,920	1,200	5,920
在籍数(実員)	3,283	2,030	1,274	6,587

- (注) 1. 2008 年度より、工学部（入学定員（以下、同）580）、環境・建築学部（300）、バイオ・化学部（160）、情報学部（440）の 4 学部体制に改組されている（総入学定員 1,480 は変わらず）。
2. 学部のほか、大学院（博士前期・後期課程）として、工学研究科（10 専攻）及び心理科学研究科（臨床心理学専攻）がある（大学院学生数は 387 人。詳細省略）。

(3) 教員数（2007 年 5 月 1 日現在）

	教授	准教授	講師	助教	助手	計
工学部	63	13	12	0	0	88
環境・建築学部	36	15	7	0	0	58
情報フロンティア学部	18	13	6	0	0	37
基礎教育部	51	20	41	1	0	113
大学院	22	0	0	0	0	22
研究所等	17	1	2	0	2	22
合計	207	62	68	1	2	340

(注) 講師以上の教員の 52%が企業等経験者（大学・教育関係以外の経験者）である。

教授に限ると、企業等経験者の比率は 56%となる。

(4) 法人職員数（2007 年 5 月 1 日現在）

区分	事務職	技術職	専門職	計
人 数	176	43	12	231

(注) 学校法人金沢工業大学は、金沢工業大学のほか、金沢工業高等専門学校を設置している。

2.2. 教育上の特色

(1) 「教育付加価値日本一」を標榜

「人間形成・技術革新・产学協同」を建学の綱領に掲げて 1965 年に開学された金沢工業大学は、近年では「教育付加価値日本一」を目指し、例えば朝日新聞社の大学ランキングにおいて、全国の大学の学長による評価として教育面で 3 年連続 1 位となるなど、全国的に知られる存在となっている。同大学のいう「付加価値」とは、入学時点と卒業時点での学生の実力の差分であり、入学後卒業までに大学で身に付けた力ということになる。2003 年度から 2007 年度までの 5 年間に、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色 G P）」に 3 件、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 G P）」に 5 件の取組が採択されている。

(2) 「総合力＝学力×人間力」と定義

同大学は、「自ら考え行動できる技術者の育成」を教育目標として掲げ、そのために身に付けるべき力を「総合力＝学力（知識・技能）×人間力」と定義している。「工学基礎教育センター」をはじめとする手厚い学習支援体制及び自学自習環境並びに厳格な成績評価等によって、「基礎ガッチャリ型の学力」の徹底を図るとともに、目標意識や主体性を含む「前向きマインド」を持って人間的成長を遂げるよう促す「夢工房」（次項参照）等の仕掛けを、正課と課外の両面にわたる教育によって目指している。同大学の経験によれば、「学力」と「人間力」は、相互に関連しながら伸びる場合が多いという。

(3) 学外との連携によるプロジェクト学習

Project Based Team Learning (PBTL) 科目である「工学設計」（2008 年度より「プロジェクトデザイン」へと呼称変更）を正課のカリキュラムの支柱として据えるとともに、その課外版として「夢考房」を設け、学生による提案プロジェクトに対して他流試合の奨励と資金・設備面の支援を行っている。产学連携・地域連携等によってリアルワールド（外の世界）と関わることで、プレゼンテーションやコミュニケーション能力を含む人間力の面で成長するのみならず、基礎学力の必要性や不足に気付き、学力面での学習への動機付けが高まるなど、相乗的な効果があるという。

(4) 自学自習を支援する組織的な教育体制

正課と課外の学習や活動を支援する以下の 6 つの教育支援センターが設置され、年間延べ約 17 万人の学生が課外学習に利用している。これらのセンターは、大学とは独立した「教育支援機構」という法人組織の構成組織とされている。教育支援担当副学長を委員長とする運営委員会により運営されている。支援センター連絡会を毎月開催し、P D C A サイクルを回しているという。

[「教育支援機構」下の 6 センターの機能等]

- ライブラリーセンター（図書館）：2001 年に開設した「学習支援デスク」は、専門基礎学力増進プログラム（専門基礎科目の自学自習支援）、文章作成能力向上支援等を実施。
- 情報処理サービスセンター：1995 年度から全学生にノートパソコン所持を義務付け。キ

キャンパスに加え学生アパートにも光ケーブルを敷設。ポートフォリオシステムを整備。

- 工学基礎教育センター：2000 年度に設置。専任教員 16 名及び授業も担当する教員 15 名の計 31 名が、支援職員と協力しながら、オフィスアワーを常設し、学生からのどんな質問や相談にもいつでも対応できる体制を整え、気軽に個別指導を求められるオープンな雰囲気を作り出している。数学、物理学及び化学の独自テキストを作成し、個人指導やグループ指導を行っている。勉強の仕方も教える。2006 年度は延べ 15,784 人の学生が利用。
- 工学設計教育センター：「工学設計」科目（1, 2, 4 の各年次に開設）及び「夢考房」（課外活動）を運営。「工学設計」においては、テーマの設定、チームの編成、情報収集、解決策の提案、解決策の設計・制作、分析・評価、プレゼンテーションというプロジェクト学習（PBL）としての一連の学習プロセスを経験する。これにより、ニーズ把握能力、情報収集・分析能力、自主的な学習・思考・行動能力、習得した知識の応用能力、プレゼンテーション能力、グループ討議能力等を獲得するという。「夢考房」においては、学生のアイデアを形にできる、モノづくりを自由にできる環境を整え、年間 330 日開館、夜 9 時まで利用サービスを提供し、専任の技師 14 名が企画・運営、安全教育の実施、プロジェクト活動の推進に当たっている。夢考房の活動成果の例としては、NHK 大学対抗ロボットコンテスト国内優勝（2007 年）、ロボカップ世界大会準優勝（2003 年、2004 年）、JAVA チャレンジ優勝（2006 年。決勝では東大と対戦）等がある。通常の教室での授業を「畳水練」、工学設計を「プールで泳ぐ」、夢考房を「海で遠泳」とたとえ、実社会に強い技術者の育成の中核に据えている。
- 自己開発センター：様々な資格の取得を支援。取得資格の例としては、危険物取扱者、バイオ技術者、情報処理技術者、CG クリエータ検定、国家公務員 II 種など。
- 基礎英語教育センター：2002 年度に開設。基礎的な英語力を確実に身に付けることを支援するため、入学後の英語力診断、少人数授業、頻繁な学力確認等を実施。

さらに、自習室をはじめとする自学自習の場の利用学生数は、年間延べ約 120 万人に達する。年間 150 日の授業と残り 150 日の課外学習の充実を図り、「1 年 300 日の学習活動」ができる教育支援体制を確立しているとする。「24 時間自習室」（240 席）では足りなくて、食堂でも自習するなど、学期中の平日は、至る所で学生が勉強している、日本の大学としては珍しい光景が見られるという。その原点には、1991 年 4 月から行った米国大学視察調査（延べ 15 回）に 170 人を超える教職員が参加した際、視察先のどの大学でも目撃した多くの学生が勉強している姿がある。同大学の現状は、これを日本風に実施できる形でアレンジしてきた成果であるという。

2.3 教育の成果：入学してくる学生像と卒業生の進路等

（1）学生像とそれに対応した教育支援

同大学の在学生は、地元の北陸が最も多いが、東海、甲信越、関西からの学生も少なくなく、全国47都道府県の出身者が在籍している。同大学の学生の平均的な持ち味としては、素直で従順、まじめで誠実、粘り強い反面、厚かましさが不足し、自己主張が得意でない、という。「皮は硬いが、あんこは旨い。」と評することができるというのである。

こうした学生たちに対して、好きな事から始めて自信を持ち（広がりは後からついてくる）、自らの得意能力に気付き、達成感を味わいながら主体的な行動・学習に取り組める人材へと成長できるよう、正課と課外の各種の仕掛けを通じて学習活動を支援しているとする。「自信」と「気付き」を重視し、特にコミュニケーション能力の育成には努力してきたという。

(2) 進路指導・就職支援

約60名（各学科5名程度）の進路アドバイザーティー教員を中心に全教員（教授の56%は企業等経験者）が行う進路指導、進路ガイド基礎（1年次）及び進路セミナー（3年次）によるキャリアデザイン教育、東京はじめ主要5都市で企業人事担当者等を対象に開催する人材開発セミナー（2006年度の参加企業総数は約1,700社、参加者数は2,184人）、保護者組織の支援による就職支援無料バスの運行（2006年度は、東京へ50便で1,071人、大阪へ26便で343人、名古屋へ24便で254人が利用）等の取組を行っている。全学的な進路指導・就職支援を企画・運営する組織は、「進路開発センター」という事務組織である。

(3) 就職状況

2007年3月卒業生（学部）1,522人のうち、進学者等を除く就職希望者1,320人の中で1,317人が就職内定し、就職率は99.8%である。就職内定者のうち、上場・大手企業（3億円以上、300人以上）及び公務員に内定している者が829人（62.9%）に上る。同大学の目指す「教育付加価値日本一」の具体的な裏付けとなるデータである。

同大学の就職内定状況から見ると、社会が求める人材像は、同大学の定義する「総合力＝学力×人間力」によって決まると考えられるという。掛け算（×）であって、足し算（+）ではないので、「学力」と「人間力」のどちらかがゼロになると、「総合力」もゼロになってしまう。同大学においても、学業成績優秀ながら内定がなかなか取れない学生も存在する一方、技術系とはいえ、対人関係能力やコミュニケーション能力が重視される企業の採用動向において、自己PRが得意とは言えない平均的学生像を持つ同大学の成果は注目すべきものと言えよう。

3. 考察：エンプロイアビリティ論の視点から

3.1 英国発のエンプロイアビリティ概念の有効性

英国の高等教育におけるエンプロイアビリティ育成への取組と関連研究の成果については、別稿（大森 2009近刊）において詳細に論じている。1990年代以降の英国におけるエンプロイアビリティ論の背景としては、同時期に進行したグローバル化や知識社会の到来など

の環境変化や拡大し大衆化する高等教育の変貌があり、エンプロイアビリティ育成の取組は、これらを踏まえ、教育の雇用・経済に対するレリバンスの確保と多様化した学生に対する教授・学習の改善を併せ持った対応である。そこでは、エンプロイアビリティをアカデミックな大学教育と対立的に捉えたり、外側にあるものとして位置付けるのではなく、学問を基盤とした大学教育におけるエンプロイアビリティ育成の可能性や、カリキュラム全体あるいは教育プログラム(課程)の課題として捉える視点の重要性、といった知見が得られている。

このような英国のエンプロイアビリティ論の視点から、金沢工業大学の学士課程教育に関する調査結果を考察すると、以下の通り、同大学の事例においては、概ね英国発のエンプロイアビリティ概念の有効性が確認できる。

3.2 学問を基盤としたエンプロイアビリティ育成

英国におけるエンプロイアビリティ論の専門家と目されているナイトとヨークによれば、「良き学習を支援するという目標とエンプロイアビリティを高めるという目標の間には相当程度の重なり合いがある」(Knight & Yorke 2004, p. 196) という。したがって、「エンプロイアビリティと良き学習は、緊密に繋がったものであり、相対立する構成物ではない。」(Yorke & Knight, 2004, p. 2) ということになる。

「工学基礎教育センター」等の学習支援システムにより基礎学力を徹底的に鍛えるとともに、正課の「工学設計」科目（2008年度より「プロジェクトデザイン」科目）や課外の「夢考房」において学外との連携を含むプロジェクト学習によって修得知識の応用能力や人間力の向上を図ることによって、良好な就職状況を含む成果を挙げている金沢工業大学の教育の在り方は、まさに良き学習とエンプロイアビリティの重なり合いと繋がりを表すものと言えよう。

3.3 認知的・非認知的要素の統合

全英的な取組において、「エンプロイアビリティ」は、「職を得て選択した職業において成功する可能性を高めるアチーブメント（スキル、理解及び個人的属性）のセットであり、本人、労働力、コミュニティ及び経済に恩恵をもたらすもの」と定義されている(Yorke 2004, p.7)。この定義は、エンプロイアビリティ向上のためのカリキュラム開発と知見改善を目的とする調査研究プロジェクト（Skills *plus* project）において構築された「USEM モデル」というエンプロイアビリティ概念をナイトとヨークが定式化したものである。「USEM」とは、'Understanding'（理解）、'Skillful Practices'（巧みな実践）、'Efficacy beliefs'（自己効力感）、'Metacognition'（メタ認知）の頭文字を繋いだものである。相互に連関し作用し合うこれら4領域がエンプロイアビリティの育成に影響する構成要素であるという（Knight & Yorke 2004, p.12&p.37）。

金沢工業大学の教育実践において重視される「基礎ガッチャリ型の学力」「実社会に強い技術者」「自信」「気付き」というコンセプトは、概ね上述の「USEM」の4領域に対応している。そして、「学力」と「人間力」が相互に関連し合いながら伸びていくと見る同大学の

成長観・人材観は、USEM モデルが「認知的」及び「非認知的」な諸要素の統合的把握を試みていることに適合的である。

3.4 トータルな教育プログラム

英国においては、エンプロイアビリティの育成をカリキュラム全体あるいは教育プログラム(課程)の課題として捉える視点の重要性が明らかにされている。ナイトとヨークは、「学生の獲得するものを最大化するには、ジェネリックな能力は、アカデミックな文脈の中に位置付けられなければならない」(Knight & Yorke 2004, p. 197) とする。また、「エンプロイアビリティのための支援は様々な方法によりカリキュラムへ組み入れることができる。」(Yorke & Knight 2004, p. 2) としつつ、「エンプロイアビリティのいくつかの側面は発達に時間がかかるので、教育プログラムの個々の構成要素(モジュール)よりも、プログラム全体でのエンプロイアビリティ育成に焦点を当てる必要がある。」(ibid, p. 2)とも述べている。カリキュラム全体モデルが最大の効果を持つ可能性があるが、高等教育機関の置かれた状況やコスト等にかんがみ、現実的な選択肢としてモジュール・モデルや外付けモデルをも選択肢として示しているのである (ibid, p. 11)。

金沢工業大学のケースは、正課の教育課程と課外の教育・学習支援の両面にわたる組織的な教育の仕組み・仕掛けとして、基礎学力の徹底と実践的な応用力や人間力(情意的側面や行動性向)の涵養をシステムティックに実現しようとするものであり、ヨークとナイトが推奨する教育プログラム全体でのエンプロイアビリティ育成に近いものと言えよう。日本の多くの大学では、インターンシップ、キャリア教育など、単位認定対象にはなっていても、実際には外付けで細切れの付加的要素として、エンプロイアビリティ関連の取組が行われている現状にある。こうした現状を踏まえ、既に大森(2007)においてエンプロイアビリティを育成する教育プログラム開発への組織的アプローチの必要性を指摘したところであるが、金沢工業大学の場合は、こうした組織的でシステム的なアプローチが採られていると考えられる。

3.5 新たな知見の示唆：教育の質保証のための戦略的経営の必要性

金沢工業大学の事例は、管見の限り、英国のエンプロイアビリティ論において指摘されていない、新たな知見をも示唆するものである。それは、エンプロイアビリティ育成に繋がる良き学習の確保、すなわち、教育の質保証のためには、システム的なアプローチによる教育・学習支援への組織的な取組を可能にする戦略的な経営が必要と考えられることである。

同大学の場合、各学部の外側にある各種「センター」が、大学とは独立した法人組織としての「教育支援機構」に組織化され、システムティックな教育・学習支援の取組において中心的役割を果たしている。このことと関連し、同大学の特色ある教育の取組の多くは、課外の教育活動・学習支援として位置付けられている。

このような組織上・教育上の位置付けは、見方によっては、教授会の意思決定を経ないと物事が動かないという、日本の多くの大学の在り方を迂回する工夫とみなすこともでき

よう。同僚制的な大学運営は、それを擁護する立場からは、ニュー・パブリック・マネジメント（NPM）的な大学改革の潮流の中で危機に瀕していると危惧される一方、批判的な立場からは依然として根強い教授会自治・学部自治とみなされているが、こうした同僚制的な教学運営と戦略的経営による組織的な教育の質保証との潜在的な緊張関係を示唆するものと言えよう。

研究大学とみなされる銘柄大学においては、学部（部局）自治が根強い上に、教員の研究志向が強く、金沢工業大学のような組織的な教育への注力（個々の教員にとっても並大抵の注力でないことは確かである。）は極めて困難であろう。金沢工業大学において取り組まれているようなシステムティックで組織的な教育・学習支援の在り方は、研究大学の学生には向いていない、などと漠然と否定し去られるかもしれない。しかし、それは、本当に論拠のある、正当化できる考え方であろうか。学問を基盤としたエンプロイアビリティ育成という視点は、研究大学にも適合するはずではないか、と考えることもできよう。

グローバル化する知識社会の中で、教育の雇用・経済に対するレリバנסの確保と学生に対する教授・学習の改善を求めるエンプロイアビリティ論は、今日の大学のマネジメント及び高等教育のガバナンスの在り方に対して、安易な解答を許さない難題を突き付けていると言える。

おわりに：研究の成果と残された課題

以上の通り、本研究において、金沢工業大学の事例調査の結果を分析し、考察したところ、エンプロイアビリティ概念の有効性が確認された。英国発のエンプロイアビリティ論の日本の大学教育の文脈への適用可能性を示す結果と言えよう。同時に、教育の組織的な質保証と戦略的な教育経営に関し、新たな知見も示唆された。

教育の組織的質保証と戦略的経営は、2008年12月24日の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」によって、全国の大学に課題として突き付けられた学士課程教育の構築と密接に関連するテーマである。同答申のいう学士課程教育の構築とエンプロイアビリティ論の連関について、本稿においてこれを採り上げる余裕はなく、残された課題である。

また、「教育付加価値日本一」を標榜する金沢工業大学の教育と学生に対する産業界等の評価は、言うまでもなく、一朝一夕に出来上がったものではないのであって、長年にわたる努力と成果の積み重ねによるものである。大学在学中の教育成果が重視されない日本の新規学卒者採用・就職活動の在り方が変わらない限り、同大学の事例はあくまで例外的なものにとどまるかもしれない。その意味では、日本の高等教育におけるエンプロイアビリティ育成の有効性は、そう容易に検証できるものとは言えない。特に文系の場合は、同大学のような工学系とは大きく様相を異にすることに留意が必要である。エンプロイアビリティ論については、こうした課題を含め、今後、幅広く精緻な研究が必要とされる。

【引用・参考文献】

Knight, Peter & Yorke, Mantz, 2004, *Learning, Curriculum and Employability in*

Higher Education, London: RoutledgeFalmer.

大森不二雄, 2007, 「知識社会に対応した大学・大学院教育プログラムの開発－学術知・実践知融合によるエンプロイアビリティー育成の可能性－」熊本大学大学教育機能開発総合研究センター『大学教育年報』第10号, 5-43頁.

大森不二雄, 2009, 「英国の高等教育とエンプロイアビリティ」吉本圭一編『柔軟性と専門性－大学の人材養成課題の日欧比較－』(高等教育研究叢書) 広島大学高等教育研究開発センター. (印刷中)

Yorke, Mantz, 2004, *Employability in higher education: what it is – what it is not*, Learning and Employment Series 1, York: Learning and Teaching Support Network.

Yorke, Mantz & Knight, Peter T., 2004, *Embedding Employability into the Curriculum*, Learning and Employment Series 3, York: Learning and Teaching Support Network.

(文責: 大森 不二雄)

静岡産業大学
－地域と協働した人材育成、学長のリーダーシップ－

日時：平成 20 年 3 月 11 日（火）10：00～11：30

場所：静岡産業大学 学長室（藤枝キャンパス）

対応者：大坪 檀 氏（学長）

訪問者：坂野 慎二（玉川大学）、稻永 由紀（筑波大学）

1. 大学の概要（含：学長経歴）

1994 年開学。現在は、経営学部（磐田キャンパス、経営学科・スポーツ経営学科）と情報学部（藤枝キャンパス、情報デザイン学科・国際情報学科）の、2 学部 4 学科。学生数 2,226 名（平成 19 年 5 月現在）、常勤職員数約 60 名、常勤教員数約 60 名、非常勤講師約 110 名。

学長である大坪檀氏は、カリフォルニア大学で MBA 取得後、（株）ブリヂストン入社。米国ブリヂストン経営責任者などを歴任後、199 年に静岡県立大学教授、学部長、学長補佐。1998 年より静岡産業大学教授を経て、2000 年 4 月より静岡産業大学学長。専門分野はマーケティング、経営戦略。

2. 地域と協働した人材養成

2-1. 公器としての大学 一理念、ミッション、県民大学宣言（参考を参照のこと）

静岡産業大学の「理念」および「ミッション」は、大坪学長が前職（静岡県立大学）在任中に将来構想委員長としてまとめた報告を元にしており、この報告の通りやらせてくれることを現職着任時の条件にしたところ、大筋で認めてくれたので、他大学（外国）のオファーを蹴って着任した経緯がある。

静岡産業大学にはそのほかに、「県民大学宣言」がある。大学自身は私学だが、私=誰かが所有しているという観点で見ると日本の私学の場合はオーナーがいない（いるように見えているだけ）ので、基本的に「私」は形態だけで、公益法人。したがって、大学は公器である。大学は社会の理解無しには成り立たない。社会が大学を自分のものだと思ってもらわなければならない。昔は評判が悪かったが、今は地域が積極的に支えてくれ、いつも地域と一体化している。基本的には「入ってきてください、その代わり、サポートもしてください」ということ。藤枝市は建物を造るときに二千万円だしてくれているし、磐田キャンパスに新しいスポーツ教育センターを作ったら、磐田市が二千万円（大学が二千万円）出してくれた。地域の人もつかえるし、地域の防災センターにもなっている。図書館も地域・社会にオープンである。磐田市と藤枝市の市民は入学金 10 万円を免除している。

また、静岡産業大学は静岡の産業のための大学、つまり、業を産む、市民にとって有用な価値を生む大学であると考えている。21 世紀を考えると、みんなでやらないと、とても

大学だけではいい人材は育成できない。地元の産業界のトップにそう呼びかけたら、スズキ自動車の鈴木会長を始め、みんな助けてやると言ってくれた。知事も応援団である。

2-2. 地域と協働した人材育成：冠講座、インターンシップ

「静岡産業大学の教育で世に誇れるもののひとつ」（静岡産業大学 2005）と学長が呼ぶのが冠講座である。冠講座とは、企業、行政機関等各種団体の名前を冠にした講座である。2001 年に始まり、2007 年現在、磐田キャンパスで 10 講座、藤枝キャンパスで 10 講座の、計 20 講座が開設されるまでになっている。寄付金で講座を企画・開設・運営する通常の寄付講座とは異なり、冠となっている企業等が直接講座を企画・運営する。学生は、最先端の企業情報や経験、知見などを学ぶことができる。参加企業等団体には、ヤマハ発動機、浜松ホトニクスといった、県内を中心とした企業を始め、藤枝市、磐田市、静岡県の自治体も名前を連ねている。非常勤教員が 110 名と多いのは、多くはこの冠講座による。

トップクラスの人が来て経営戦略などの話をするこの冠講座は、通常の授業同様、13～14 回講義が行われ、かつ試験も行われて単位認定がなされる。人数はだいたい 50 人くらいを目指しているが、本学は少人数教育なので、普通の授業でも 80 名以上は取らない。ただし、地域の人の受講は無料（ただし単位が必要な場合は有料）なので、人気のある講座はすごく人が多い。また、冠講座には担当教授を一人ずつつけており、研究対象にしてあるので、その教授には研究費もついている。冠講座をやっていて一番よかったのは、外からの風がうんと入ったこと。我々に対してそれまでは、先生の格好や授業中の態度、学生の態度などを注意してくれる人はいなかった。これがこの大学を非常に大きくした。

単位認定があるインターンシップも実施しているが、単位を与えるために、事前に受け入れ先を教授達が回って、この受け入れ先が適切かどうかを調査している。事前のオリエンテーションも、受け入れ先企業がみんな参加する発表会もやっており、学生が書いた報告を冊子にとりまとめて企業へフィードバックもしている。

2-3. 就職支援をめぐる地域との対話

人材育成だけではなく、就職にしても地元を志向する。学長自ら就職支援センターと一緒に静岡県の企業を回っており、率先して静岡県の産業 1000 社と連携するようしているという。ただし、学生の採用をお願いしにいくのではなく、どういう人が必要か、どういう会社になるのか、などについて聞きに行っている。

また、会社を大学（ホテル）へお招きして、ガイダンスをやっている（80 社）。直接大学の話をしながら学生を紹介する。単なる就職試験ではない。会社の考え方も理解することができるし、大学のことを理解してもらう機会でもある。そのノウハウをベースにして、離職者を対象とした研修を実施している（今年で 6 年目）。地域の人材センターである。

2-4. 地域の中から生まれた学問と学部：スポーツ経営学

本学のスポーツ経営学部は、ジュビロ磐田という地元サッカーチームとの関係がきっかけでやり始めた。この 4 月にできる新しい学科（スポーツ経営学科）の、「スポーツ教育」「スポーツ保育」（コース）は、もう商標登録している。スポーツ経営学部を開設してから 2～3 年のうちに、いろんな大学で本学のまねをして、スポーツ経営学をやり始めている。

2-5. 卒業生・地域からの評価

静岡産業大学では、地域の企業にアンケート調査を実施している。ただし、卒業生についてはまだ少ないので、やってもらっていない。なお、本学では学生には授業評価をやつてもらっているが、これは学生が企画・運営している。

2-6. 評議員

地域を含めて「ステークホルダー」の大学への関わりとしては、今度新しい評議員に卒業した留学生を入れる計画がある。卒業生や産業界の代表にも評議員にして、みんなに評価してもらう（2008年6月プレスリリース予定）。お願いがあつたら静岡県の再有力者はみんな喜んでやってくれる。また、本学の理事は全員、ほとんど外部の最有力者でもある。

3. 学長の学問・教育観 – 「大化け（おばけ）の教育」、知識創造型の学問

こうした取り組みには、学長の学問・教育観が背後にある。まず、学問は国家のためにやるのではなく自己実現のためにやるものであり、教育は自立して生きていくために本来はある。本学の教育の目的は全員を「大化け」させること。教えることを変えれば学生はできるようになる。教員は授業じゃないところでもきちんと指導するようになっている（ただし世話のやり過ぎはダメだと言ってある）。そして、この大学が教えることは、他の大学がやっていないことや、将来21世紀に役に立つ知識・スキル・考え方。だから、過去のことを教えて役に立たない。今の学者はクリエイティブでない。知識延長型ではなくて、創造型の学問。新しい学問分野を作ると言うことに意欲を感じている。

4. 訪問を終えて

大学の地域・社会貢献が第三のミッションとして特に意識されるとき、基本的には大学と地域・社会は相対するもの、相容れないものであることが前提になっていて、そこにどうやって関係性を取り結んでいくかが議論されることになる。だが、今回のケースは、大学の公益性を突き詰めると必然的に地域と一体化した教育研究活動を展開することになるという、それとは全く異なる発想から大学の活動が展開されるため、外部から見れば積極的に地域を活用している大学のように見えて、当の大学自身にとってはそれが極めて自然なこととして迎えられている。

その背後には、学界と産業界を行き来しながら豊富な経験を積み上げてきた学長の識見、地域ネットワーク、そしてリーダーシップがある。紙幅の都合で報告としては省略しているが、「共感」「共鳴」が大切にし、マスコミの活用や、がんばった教職員に現金（5万円前後）や研究費を渡すなどといった、インセンティブを与える仕組みも常に考えている。方針管理に基づいた大学経営（詳細は大坪2005を参照）にしても、基本は自己管理であり、現在よく話題になる教員評価のような厳密さとそれに伴う圧迫感はない。その意味で、本事例は、大学マネジメントの1つの好例でもある。

参考文献

- 大坪檀(2005)『大学のマネジメント・その実践－大学の再生戦略』学法文化センター
静岡産業大学(2007)『静岡産業大学 冠講座 5周年記念誌』

参考：静岡産業大学の「理念」「ミッション」および「県民大学宣言」

philosophy & mission 「理念」と「ミッション」

本学は、母体である静岡学園の建学の精神「孝友三心(服する心、感謝する心、全うする心)」を継承し、次の「理念」と「ミッション」を掲げ、21世紀を担う人材の育成に努める。

■理念

- 01 「東海に静岡産業大学あり」といわれる、小粒だがキラリと光る個性ある存在になる。新しい大学を創造し、大学の新しいモデルとなる。
- 02 豊かな教養と、高潔な倫理観、人間愛、社会に対する広い貢献意識を備えた職業人、社会のリーダーの育成に努める。21世紀の産業社会と国際社会の求める専門的職業教育を推進することに徹する。

■ミッション

- 01 時代の先端的な教育を行うことを第一義的な使命とする。そのために先端的な水準の研究を行う。教育の品質と生産性を重視し、教育の質を保証する場とする。入学するには易しいが卒業するには難しいとされる大学を目指す。
- 02 自由、自主自立、自己責任、自己管理を尊重するとともに、積極性、チャレンジ精神を重視し、行動とボランティア精神を求める。公平さ、フェアネス、合理、人間愛を常に判断の基準とする。
- 03 学ぶ学生の能力を偏差値に求めず、偏差値では測定できない個々の学生の潜在能力を引き出し、開発することを重視する。個々の学生の夢、志が達成、成就できるよう支援、サポートする。
- 04 教員には教育のプロに徹することが求められる。少人数教育、個別指導をモットーとする。
- 05 新しい教育法、教育内容、教育水準により本大学の社会的地位を確立する。
- 06 地域社会の発展に寄与する教育、研究、情報、アイディア、サービス等の提供を通じて広く社会貢献を行う。社会一般と積極的にかかわり地域と住民、産業とともに発展、成長することを目指す。
- 07 人種、国籍、性、宗教、年齢等をベースにした制度、支援策、教育、評価などを導入しない。
- 08 教職員、学生全員が本学に属することに誇りを抱き、各自が高い質の生活と人生を享受できるよう互いに努力する。

県民大学宣言

- 01 静岡産業大学は、静岡県、磐田市、藤枝市、県内有力企業と多くの市民の支援の下に誕生し、静岡県、地域社会の為に貢献し得る有為な人材を育成、輩出することを付託された公器であることを常に念頭に置き、高水準の先端的な教育研究活動を開展します。
- 02 静岡産業大学は、大学の有する人材、教育力、研究力、知識、情報、アイデア、施設を広く提供し、静岡県、地域社会の発展に積極的に貢献します。
- 03 静岡産業大学は、静岡県、地域社会の発展に必要な知識、情報、アイデア、新産業の創造に積極的に取り組みます。
- 04 静岡産業大学は、産官学民各層の連携のもとに協力し合いつつ行動します。
- 05 静岡産業大学は、県民や、地域社会の住民が誇れる大学、“東海で小粒だがきらりと光るユニークな存在”になるよう常に進化、発展に努力します。

出所：静岡産業大学ウェブサイト <http://www.ssu.ac.jp/outline.html>

(文責 稲永 由紀)

関西学院大学 －卒業生調査の先駆的な取り組み－

- ・訪問日時：2009年1月22日（木）13:10-15:15
- ・場所：関西学院大学 総合教育研究室（関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス内）
- ・対応者：
 - 総合教育研究室 谷田 薫技術員
 - 総合教育研究室 中條 道雄室長
 - 総合教育研究室 大西 和明事務長
 - 企画室 小野 宏主幹（基本構想担当）
- ・訪問者：吉本圭一（九州大学）、稻永由紀（筑波大学）、江藤智佐子（久留米大学）

1. 大学の概要

関西学院大学は、初代学長（第4代院長）C. J. L. ベーツが提唱したキリスト教主義に基づくスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を建学の精神とし、全人的教養および専門的知識・技能を修得させることを目標とする教育を行っている。1889年の創立時には神学部と普通学部の2学部だったが、現在（2008）は、神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、人間福祉学部、総合政策学部、理工学部の9学部に19,795名、11研究科（神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、人間福祉研究科、総合政策学研究科、理工学研究科、言語コミュニケーション文化研究科、経営戦略研究科）に786名、専門職大学院（司法研究科・ロースクール、経営戦略研究科）に669名の計21,250名の学生数を有する総合大学に発展している。1995年に総合政策学部が新設されたのを機に、神戸三田キャンパスと2つのキャンパスで教育が行われている。

2. 卒業生調査実施に至る背景と実施体制

2-1 在学生調査「カレッジ・コミュニティ調査」とプロジェクト

「総合教育研究室」（以下、総研）は1972年に開設された。総研は、大学付属の研究機関として、高等教育、教育工学、生涯学習にかかる事業を行っている。開設以来、総研が特に力を入れているのが、「カレッジ・コミュニティ調査」という在学生調査である。この調査は、総研創立直後の1976年以降、原則隔年で実施され、現在までに30年以上の調査実績を残している。調査項目には、「学生の生活状況（学生生活の充実度、正課活動への参加状況、教師との接触度、主要な活動の重要度評定、余暇の活用、重視している集団、情報収集の手段、コミュニケーション手段）」、「学生の価値観・考え方（進学動機、くらし方）」、「大学全体に対する総合評価（在学の有用度）」、「大学環境の認知（施設、教育、全体サービス、学生の学生認知など）」など多岐にわたっている。

総研では、調査事業だけでなくプロジェクトの公募事業にも取り組んでいる。総研は、設立当初から学際という言葉が無く、有志の教員が集まるサロン的な雰囲気でスタートし

ているため、積極的に教員が参加するという雰囲気が伝統的に残っている。その雰囲気を利用し、取り組んでみたいと思う事業をプロジェクトという形で実施している。プロジェクトは、高等教育、生涯学習など常に 10 本くらい行われており、公募研究と指定研究の 2 つのタイプが存在する。このプロジェクトから、授業開発、教材開発などの成果にもつながっている。授業関連プロジェクトでは、「教育開発シリーズ」も刊行されている。約 15 年刊行は続いたが、現在は行っていない。

総研の特徴は、フットワークの軽さである。総研が発信源となり、意欲的な事業は、現在、高大連携や地域連携事業にまで発展している。サロンという言葉に象徴されるように、何かやりたいことがあれば、すぐに集まれる組織として常に機能している。プロジェクト事業はいわば学内でのインキュベーター的役割を果たしている。

2-2 第1回(1999)、第2回(2005)卒業生調査の実施

2000 年に学院創立 111 周年を迎えるにあたり、その前年である 1999 年に第1回卒業生調査が実施された。在学生調査としての「カレッジ・コミュニティ調査」の蓄積の上に、卒業生による教育の再評価を求め、在学生教育のあり方、スクールモットー、教育理念などの検証を目的としていた。

調査の実施にあたっては、「カレッジ・コミュニティ調査」を担当していた総研研究室員を中心とするワーキンググループが設立され、その後、社会学部、就職部、校友課、21 世紀構想事務室からのメンバーも加わり 11 名で構成される「総研卒業生調査委員会」が総研内に設けられた。発起人は、故安保則夫名誉教授である。

第2回卒業生調査は、第1回調査年を起点に 5 年毎の卒業年層を対象とすることから、6 年目の 2005 年に実施された。2004 年から総研に指定研究プロジェクトを設置し、準備が始められた。プロジェクトメンバーとは別に、前回調査同様、学内の関連部署からメンバーを募り、教員・職員混成のワーキンググループが設置された。2005 年度からは、ワーキンググループのメンバーに研究員を加えた研究プロジェクトとして調査が実施された。

第1回、第2回卒業生調査の概要は以下のとおりである。

<第1回卒業生調査概要>

- ・調査時期：1999 年 9 月 30 日～10 月 30 日
- ・調査対象：1999 年 3 月の卒業年を基点に 5 年おきの卒業年卒業生を対象（1954 年～1999 年、10 階層）。対象実数 27,240 名から、それぞれの卒業年度の卒業生総数の四分の一を無作為にサンプルとして抽出し、6,351 名、23.3% のサンプルとした。有効回答数は、2,553 名、回収率 40.2%。

<第2回卒業生調査概要>

- ・調査時期：2005 年 7 月 1 日～8 月 30 日
- ・調査対象：2005 年 3 月の卒業年を基点に 5 年おきの卒業年卒業生を対象（1950 年～2005 年、12 階層）。対象実数 32,616 名から、それぞれの卒業年度の卒業生総数の四分の一を

無作為にサンプルとして抽出し、7,431名、22.8%のサンプルとした。有効回答数2,758名、回収率37.1%。

卒業生調査実施にあたっては、1回の調査で準備に1年、実施に1年、報告書作成に2年の計4年の時間を要する。また、1回の調査で500～600万円ほどの経費を必要とする。総研全体の予算は2000万円弱だが、プロジェクトに約半分の予算を割いているため、卒業調査の実施も限られた予算の中での実施を余儀なくされている。

3. 調査結果の教育改善への活用方法

第1回卒業生調査の概要版を『私の関学－卒業生からのメッセージ』として刊行し、希望者に配布している。自由記述には同窓生からの熱い想いが詰まっているため、そのまま掲載している。自由記述部分は、学生の隠れたベストセラーと評され、フィードバックに役立っている。卒業生調査では、スクールモットーに関する内容を聞いている。第2回卒業生調査では、スクールモットーを意識する回答が70歳代で4割を越える高い数値を示していた。卒業後にスクールモットーの種が育ったのか、若い世代ではマス化が進んだため、その精神がやせ細ったのか、キリスト教教育の建学の精神を検証し、大学教育に反映させることを今後も計画している。

また、調査結果は評価事業にも活用されている。データの使用が一番多いのは企画室である。2003年に評価情報分析室が創設され、3年毎に自己点検評価も実施するようになつたが、2004年の認証評価以後、目標を設定したPDCAが大学にも求められるようになったため、「コミュニティ・カレッジ調査」を活かした大学独自の指標を作成し、データベースを構築している。「カレッジ・コミュニティ調査」、卒業生調査を活かし、将来的にはIR(Institutional Research)につなげていくことを検討している。

調査のデータは、在学生調査、卒業生調査ともにデータの一般公開は行っていないが、総研で一元管理している。学内で申し出があれば、自由に使用できるようになっているがデータ使用に関する申し出はほとんどない。「カレッジ・コミュニティ調査」のデータは30年分SPSSにデータを落として使用可能な状態にしているが、今まで2件しかデータ使用の申し出はなかった。総研では、データ使用のリクエストがあれば、教員にも学生にも使用できるようにデータ整備を行っている。しかし、そのデータを検証し、改善点を見つけ、各学部がどのように教育改善につなげていくかというところにまでは至っていないのが現状である。データの検証によって教育改善を行うというよりは、プロジェクトが育って教育改善につながっていくというパターンが多いようである。

4. 今後の実施予定と検討課題

4-1 今後の実施予定

総研の主要な調査事業は、在学生調査の「カレッジ・コミュニティ調査」、卒業生調査、授業評価の3つであるが、その他ニーズに応じて教員を対象とした調査なども行っている。行っていない対象は、職員とステークホルダーとしての保護者であるが、ステークホルダ

一への調査は、まだ検討していない。

第3回卒業生調査の実施は、2011年の予定である。

4-2 検討課題

1) 総研の組織体制と認知度

卒業生調査の概要版である『私の関学－卒業生からのメッセージ』は、在学生へのメッセージだけでなく、大学全体へのメッセージもあるが、それが各学部の教員や執行部にあまり認識されていないという状況がある。総研は、高等教育センターの老舗的な活動を長年行ってきており、その活動が学内でもあまり認知されていないこともデータ活用につながっていない要因の一つである。大学評議会など大学の意志決定機関に総研関係者が参加できないところにも、データを活用した教育改善への提案がしにくいという体制のジレンマがある。

総研は、教育改善につながる調査にするためにも学部のニーズを反映した調査の実施を希望しているが、学部教員が多忙なため、データと向き合う時間が取れず、なかなか協力が得られないという問題を抱えている。データから明らかになる問題が何かではなく、何が問題かということを突き詰めていくことが今後必要である。調査結果を教育改善につなげていくためには、学部との連携体制、そして大学内会議への参加などが今後の課題である。

2) マンパワーと予算

総研では、現在2名の技術員を中心となって調査を実施したり、データ管理を行ったりしているが、将来IR型を目指すためには、マンパワー不足と予算不足という障壁がある。大学内では企画室でのデータ活用が多いが、企画室関係者はデータを分析できるスタッフがないため、データ作成・管理は総研の技術員が行っている。今後調査を続けていく際、蓄積された膨大なデータの管理という問題もでてくる。

総研は、在学生調査、卒業生調査、授業評価などの調査事業に加え、指定、公募のプロジェクト事業など、業務範囲が多岐にわたっているが、どの事業にも積極的に取り組んできたことで、各事業とも毎年発展を遂げている。事業の広さという点では成功を遂げているが、深さへの取り組みという点では課題を抱えている。少人数のスタッフと限られた予算での取り組みという現状が、深さへの取り組みを阻んでいる要因にもなっている。深さへの取り組みには、組織内におけるタテ・ヨコの連携も今後の課題である。

<参考文献>

- 安保則夫編著、2001、『関西学院大学卒業生調査報告書』関西学院大学総合教育研究室.
村田治編著、2007、『関西学院大学卒業生調査報告書（II）』関西学院大学総合教育研究室.
安保則夫編著、2001、『私の関学－卒業生からのメッセージ』関西学院大学総合教育研究室.

(文責：江藤智佐子)

北九州市立大学 —プロジェクト型実践プログラムの大学教育への可能性について—

1. はじめに

経済のグローバル化、世界的な企業間競争の激化、IT化、サービス経済化などにより、企業における仕事が複雑・高度化している。企業は中国などのアジア諸国のみならず全世界をマーケットとして考えざるを得ない経営環境となり、絶えず低コストでオペレーション可能な国々の脅威に晒され続けている。高速通信網の整備によるインターネットの世界的な普及は、スマートフォンからワン・トゥー・ワンマーケティングへのシフトを余儀なくしている。製造業中心からサービス産業への転換は、多様化した顧客のニーズを満たし続けることが企業の生き残りには欠かせない要素となっている。このように、90年代後半から発生した産業のパラダイム転換は、企業従業員に求める能力観に影響を与えていく。定型的な業務を正確にこなしていくことから、いつ発生するかわからない課題に対峙し、創造的に解決しながら高度な製品やサービスを開発し続けるための「能力」が不可欠なのである。このような能力観の変化は、大学卒業者の新卒採用マーケットにも変化を及ぼしている。エントリーシートやコンピテンシー面接の導入等により、大学生の「能力」を見抜こうと企業人事部は日々努力を重ねているのである。

一方で、教育機関においては育成すべき「能力」に関する社会的議論が活発である。社会人基礎力、学士力、キーコンピテンシー、ジェネリックスキル、就職基礎能力等、教育機関と企業社会を接続する「能力」に関する調査・研究が隆盛を極めている。これらの調査・研究による「能力」とは、専門的な知識や資格、学力などのスキルベースの能力だけではなく、コミュニケーションや積極性、主体性などのヒューマンファクターベースの能力を指していることが多い。しかしながら、このようなヒューマンファクターベースの能力の大学教育での育成方法については未だに議論が混乱している。

企業・社会の「能力」ニーズがどのようなものであるかを調査し、ニーズに応じた人材育成を行っていくことは、大学に課せられた使命ではなかろうか。それにはまず、大学を卒業し実際に企業等で働いている卒業生に、大学教育の成果や現在の活用状況などを聞くことで、大学教育の有用性について認識することが必要である。そこで得た知見をカリキュラム開発、授業法開発等の大学における教育プログラムに反映させていく必要があると考える。

2. 卒業生調査からの視座

(1) 調査概要

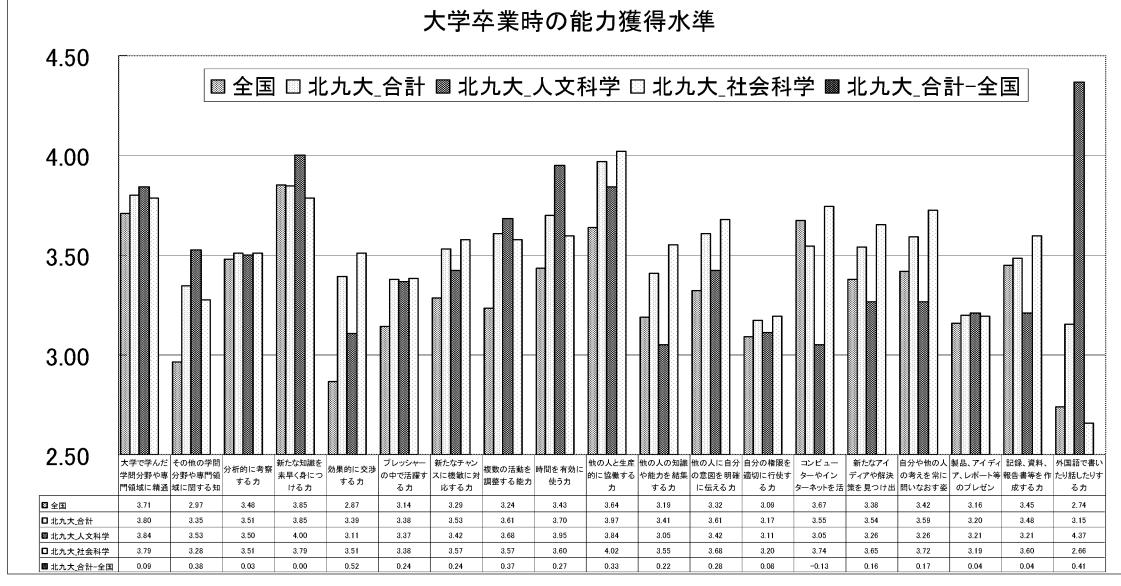
REFLEX 調査は本学では平成 19 年末から平成 20 年にかけて実施した。平成 13 年 3 月に本学を卒業した学生に郵送法にて質問票を送付し、回答は質問票の返送とアンケートサイトへの入力の 2 つの方法からの選択として調査を実施した。本学の場合、調査対象数は約 1000 件であったが、有効回答数は 68 サンプルであった。回収率を向上させるためにリス

トの精度やアンケート回収方法を検討することは、今後の課題としたい。以下に特徴的な結果について概観する。

(2) 大学卒業時の獲得能力

大学卒業時の能力獲得水準について問うた設問では、本学卒業生は「他人との協働」「新たな知識の獲得」「専門分野での精通」が全体的に高い評価であることが判明した。全国的な結果との比較では、「交渉」「外国語」が特に評価が高いという結果となった。外事専門学校から外国語大学にルーツを持ち、外国語修得に力点を置いている本学ならではの結果ではないだろうか。

図表1) 大学卒業時の能力獲得水準



※ 1から7までの7段階評価の平均値

次に、ヒューマンファクターベースの能力に関して検討するために、設問項目を「対人」「対課題」「対自己」「知識」と4能力カテゴリに分類し、得点の平均値を比較してみた。この分析では、特に対人能力獲得への認識は大学全体の結果よりも相対的に高いことが判明した。本学の授業や学生生活が他大学生に比べて対人能力の向上に寄与していることがうかがえる結果となった。ただし、学生生活のどのような要因が、対人能力獲得に寄与しているかは更なる分析が必要である。

図表2) ヒューマンファクター能力別大学卒業時の獲得能力

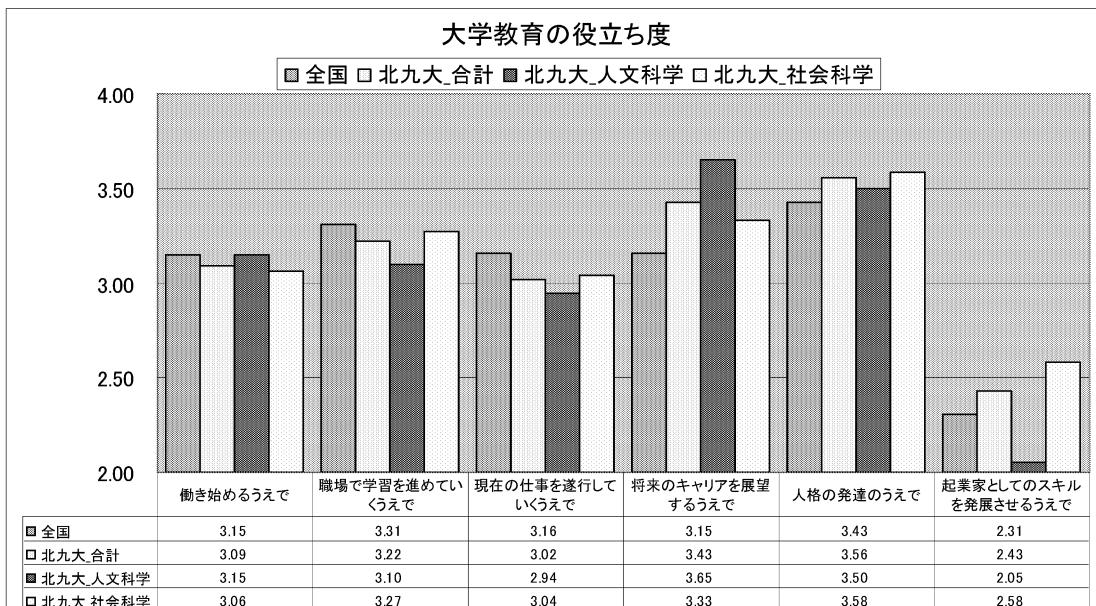
カテゴリ	能力	各平均_全国	各平均_北九大	平均の差
対人	効果的に交渉する力	3.24	3.53	0.29
	複数の活動を調整する能力			
	他の人と生産的に協働する力			
	他の人の知識や能力を結集する力			
	他の人に自分の意図を明確に伝える力			
対課題	製品、アイディア、レポート等のプレゼンテーション能力	3.48	3.62	0.14
	分析的に考察する力			
	新たな知識を素早く身につける力			
	新たなチャンスに機敏に対応する力			
	時間を使効率的に使う力			
対自己	新たなアイディアや解決策を見つけ出す力	3.22	3.38	0.16
	プレッシャーの中で活躍する力			
	自分の権限を適切に行使する力			
	自分や他の人の考えを常に問い合わせる姿勢			
	大学で学んだ学問分野や専門領域に精通していること	3.31	3.47	0.16
知識	その他の学問分野や専門領域に関する知識:大学卒業時の			
	コンピューターやインターネットを活用する力			
	記録、資料、報告書等を作成する力			
	外国語で書いたり話したりする力			

※1から7までの7段階評価の平均値

(3) 大学教育の役立ち度

大学教育がどのように社会で役立っているかを問うた設問では、本学での学びは「将来のキャリア展望」「人格の発達」で役立っていると考えられている傾向が強いことが判明した。一方で「職場で学習をすすめていく」「現在の仕事遂行」での役立ち度は全国の結果と比しても相対的に低めであり、仕事に関するスキル形成に関して本学の大学教育過程は相対的に寄与度が低いと考えられていることがうかがえる結果となった。

図表3) 大学教育の役立ち度



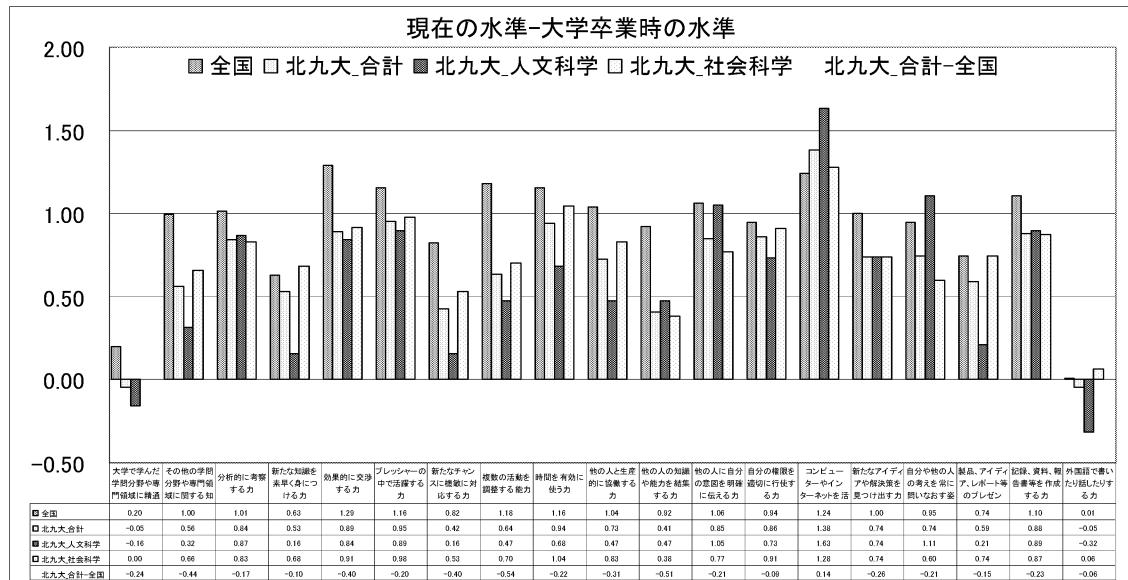
※まったく役に立っていない=1 から とても役に立っている=5 まで5段階の平均値

(4) 卒業後の能力の伸長

現在の能力水準から、大学卒業時の能力水準を引いて、卒業後の能力伸長についてどのように感じているかを調べてみた。

社会人としての経験も数年経つと、職業人としての成長実感を得ている人が多いと考えられるが、大学卒業時点と現在の能力獲得水準を比較してその「伸び」を訪ねた設問では、本学の卒業生は全国の結果に比べて「伸びている」という認識がうすいと言える結果となった。特に「複数の活動を調整」「他人の知識能力を結集」「その他学問の知識の吸収」「新たなチャンスに対応」「効果的な交渉」の伸びが低い結果となり、リーダーシップ、交渉力、継続学習といった能力が備わっていないという傾向がうかがえる。

図表4) 卒業後の能力伸長



(5) 調査結果のまとめとインプリケーション

これらの調査結果から、本学の大学教育過程の評価を下すことはもちろん不可能である。しかし、今回のR E F L E X調査から判明したこととして、以下の3点が注目すべき点であるといえる。

- ① 本学卒業生の本学教育過程に対する評価は全国の結果と比べて相対的に高く、ヒューマンファクターベースの能力では、特に対人能力獲得に関する評価が高い。
- ② 「課題発見」「創造性」等の対課題についての能力や、「フレッシャーの中での活躍」「チャンスに対しての機敏な対応」等の対自己能力への評価は相対的に低い。
- ③ 大学教育の役立ち度について、職業との親和性は他大学に比して低いとみられる。

人材育成という大学の使命を鑑みたときに、大学教育にヒューマンファクターベースの能力育成を組み込むプロセスは以下のようなものだろう。第一にヒューマンファクターベースの能力について大学教育として何らかの関与を行うという意思決定を行うことである。従来のファカルティによる専門知識教育に加えて、大学としてこのような能力を「大学

「教育内」で育成すべきかどうか、関与するとなれば正課プログラムか正課外プログラムなのか、といった議論を経ることが重要であろう。第二にどのような「能力」を伸ばすのかを設定することである。入学してくる学生の現状、社会ニーズ、建学の精神などから、どのような能力育成に努めるかフォーカシングを行うことで、大学の独自性と大学教育の特徴を内外に示すことができると言える。どのような能力を育成するかが決定した後は、第三に能力育成プログラムを開発することである。大学内のリソース、企業等とのネットワークなどを十分に吟味し、能力開発の仕組みや機会、授業法などを開発していくことが重要である。第四に能力育成プログラムの運用である。新しいプログラムを導入することは、日々発生する想定外のトラブルに対応することである。プログラムの実施者は「カイゼン」の意識が重要である。最後にプログラムの評価である。学生の能力伸張に対する評価はもちろんのこと、プログラム全体が大学教育課程にどの程度寄与したのか等、幅広い評価が必要である。

3. キャリアセンターでの実践

(1) プロジェクト型インターンシップを導入した背景

本学キャリアセンターでは、平成18年度より、プロジェクト実践型のインターンシップを展開している。学内外に現実に存在する課題をプロジェクト化し、そのプロジェクト¹に学生をチームで関わらせ、課題解決を行うというインターンシップである。ここでは、導入意図、目的、プロジェクトの内容、成果について述べる。

昨今、大学におけるインターンシップが隆盛を極めている。文部科学省の統計によれば、毎年5万人程度の大学生が参加し増加傾向にある。一方、企業側²が提供するインターンシップも多様化している。1、2週間職場体験を行うもの、半年や1年といった長期で実施するもの、1日や2日といった短期で実施するものなど様々である。企業側のニーズや学生のニーズが多様化する中で、インターンシップを大学で実施する際の課題として、大きく三つの方向性から考える。学生、企業、大学である。

まず学生である。マクロで考えると、激変する雇用環境の中仕事に対して前向きに取り組めない若年労働者が増加しているという指摘がある。企業内の教育力、サポート力の低下という原因も考えられるが、若者の働くことに対する意識が変化しているのも大きな要因だと考える。「隣の芝生が青く」見える情報環境にあり、それを夢見て転職を繰り返す若者も少なくない。一方、視点を変えて本学学生の状況を考えると、付近に競合するような大学がなく、参加する社会が大学内に限定される学生が多く存在する。つまり、ヒューマンファクターベースの能力獲得の機会が不足しており、確かな職業観や社会人としてのマナーをどのように醸成するのかが課題となっている。

企業面では、インターンシップを「無償アルバイト」と位置付け、単なる労働力として

¹ プロジェクトの定義として、①開始と終了がある一連の業務である②時間、資源、目標によって制約される③具体的な成果物、期限、予算がある。

² インターンシップは、企業だけでなく、NPO、行政なども学生を受け入れている。本稿では文脈を鑑みて「企業」という単語を使用する。

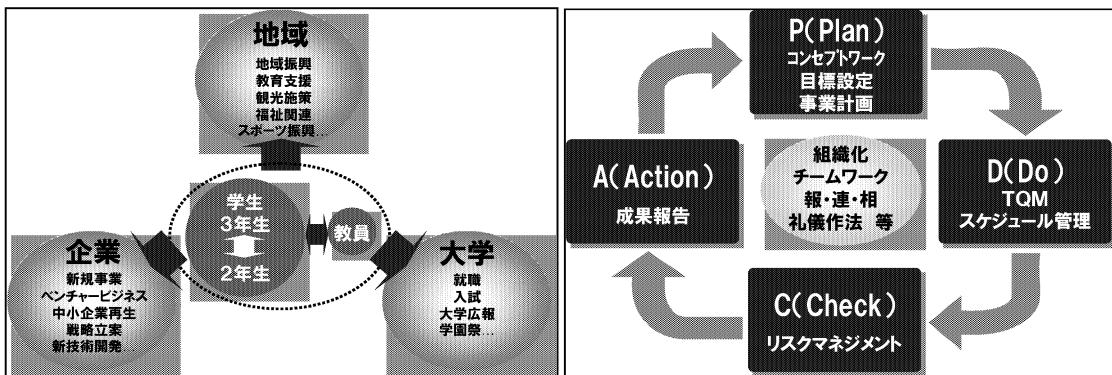
業務にあたらせているケースが多く見られることである。社会を体験するという意味では効果があるとも言えるが、学生の不満は大きい。加えてインターンシッププログラムを大学がコントロールしにくいこともある。十分に練られたプログラムを準備している企業もあれば、全くそのようなプログラムが存在しない企業もある。

大学面からの課題は二点である。一つは、大学としての使命に応えるかどうかである。公立大学としての歴史を歩んできた本学は、地域の学生を受け入れ地域に輩出していく使命を負っている。つまり、地域に対するUSR (University Social Responsibility) の重要性に目を向けなければならないのである。もう一つは大学運営上の問題である。大学は学生、あるいはその学生を輩出する社会が顧客と言える。学生と向き合い、学生を育て、社会に送り出していくことを教職員全体で意識を持って推進しなければならない。そのため教職員、特に普段学生と接する機会の少ない職員と学生との距離を縮め、等身大の学生に触れる機会を創出する必要がある。以上の問題意識を解決する手段として新しいインターンシップに取り組みはじめたのである。

(2) プロジェクト型インターンシップのフレームと目的

企業、地域、本学内に存在する様々なイベント、テーマをプロジェクト化し、学生がチームを組んで推進していくのが、本学プロジェクト型インターンシップのフレームである(図表5)。そこにメンターとして教員や職員が付き、プロジェクトを学生と「伴走」する。特徴としてはプロジェクトということで期間が定めてあることと、実際の成果物を求めることがある。

図表5) プロジェクト型インターンの仕組み 図表6) 学生が体験するPDCAサイクル



この取り組みの目的は前述の課題意識に対応した以下の六点である。一点目は学生のヒューマンファクターベースの能力、社会人としてのマナー、仕事スキルの開発である。学生達が社会に現実に存在するテーマに主体的に関わりながら P·D·C·A(plan·do·check·action) サイクルを経験することでこれらの能力等を開発する。また、ホウレンソウ(報告・連絡・相談)の徹底を図り、組織におけるコミュニケーションの重要性を発見させる。また、コンセプト設計、目標設定、事業計画、スケジュール管理、リスクマネジメント等の実践に注力し、ビジネススキルの習得もねらいとしている(図表6)。二点目は学生の職業観の醸成である。学生がイメージできる仕事は、アルバイトとして体験した仕事と B to C

(Business to Business) の仕事である。現実の「仕事」に関わることで、消費者として見える仕事だけでなく、主体者としての仕事を考えさせることをねらいとしている。三点目は学生の居場所を確保することである。打ち込めるものを見つけ、高い壁にチャレンジし、それを成し遂げた時の充実感が自己効力感の醸成に寄与し、その後の学生生活やキャリア形成に対する意識に好影響を与えることは間違いないと思われる。できるだけ多くの学生に参加してもらうように働きかけるのもポイントである。四点目は地域連携である。大学の知を地域に還元すること、逆に地域から教えられること双方向の連携を模索するきっかけを作ることである。五点目は企業、地域へ新しい風を吹き込むことである。学生の新しい発想を企業、地域の運営に役立てもらうということである。最後六点目は、本学教職員のメンターとしてのレベル向上である。教職員が一体となって学生を支援していくために、学生と接する機会を増やし、教育者という立居地ではなく学生の成長をサポートする者(=メンター)としてのスキル・マインドを醸成させたいのである。このスキル・マインドはプロジェクトに関わる地域の人々にも波及させたいと考える。

このような目的をフレームワークに落とし、プロジェクト型インターンシップの主体者である学生とそれをサポートする教職員、地域の人々という構図が出来上がるるのである。以下にこれまで実施したプロジェクト型インターンシップの概要についてまとめてみた。

図表7) プロジェクト型インターンシップの一覧 (平成18年度～20年度)

プロジェクト名	プロジェクト概要	実施時期	参加学生数
オープンキャンパス プロジェクト	夏休みに開催するオープンキャンパスを学生がプロデュースするという取り組み。イベント企画、広報、オペレーション業務を担当。学生視点の企画実施、運営が高校サイドの評判を高めている。	18年度5月～7月 19年度5月～7月 20年度5月～7月	18年度20名、 19年度22名 20年度37名
就職ガイダンス プロジェクト	キャリアセンターが主催する就職活動支援行事の企画・運営を担当。これまで、就職ガイダンスや学内企業合同説明会等をイベント企画、広報、オペレーションのグループに分かれて活動し、大学事務局担当時に比べて、参加学生数等で実績をあげた。	18年度5月～12月 19年度7月～12月 20年度10月～12月	18年度11名 19年度30名 20年度19名
『きやりあ～な』 プロジェクト	学生のモチベーション向上、キャリアセンターの行事等の告知を目的に年4回発行しているキャリアセンターのフリーペーパー。出版や広告の仕事に興味がある学生が中心に参加している。華やかな業界イメージではなく、現実の仕事をしてもらうことを念頭においている。	通年	18年度19名 19年度11名 20年度10名

僕らの学び改善 プロジェクト	19年度はシラバスや履修ガイドの改善に取り組んだ。20年度は本学の魅力を学生目線で伝える冊子を発行予定。アンケートやインタビューなどを行い、結果を大学当局への提案へつなげている。	19年度 7月～2月 20年度 7月～2月	19年度 6名 20年度 6名
ニューウェーブ 北九州プロジェクト	北九州市が本拠地のサッカーチーム『ニューウェーブ北九州』(JFL 所属)の広報を担当。ホーム試合の観客動員数目標を設定し活動。また、小学生のスタジアムへの動員を促進するために、新聞を月2回刊で発行。市教育委員会や近隣小学校への提案を経て小学校に配布している。	通年	19年度 10名 20年度 8名
キタキュー就職 プロジェクト	北九州市主催の合同会社説明会の企画・運営を担当。イベントの企画、ポスター・パンフレットの作成、大学や企業へのプロモーション活動、会場のセッティング等、イベント企画運営に関わる業務をトータルに担当。	20年度 8月～1月	20年度 19名

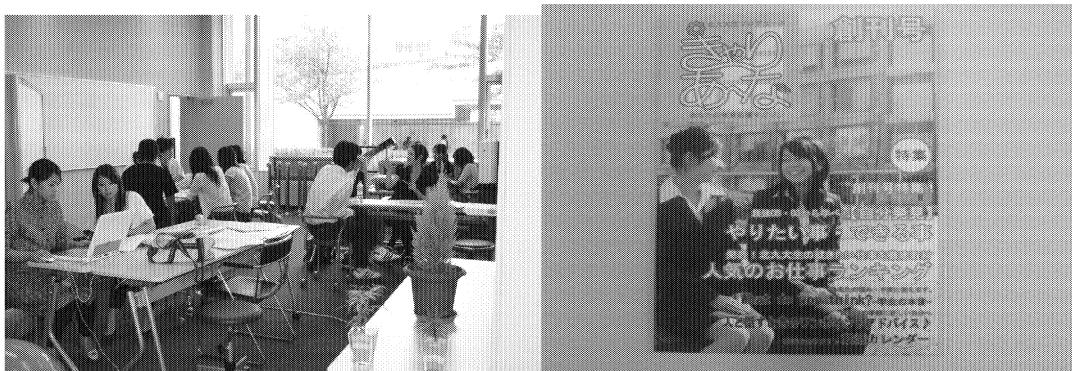
(3) 成果と課題

もちろん学生の能力が開発されたかどうかは、その評価方法も含めて精緻な分析が必要であり今後の課題である。しかし、成果として実感できることは、一つには学生が全体的に活性化したことである。これらの取り組みに参加表明する学生は従前より意欲的な学生が多い。むしろそうでない学生をどうするかがよく問題になる。本学ではこれらのプロジェクト型インターンシップの実践が他学生に見えるようにしている。プロジェクトの実践の場として「プロジェクトルーム」を設置、ガラス張りの開放感溢れる部屋で議論したり(図表8)、制作活動を行ったりする姿を、プロジェクトに参加していない学生に「自然に」見せるようにしている。オープンキャンパスプロジェクトでは、活動に文化系サークルの映画研究会スタッフが密着。プロジェクトメンバーの取り組みを映画仕立てのDVDで制作した。きゅりあ～な(図表9)プロジェクトは「本学の活躍する学生を紹介する」がコンセプトである。このように、学生生活やキャリア形成に必ずしも意欲的でない学生に一歩を踏み出す内発的動機を形成させるために、教職員が言葉で示すのではなく学生同士横の視覚的な効果で「友達もやっているから自分もできるかも」「かっこいいなあ」「自分もやらなきゃ」という気持ちを持たせることをねらっている。実際にその後の就職活動や、自主的サークルの立ち上げ、新しいプロジェクトの応募状況などをみても学生が活性化していることが実感できる。もう一つは、もちろん学生の成長である。チームで一つのものを作るあげる困難、責任のある仕事とは何か、社会人としてのマナーを少しでも理解してくれたように感じる。

しかしながら、能力的な成長という観点では、評価、分析が十分に行われていない。平

成20年度の取り組みでは、経済産業省の社会人基礎力のフレームを用い、アセスメントを使って学生の能力変化の測定を試みている。

図表8) プロジェクトルームでの議論の様子 図表9) きやりあ～な



(4)まとめ

大学でヒューマンファクターベースの能力を学生に身につけさせることは、はたしてわが国の大学に課せられた使命なのであろうか。高度・複雑化した仕事、激化する企業間競争という現状を鑑みると、社会に出る前にある程度教育機関で育成して欲しいというのが、企業の本音だろう。それは、企業内の削減傾向にある研修だけでは、成果をあげる社員に育てあげることが難しくなってきていることが背景にある。しかし、一方で教育機関の側から見ると、学力低下による重点科目的授業時間増や子ども達の変化などから、そのような能力を育成している余裕がないという主張が成り立つであろう。特に大学では、専門知識の獲得に教育上の焦点があてられ、その専門知識を現実社会で活かすための能力の育成については、その学生個人の資質の問題とされてきたかもしれない。学生は、正課の授業ではなく、サークル活動やアルバイトなど正課外の学生生活でヒューマンファクターベースの能力を身につけていたと言えるのではないだろうか。

一方で、避けて通れない問題が「大学経営」である。大学全入時代を迎えて各大学とも学生獲得競争が激化している。入学偏差値が意味を持たなくなってしまった大学では、学生を獲得する為に大学の独自性や就職支援状況や学生支援体制についてアピールをしなければならなくなってしまった。「知識」ではなく「ヒューマンファクターベースの能力」を身に付く大学と標準することで、就職活動に良い結果が生まれる流れが醸成されるのである。そのサイクルが受験生のニーズを発掘し、志願者が増加し経営に好影響を与えるといわれている。このことは、大学の認証評価という側面もあるが、経営、とりわけマーケティングの視点から重要である。

研究中心の大学、教育中心の大学、高度専門人材育成の大学、等々、全国の大学4、5つのカテゴリに分類し、その分類に沿った教育プログラムを形成していくことが重要であろう。そして、教育中心の大学では、地域社会のステークホルダーの意見に耳を傾け、マーケットニーズを発見し、教育プログラムに導入を図っていくことが非常に重要であるよう感じる所以である。

参考文献

- ・『コトラーのマーケティング講義』 フィリップ・コトラー・著 木村達也・監訳
有賀裕子・訳 ダイヤモンド社 2004年
- ・『プロジェクトマネジメント』 サニー・ベーカー、キム・ベーカー、G・マイケル・キャンベル著 中嶋秀隆、香月秀文訳 総合法令出版 2005年

(文責: 真鍋 和博)

3) REFEX調査 ①調査票（日本）

Reflex

「卒業生のキャリアと大学教育の評価に関する日欧調査」

- 回答には、黒または青色のペンを使用してください。
- 回答する際には、正確に枠内をチェックまたは塗りつぶしてください。
- 数字を記入する質問の場合には、各マスに1字ずつ記入してください。
- 回答に迷う場合には、もっとも近いものを選んで回答してください。
- 質問によっては複数回答の場合もあります。その場合、複数回答であることが明記されています。

記入例

良い例；

悪い例； X

回答を訂正する場合

訂正前； 1 2 3 4 5

↓

訂正後； 1 2 3 4 5

調査の問い合わせについて

九州大学 大学院人間環境学研究院 教育社会学研究室

研究代表者 吉本圭一

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1

Tel/Fax 092-642-3125

e-mail reflxedu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

URL http://www.j-reflex.jp

A. 2000年4月から2001年3月に卒業された大学（学部）における学習についてうかがいます

A1 卒業した大学・学部・学科名をお答えください。

(1) 大学名 _____

(2) 学部・学科・専攻・コース名

具体的に _____

(3) 取得した学位とその種類 例えば、学士（文学）、学士（工学）など

具体的に _____

A2 入学年月と卒業年月を記入してください。

（編入学の場合には、2000年4月から2001年3月に卒業した大学についてお答えください。）

入学： 1 9 | ____ | ____ | 年 | ____ | ____ | 月

卒業： 2 0 0 | ____ | ____ | 年 | ____ | ____ | 月

A3 卒業時点での学業成績のうち、「優(Aないしそれ以上)」の割合はどのくらいでしたか。

9割以上	8～9割未満	7～8割未満	6～7割未満	5～6割未満	4～5割未満	4割未満
<input type="checkbox"/>						

A4 (1) 卒業した学部に合格したとき、どのような入試・制度を利用しましたか。

- 一般入試（客観テスト式の学力検査）
- 推薦入試（AO入試を含む）
- その他 具体的に _____

(2) また、卒業した大学は、第1志望の大学でしたか。

- はい
- いいえ

A5 卒業した大学の学部・学科（課程・コース）の教育内容には、次のようなことはどの程度あてはまりますか。

	まったくあてはまらない	とてもあてはまる			
	1	2	3	4	5
一般的に、授業・課題の要求水準が高いとみなされていた	<input type="checkbox"/>				
教育課程の内容が、雇用者によく知られていた	<input type="checkbox"/>				
科目選択の自由度の高い教育課程だった	<input type="checkbox"/>				
幅広い教育目標を有していた	<input type="checkbox"/>				
職業志向的な教育課程だった	<input type="checkbox"/>				
学術的に評価の高い教育課程だった	<input type="checkbox"/>				

A6 卒業した大学の学部・学科（課程・コース）では、次のようなことがどの程度重視されていましたか。

	まったく重視されていなかった	とても重視されていた			
	1	2	3	4	5
講義	<input type="checkbox"/>				
グループ学習	<input type="checkbox"/>				
研究プロジェクトへの参加	<input type="checkbox"/>				
インターンシップ、職場体験実習	<input type="checkbox"/>				
経験的・実務的な知識	<input type="checkbox"/>				
学問的な理論や概念構成	<input type="checkbox"/>				
教師が主導的に教えること	<input type="checkbox"/>				
プロジェクト型・問題解決型学習	<input type="checkbox"/>				
論文やレポートの執筆	<input type="checkbox"/>				
口頭でのプレゼンテーション	<input type="checkbox"/>				
選択式の客観試験	<input type="checkbox"/>				

A7 在学中の学習経験について、次のことがらはあなたにどの程度あてはまりますか。

	まったくあてはまらない	とてもあてはまる			
	1	2	3	4	5
試験に合格するためだけの勉強でなく、それ以上の勉強をした	<input type="checkbox"/>				
できるだけよい点数をとるために努力した	<input type="checkbox"/>				
学外での講座や通信教育などで積極的に学習した	<input type="checkbox"/>				

A8 在学中、あなたは平均して1週間に何時間くらい学習しましたか。講義、自学自習、インターンシップなどの時間も含めてお答えください。卒業前1～2年の典型的な学期を想定してお答えください。

週あたり |_____| 時間

A9 卒業した大学・学部の教育課程のうち、以下の点についてどのくらい満足していますか。

	まったく満足していない					とても満足している				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
教養教育（全学共通教育）	<input type="checkbox"/>									
専門教育	<input type="checkbox"/>									
指導教員や研究室での指導	<input type="checkbox"/>									
大学生活全般	<input type="checkbox"/>									

B. 大学入学前・大学在学中・大学卒業後の教育経験についてうかがいます

B-I 大学入学までの教育、その他の経験について

B1 (1) あなたは大学進学資格をどのようにして取得しましたか。

- 高校の普通科・総合学科（理数科なども含む）を卒業
- 高校の職業に関する専門学科（商・工・農など）を卒業
- その他（大検など） 具体的に _____

(2) 卒業した高校の同級生のうち、大学に進学した人はどのくらいいますか。（浪人含む）

2割未満 2～4割未満 4～6割未満 6～8割未満 8割以上

B2 高校在学中、学校の勉強と関係のあるアルバイト、インターンシップの経験はありますか。ある場合には、それらをしていた期間もお答えください。

アルバイト はい 通算して約|_____|____|ヶ月 いいえ
インターンシップ はい 通算して約|_____|____|ヶ月、または約|_____|____|日 いいえ

B-II 大学在学中の経験について

B3 (1) 大学在学中、大学での学習と関係のあるアルバイト、インターンシップの経験はありますか（教育実習や工場実習などを含む）。ある場合には、それらをしていた期間もお答えください。

アルバイト はい 通算して約|_____|____|ヶ月 いいえ
インターンシップ はい 通算して約|_____|____|ヶ月、または約|_____|____|日 いいえ

(2) 大学在学中、大学での学習とは関係のないアルバイト、インターンシップの経験はありますか。ある場合には、それらをしていた期間もお答えください。

アルバイト はい 通算して約|_____|____|ヶ月 いいえ
インターンシップ はい 通算して約|_____|____|ヶ月、または約|_____|____|日 いいえ

B4 大学在学中に、学生自治会や、部活動・サークル活動、その他の任意団体などの役職（例えば、議長・部長や委員会委員など）の経験はありましたか。ある場合には、それらをしていた期間もお答えください。

はい 通算して約|_____|____|ヶ月 いいえ

B-III 2000年度に卒業した大学・学部以外の教育経験（入学前、在学中、卒業後のすべての時期を含む）について

B5 次のような教育機関に在籍して学習したことがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。
ただし、1年以上在籍することを求められる教育機関に限ります。

- 短期大学、高等専門学校、専門学校
- 大学・学士レベル
- 大学院の修士レベル（ロースクール、ビジネススクールなども含む）
- 大学院の博士レベル
- その他 具体的に _____
- ない → C 1 にお進みください

B6 B 5 で選択した教育機関についてうかがいます。複数の教育機関に在籍した方は、最も重要と思われるものを2つ選んでお答えください。

教育機関（1）		教育機関（2）	
教育機関の名称と専攻名	名 称 _____ 専攻名 _____	名 称 _____ 専攻名 _____	
教育機関で取得可能な 学位または資格	<input type="checkbox"/> 準学士 <input type="checkbox"/> 専門士 <input type="checkbox"/> 学士 <input type="checkbox"/> 修士 <input type="checkbox"/> 博士 <input type="checkbox"/> 大学院・専門職課程の修了証書 <input type="checkbox"/> その他 具体的に _____ <input type="checkbox"/> 取得可能な学位・資格はない	<input type="checkbox"/> 準学士 <input type="checkbox"/> 専門士 <input type="checkbox"/> 学士 <input type="checkbox"/> 修士 <input type="checkbox"/> 博士 <input type="checkbox"/> 大学院・専門職課程の修了証書 <input type="checkbox"/> その他 具体的に _____ <input type="checkbox"/> 取得可能な学位・資格はない	
入学した時期	_____ 年 _____ 月	_____ 年 _____ 月	
学位または資格を取得 しましたか	<input type="checkbox"/> はい → 取得時期 _____ _____ ____ 年 _____ ____ 月 <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 現在、在籍中	<input type="checkbox"/> はい → 取得時期 _____ _____ ____ 年 _____ ____ 月 <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> 現在、在籍中	

C. 学部卒業（2000年度）前後の就職活動についてうかがいます

C1 あなたは卒業後、仕事の経験がありますか。仕事には自営業も含んでお答えください。
ただし、卒業後6ヶ月以内に離職した仕事の経験は除きます。

- はい → 卒業後に始めたものです
 在学中から働いていたところです
- いいえ、6ヶ月以上継続した仕事の経験はありません → E 1 にお進みください

C2 その仕事は、いつから開始しましたか。

西暦 |_____|_____|____|年|_____|____|月

C3 あなたはいつから就職活動を始めましたか。

- 卒業前
- 卒業の頃
- 卒業後
- 就職活動をしないで仕事をみつけることができた → C 5 にお進みください

C4 その就職先が決まるまで、あなたは何ヶ月くらい就職活動をしましたか。

- 卒業前、通算して約 | | | ヶ月
- 卒業後、通算して約 | | | ヶ月

C5 その就職先をどのように見つけましたか。最も重要であったものをひとつだけ選んでください。

- 求人情報誌・求人広告
- 公共職業安定所
- 民間の職業紹介機関
- インターネット
- 求人があるかどうか知らずに会社（雇用主）と接触
- 会社（雇用主）からの誘い
- 大学の就職部や就職情報室
- 家族、親戚、友人、知り合いなどの個人的なつなづけ
- 大学の先生や研究室の紹介
- 起業
- その他 具体的に _____

D. 学部卒業後の最初の仕事についてうかがいます

ここでいう最初の仕事は、卒業後6ヶ月以上勤務したものを感じます。

学部時代から継続している仕事については、卒業直後の状況についてお答えください。

D1 (1) 最初の仕事の職種をお答えください（16頁のリストAから番号を選び、ご記入ください）。

職業 [] → 「990 その他」を選択の方は、具体的にお書きください
具体的に _____

(2) 最初の仕事の内容を具体的にお書きください。

具体的に → _____

D2 最初の仕事の業種をお答えください（16頁のリストBから番号を選び、ご記入ください）。

業種 [] → 「26 その他」を選択の方は、具体的にお書きください
具体的に _____

D3 卒業後、最初に働いた組織の全体の人数と事業所の人数をお答えください。

組織全体	事業所
<input type="checkbox"/> 1 ~ 9 人	<input type="checkbox"/> 1 ~ 9 人
<input type="checkbox"/> 10 ~ 49 人	<input type="checkbox"/> 10 ~ 49 人
<input type="checkbox"/> 50 ~ 99 人	<input type="checkbox"/> 50 ~ 99 人
<input type="checkbox"/> 100 ~ 249 人	<input type="checkbox"/> 100 ~ 249 人
<input type="checkbox"/> 250 ~ 999 人	<input type="checkbox"/> 250 ~ 999 人
<input type="checkbox"/> 1000 人 以上	<input type="checkbox"/> 1000 人 以上
	<input type="checkbox"/> 非該当、1事業所しかない

D4 最初の仕事は、自営業でしたか。

- はい → D 6 へお進みください いいえ

D5 最初の雇用先とは、どのような雇用契約を結びましたか。

- 雇用期間の定めがない契約 雇用期間の定めがある契約 | | | 年 | | | ヶ月
 その他 具体的に _____

D6 最初の仕事では、1週間に平均して何時間働いていましたか。

所定労働時間 約 | | | 時間 時間外の労働時間 約 | | | 時間 (有給または無給の時間外労働時間 - 残業時間を含む)

D7 最初の仕事の年収(税込み)はどれくらいでしたか。残業代などの諸手当込みでお答えください。

約 | | | | | 万円 (残業や超過手当を含む)

D8 最初の仕事では、初任者のための研修・訓練などがありましたか。あてはまるものすべてをお答えください。

- あった → 研修・訓練が約 | | | ヶ月間
 なかつた インフォーマルな学習が約 | | | ヶ月間

D9 最初の仕事に、もっともふさわしいと思われる学歴は以下のどれですか。

大学院博士課程修了 大学院修士課程修了 大学学部卒 短大・高専卒 専門学校卒 高校卒

その他 具体的に _____

D10 最初の仕事に、もっともふさわしいと思われる専攻分野は以下のどれですか。

- 自分の専攻分野が、もっともふさわしい
 自分の専攻分野か、あるいはそれに関連する分野
 自分の専攻分野とまったく異なる分野
 特に専攻分野は問わない

D11 最初の仕事では、自分の持っていた知識や技能をどの程度使っていましたか。

まったく使っていなかった とてもよく使っていた

1 2 3 4 5

D12 最初の仕事では、あなたが身につけていた知識や技能以上のものをどの程度要求されていましたか。

まったく要求されなかった	とても要求されていた			
1	2	3	4	5
<input type="checkbox"/>				

D13 現在も、最初の雇用先で働いていますか。

はい

いいえ、200|年|月|日、最初の雇用先を辞めた

E. 学部卒業後の職歴と、現在の状況についてうかがいます

E1 学部卒業後から通算して、いくつの雇用先で働きましたか。なお、現在の職場、自営業、一時的な仕事における雇用、6ヶ月以内に離職した仕事も1社と数えてください。

通算して|年|月|社目

E2 学部卒業後から現在までの就労期間は、通算してどれくらいですか。

通算して約|年|月|ヶ月

E3 学部卒業後からこれまでに、仕事をしていない時期はありましたか。該当する場合は、その回数と通算期間をお答えください。

はい、|回。通算して約|年|月|ヶ月間

いいえ

E4 あなたは、過去4週間に以下の活動を行いましたか。

職業的な能力開発のための教育や訓練への参加

はい、1週間あたり約|時間

いいえ

子育てや家族の世話

はい、1週間あたり約|時間

いいえ

ボランティア活動または無給の仕事

はい、1週間あたり約|時間

いいえ

E5 過去4週間に、有給の仕事（いまの仕事以外）を得るための求職活動を行いましたか。

はい

いいえ

いいえ ただし、それ以前に行った求職活動の結果を待っている

E6 あなたの社会的ネットワーク（友人、親類、同僚、学校の先生など）は、以下の点でどの程度役に立つと思いますか。

まったく役に立たない とても役に立つ

1 2 3 4 5

雇用機会などの情報を得るうえで

実際に採用されるうえで

起業するうえで

E7 現在、あなたは有給の仕事をいくつお持ちですか。自営業も含んだ数をお答えください。

1つ

2つ以上

現在働いていません → H1にお進みください

F. 現在の仕事についてうかがいます

現在の仕事が、最初の仕事(D 1)と同じ方は、現在の状況についてお答えください。

E7において、現在複数の仕事をお持ちの方は、もっとも労働時間が長いものについてお答えください。

F1 (1) 現在の仕事の職種をお答えください。

- 最初の仕事 (設問 D 1 (1) に回答したもの) と同じ
 最初の仕事 (設問 D 1 (1) に回答したもの) と異なる (16 頁のリストAから番号を選び、ご記入ください)

職業 [] → 「990 その他」を選択の方は、具体的にお書きください

具体的に _____

(2) 現在の仕事の内容を具体的にお書きください。

- 最初の仕事の内容 (設問 D 1 (2) に回答したもの) と同じ
 最初の仕事の内容 (設問 D 1 (2) に回答したもの) と異なる

具体的に → _____

F2 あなたは自営業ですか。

- いいえ はい → F 4 にお進みください

F3 現在の雇用先とは、どのような雇用契約を結びましたか。

- 雇用期間の定めがない契約 雇用期間の定めがある契約 | | | 年 | | | ヶ月
 その他 具体的に _____

F4 現在の仕事では、1週間に平均して何時間働いていますか。

現在の主な仕事 所定労働時間 約 | | | 時間

有給または無給の時間外労働時間 (残業時間を含む) 約 | | | 時間

その他の有給の仕事 (副業、サイドビジネスなど) 約 | | | 時間

F5 現在の仕事の年収 (税込み) はどれくらいですか。

現在の主な仕事 (残業または超過手当分を含む) 約 | | | | | 万円

その他の有給の仕事 (副業、サイドビジネスなど) 約 | | | | | 万円

F6 現在の仕事に、もっともふさわしいと思われる学歴は以下のどれですか。

大学院博士課程修了 大学院修士課程修了 大学学部卒 短大・高専卒 専門学校卒 高校卒

その他 具体的に _____

F7 現在の仕事に、もっともふさわしいと思われる専攻分野は以下のどれですか。

- 自分の専攻分野が、もっともふさわしい
 自分の専攻分野か、あるいはそれに関連する分野
 自分の専攻分野とまったく異なる分野
 特に専攻分野は問わない

F8 現在の仕事において、一人前としてみなされる能力・資質を獲得するためには、一般的に学部卒業後どのくらいの期間が必要だと思われますか。

6ヶ月以下 7～12ヶ月 1～2年 3～5年 6～10年 10年以上

F9 現在の仕事では、自分の持っている知識や技能をどの程度使っていますか。

まったく使っていない とてもよく使っている
1 2 3 4 5

F10 現在の仕事では、あなたが身に附いている知識や技能以上のものをどの程度要求されていますか。

まったく要求されない とても要求されている
1 2 3 4 5

F11 現在の仕事にどの程度満足していますか。

まったく満足していない とても満足している
1 2 3 4 5

F12 過去12ヶ月間に、仕事に関連する教育・訓練（社内の研修、資格取得を目的とした講座・通信教育、短期セミナー、自己啓発など）を受けましたか。ただし、1年以上の教育経験（設問B5でお答えいただいたもの）は除いてお答えください。

はい
 いいえ → G1にお進みください

F13 あなたが、設問F12の教育・訓練を受けた理由の中で、最も重要なものを以下からひとつだけお選びください。
複数の教育・訓練を受けた方は、代表的なものについてお答えください。

- 現在の仕事に関する最新の知識を得るため
- キャリアアップのため
- 現在とは異なる分野で働くための準備として
- 独立の準備のため
- その他 具体的に

G. 現在所属している組織（企業、官公庁、団体など）についてうかがいます

自営業の方はご自身について、あるいはご自身が経営・運営されている組織について、お答えください。

G1 あなたは現在の組織でいつから働いていますか。 西暦 年 月

G2 現在所属している組織の業種をお答えください。

最初の仕事（設問D 2に回答したもの）と同じ

最初の仕事（設問D 2に回答したもの）と異なる（16頁のリストBから番号を選び、ご記入ください）

業種 [] → 「26 その他」を選択の方は、具体的にお書きください
具体的に _____

G3 現在所属している組織は、公共部門ですか、それとも民間部門ですか。

- 公共部門
- 民間部門（非営利）
- 民間部門（営利）
- その他 具体的に _____

G4 あなたは現在どこで働いていますか。

日本 → _____ 都道府県 日本以外 → 国名 _____

G5	現在所属している組織では、市場競争はどのくらい厳しいですか。	まったく厳しくない	1	2	3	4	5	とても厳しい	6	非該当
		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>						

G7	現在所属している組織では、あなたが仕事をはじめてから、以下のような変化はありましたか。
	あなた自身の職務内容の大きな変化 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	組織の再編成 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	他社による合併や買収 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	大規模な人員解雇（リストラ） <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
	他の地域への移転 <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

G8	現在所属している組織は、イノベーション（革新）や新しい知識、手法などを率先して取り入れる方ですか。				
	とても先進的				とても後進的
	1	2	3	4	5
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

G10 現在所属している組織の全体の人数と事業所の人数をお答えください。

※初職(16頁D3)と同じ
組織に所属している方も
再度お答えください。

組織全体	事業所
<input type="checkbox"/> 1 ~ 9 人	<input type="checkbox"/> 1 ~ 9 人
<input type="checkbox"/> 10 ~ 49 人	<input type="checkbox"/> 10 ~ 49 人
<input type="checkbox"/> 50 ~ 99 人	<input type="checkbox"/> 50 ~ 99 人
<input type="checkbox"/> 100 ~ 249 人	<input type="checkbox"/> 100 ~ 249 人
<input type="checkbox"/> 250 ~ 999 人	<input type="checkbox"/> 250 ~ 999 人
<input type="checkbox"/> 1000 人 以上	<input type="checkbox"/> 1000 人 以上
	<input type="checkbox"/> 非該当、1事業所しかない

G11 あなたには、直接的・間接的に管理している部下がいますか。

はい → | | | | | 人 いいえ

G12 あなたは、以下の点についてどの程度責任がありますか。

	まったく責任がない			とても責任がある		
	1	2	3	4	5	
組織としての目標の設定	<input type="checkbox"/>					
自分の仕事の目標の設定	<input type="checkbox"/>					
組織としての目標を遂行するための戦略の決定	<input type="checkbox"/>					
自分の仕事の進め方の決定	<input type="checkbox"/>					

G13 以下のことがらは、どの程度あてはまりますか。

	まったくあてはまらない			とてもあてはまる			非該当
	1	2	3	4	5	6	
あなたの仕事の成果が、組織内の他の人の仕事ぶりに左右されることがある	<input type="checkbox"/>						
組織内の他の人の仕事の成果が、あなたの仕事ぶりに左右されることがある	<input type="checkbox"/>						
あなたは組織内において、他の人の仕事の出来映えを評価する責任がある	<input type="checkbox"/>						

G14 組織内の他の人（例えば、上司や同僚）は、あなたの個人の成果をどの程度客観的に評価できると思いますか。

	まったく評価できない			十分に評価できる			非該当
	1	2	3	4	5	6	
	<input type="checkbox"/>						

G15 あなたの上司は、あなたの仕事ぶりをどの程度綿密に点検していると思いますか。

	まったく綿密でない			とても綿密である			非該当
	1	2	3	4	5	6	
	<input type="checkbox"/>						

G16 あなたが大きなミスをしたり、あなたの業績が落ちたりした場合、どの程度の被害を所属する組織に対して及ぼすと思いますか。

	ほとんど被害がない			とても深刻な被害がある		
	1	2	3	4	5	
	<input type="checkbox"/>					

H. 職業的な能力とその活用についてうかがいます

H1 以下に示す能力について、(A)現在のあなたの獲得水準、(B)現在の仕事で必要とされている水準、(C)大学卒業時の獲得水準、のそれぞれについてお答えください。現在お仕事をされていない方は、(A)と(C)のみお答えください。

回答方法：

(A)から(C)までの右のそれぞれの尺度
に応じて、もっともあてはまると思う番号に○をつけてください。

回答例：

(A)まったく身に付いていない 1—2—3—4——6—7 十分に身に付いている
(B)まったく必要なない 1—2—3——5—6—7 とても必要
(C)まったく身に付いていない 1——3—4—5—6—7 十分に身に付いている

1	大学で学んだ学問分野や専門領域に精通していること	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	11	他の人の知識や能力を結集する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
2	その他の学問分野や専門領域に関する知識	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	12	他の人に自分の意図を明確に伝える力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
3	分析的に考察する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	13	自分の権限を適切に行使する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
4	新たな知識を素早く身につける力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	14	コンピュータやインターネットを活用する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
5	効果的に交渉する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	15	新たなアイディアや解決策を見つけ出す力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
6	プレッシャーの中で活躍する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	16	自己や他の人の考えを常に問い合わせ姿勢	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
7	新たなチャンスに機敏に対応する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	17	製品、アイディア、レポート等のプレゼンテーション能力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
8	複数の活動を調整する能力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	18	記録、資料、報告書等を作成する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
9	時間を有効に使う力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7	19	外国語で書いたり話したりする力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7
10	他の人と生産的に協働する力	(A)現在の自分の能力 1—2—3—4—5—6—7 (B)職場で必要な能力 1—2—3—4—5—6—7 (C)大学卒業時の能力 1—2—3—4—5—6—7			

H2 設問H 1で挙げた1～19の項目の中で、あなたが大学在学中に学んだ教育課程は、どの項目の育成の点で優れていた、あるいは劣っていたと思われますか。それぞれ最大3つまで、順番に数字で挙げてください。

優れていた点(順に)： 1番目 | ____ | 2番目 | ____ | 3番目 | ____ |

劣っていた点(順に)： 1番目 | ____ | 2番目 | ____ | 3番目 | ____ |

I. 大学の教育課程での学習経験を振り返って

I1 大学の教育課程で学んだことは、以下の点でどの程度役に立っていますか。

	まったく役に立っていない	とても役に立っている			
	1	2	3	4	5
働き始めるうえで	<input type="checkbox"/>				
職場で学習を進めていくうえで	<input type="checkbox"/>				
現在の仕事を遂行していくうえで	<input type="checkbox"/>				
将来のキャリアを展望するうえで	<input type="checkbox"/>				
人格の発達のうえで	<input type="checkbox"/>				
起業家としてのスキルを発展させるうえで	<input type="checkbox"/>				

I2 仮に、高校卒業後の進路選択をやり直せるとすれば、以下のどれを選びますか。

- 同じ大学の同じ専攻分野を選ぶ
- 同じ大学の違う専攻分野を選ぶ
- 違う大学の同じ専攻分野を選ぶ
- 違う大学の違う専攻分野を選ぶ
- 短期大学を選ぶ
- 専門学校を選ぶ
- 上記のいずれにも進学しない

J. あなたの価値観・志向性と、職場における満足度についてうかがいます

J1 以下に挙げる職場の特性は、(A) あなたにとってどの程度重要ですか。また、(B) 現在の仕事では、どの程度満たされていますか。現在お仕事をされていない方は、(A) 欄のみをご記入ください。

	(A) あなたにとって					(B) 現在の仕事では				
	まったく 重要でない		とても 重要である			まったく 満たされていない		十分に 満たされている		
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
仕事の自律性	<input type="checkbox"/>									
雇用や身分の保障	<input type="checkbox"/>									
新しいことを学ぶ機会	<input type="checkbox"/>									
高い収入	<input type="checkbox"/>									
新たな課題に挑戦すること	<input type="checkbox"/>									
キャリアの将来性	<input type="checkbox"/>									
余暇に使える十分な時間	<input type="checkbox"/>									
社会的な地位	<input type="checkbox"/>									
社会のために役立つこと	<input type="checkbox"/>									
仕事と家事の両立	<input type="checkbox"/>									

K. あなたご自身についてうかがいます

K1 性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性
K2 出生年	西暦	_____ _____ _____ _____年 _____月
K3 あなたは、これまでどこにお住まいでしたか。		
16歳のとき	<input type="checkbox"/> 日本	都道府県
	<input type="checkbox"/> 日本以外	国名 _____
大学生のとき	<input type="checkbox"/> 日本	都道府県
	<input type="checkbox"/> 日本以外	国名 _____
卒業後、最初の仕事に就いたとき	<input type="checkbox"/> 日本	都道府県
	<input type="checkbox"/> 日本以外	国名 _____
現在	<input type="checkbox"/> 日本	都道府県
	<input type="checkbox"/> 日本以外	国名 _____
K4 あなたは、大学在学中に、学習あるいは仕事のために海外で生活したことがありますか。（複数回答可）		
<input type="checkbox"/> はい、学習のために _____ _____ヶ月間		
<input type="checkbox"/> はい、仕事のために _____ _____ヶ月間		
<input type="checkbox"/> いいえ		
K5 あなたは、大学卒業後、学習あるいは仕事のために海外で生活したことがありますか。（複数回答可）		
<input type="checkbox"/> はい、学習のために _____ _____ヶ月間		
<input type="checkbox"/> はい、仕事のために _____ _____ヶ月間		
<input type="checkbox"/> いいえ		
K6 あなたは、大学在学中の最後の1年間、誰と生活していましたか。（複数回答可）		
<input type="checkbox"/> 1人で		
<input type="checkbox"/> 配偶者・パートナー		
<input type="checkbox"/> 両親		
<input type="checkbox"/> その他 具体的に _____		
K7 現在は、誰と生活していますか。（複数回答可）		
<input type="checkbox"/> 1人で		
<input type="checkbox"/> 配偶者・パートナー		
<input type="checkbox"/> 両親		
<input type="checkbox"/> その他 具体的に _____		
K8 お子さんはいらっしゃいますか。		
<input type="checkbox"/> はい、1人		
<input type="checkbox"/> はい、2人		
<input type="checkbox"/> はい、3人以上		
<input type="checkbox"/> いいえ → K10にお進みください		

K9 一番上のお子さんと、一番下のお子さんの年齢はいくつですか。

一番上のお子さんの年齢 | | | 歳

一番下のお子さんの年齢 | | | 歳

K10 あなたのご両親の最終学歴は、以下のどれにあたりますか。

また、配偶者・パートナーがいらっしゃる方は、その方の最終学歴は以下のどれにあたりますか。

	中卒	高卒	短大・専門学校・ 高専卒	大学卒	大学院卒 (修士・博士課程)	その他
父	<input type="checkbox"/>					
母	<input type="checkbox"/>					
配偶者・パートナー	<input type="checkbox"/>					

K11 アンケートにお答えいただいた日付をお答えください。

200 | | 年 | | | 月 | | | 日

ご協力ありがとうございました。

ご協力のお礼として謝品を用意しております。また、本研究では数年後に追跡調査を実施する予定です。
つきましては、追跡調査へのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

謝品を希望される方、また追跡調査にご協力いただける方は、下記の□に必ずチェックを入れてください。その際、この調査票からは、あなたの名前とご住所を特定することができませんので、以下に必ずお名前とご住所をお書きください。ご記入いただいたお名前とご住所は、謝品の発送あるいは追跡調査の送付以外の目的で使用することは一切ありません。

謝品を希望します。

今後、追跡調査に協力します。

お名前： _____

郵便番号：〒_____

ご住所：_____

また、本調査の「結果の概要」をご希望される方は、以下にe-mailアドレスをご記入ください。

「結果の概要」を希望します。

e-mailアドレス：_____

リストA：職業

【管理的職業】	【事務的職業】
110 議員や管理的公務員	411 総務・企画に関わる事務・総合職
120 経営者や企業の部門長	412 営業や顧客サービスに関わる事務・総合職
130 その他の一般管理職	413 その他の事務・総合職 416 秘書や事務機器の操作会計に関わる事務・一般職
【専門的職業】	417 運輸や通信に関わる事務・一般職
210 物理や数学、コンピュータ、建築などに関わる専門職、技術者	418 営業や顧客サービスに関わる事務・一般職
220 生命や医療、看護に関わる専門職	419 その他の事務・一般職
230 大学や学校、幼稚園などの教員	
241 ビジネスに関わる専門職	【サービスや販売の職業】
242 法務に関わる専門職	510 サービス職業従事者
243 公文書管理や司書に関わる専門職	520 販売従事者
244 その他の社会科学系の専門職	
245 著述家、音楽家、芸術家	【その他の職業】
246 宗教家	600 農業、漁業の熟練作業者 700 職人及び関連職務の従事者
【準専門的な職業（専門職を補助する仕事に従事する者）】	800 装置や機械、自動車等の運転作業者・組立工
310 物理や数学、コンピュータ、建築などに関わる分野	900 単純作業の従事者
320 生命や医療、看護に関わる分野（医師・看護士等を補助する者）	980 保安（警察や自衛官）職業従事者
330 教育に関わる分野（学校教員等を補助する者）	990 その他
340 その他の分野	

リストB：業種

1 農業、林業、漁業	14 その他の商業サービス
2 鉱業、採石業	15 外務、司法、公共安全
3 製造業	16 その他の行政（一般の公務など）
4 電気、ガス、水道業	17 小学校
5 建設業	18 中学校、高校、専修学校高等課程
6 御壳・小売業、飲食店、修理業、ホテル	19 高等教育（大学・短大・専門学校）
7 運輸、通信、倉庫業	20 成人教育、各種学校、その他の教育
8 金融・保険業	21 医療・保健
9 コンピュータ関連産業（コンサルタントやサプライ）	22 ソーシャルワーク
10 研究・開発	23 団体（職業団体、宗教団体、労働組合など）
11 不動産業、賃貸業他	24 文化、スポーツ
12 法律、会計、簿記、査定、市場調査ビジネス・コンサルタントなど	25 その他のサービス業
13 建築設計、工業技術コンサルタント	26 その他

Master questionnaire

- This questionnaire is about the study programme that you finished in 1999/2000.
Unless explicitly indicated otherwise, the term 'study programme' refers to this study programme.
- If you finished more than one study programme in 1999/2000, we would like you to refer to the study programme you consider the most important for your professional development.
- Please use a black or blue pen to fill in the questionnaire.
- Please mark your answer by placing a cross in the relevant box.
Some questions allow multiple answers. Where this is the case, this is clearly indicated.
- If you would like to correct your answer, completely blacken the box, and mark the right answer.
- If the question requires you to fill in a number, please fill in only one digit per box.
- If the question requires you to fill in text, please use capital letters.
- If you are unsure of the exact answer to some questions, please estimate the answer to the best of your ability.

A Study programme you graduated from in 1999/2000

A1 What was the name of the study programme?

Study programme (e.g. economics, civil engineering):

.....
Major or specialisation:

What was the type of qualification?

Bachelors (please specify, e.g. BA, BSc Hons)

.....
 Masters (please specify, e.g. MA, MEd)

.....
 Other (please specify)

What was the name of the institution from which you graduated?

Name of the institution:

A2 What was the start and end date of this study programme?

Start: (month) (year)

End: (month) (year)

If your study programme was a masters programme, what was the start and end date of your preceding bachelors programme?

Start: (month) (year)

End: (month) (year)

not applicable

Did you at any time interrupt this study programme (including, if applicable, the preceding bachelors programme) for 4 or more months? If so, for how many months?

- Do not count interruptions related to your study, such as internships or study abroad
- Do not count interruptions between bachelors and masters programmes

yes, for (months)

no

A3 What was your average grade when you finished this study?

6 6.5 7 7.5 8 8.5 9 or higher

How do you rate this grade compared to other students that graduated from your study programme?

much lower than average 1 2 3 4 5 much higher than average cannot tell

A4 How would you describe your situation in the last one to two years of your study?

fulltime student (study was my main activity)

part-time student (study was not my main activity)

A5 Which of the following were used as selection criteria for your entry to the study programme?

diploma in secondary education

yes no

grades achieved in secondary education

yes no

prior qualification in higher education

yes no

grades achieved in prior higher education

yes no

results of special entry exams

yes no

other selection (please specify):

yes no

A6 To what extent did the following descriptions apply to your study programme?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

- | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| The programme was generally regarded as demanding | <input type="checkbox"/> |
| Employers are familiar with the content of the programme | <input type="checkbox"/> |
| There was freedom in composing your own programme | <input type="checkbox"/> |
| The programme had a broad focus | <input type="checkbox"/> |
| The programme was vocationally orientated | <input type="checkbox"/> |
| The programme was academically prestigious | <input type="checkbox"/> |

A7 To what extent were the following modes of teaching and learning emphasized in your study programme?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

- | | | | | | |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| Lectures | <input type="checkbox"/> |
| Group assignments | <input type="checkbox"/> |
| Participation in research projects | <input type="checkbox"/> |
| Internships, work placement | <input type="checkbox"/> |
| Facts and practical knowledge | <input type="checkbox"/> |
| Theories and paradigms | <input type="checkbox"/> |
| Teacher as the main source of information | <input type="checkbox"/> |
| Project and/or problem-based learning | <input type="checkbox"/> |
| Written assignments | <input type="checkbox"/> |
| Oral presentations by students | <input type="checkbox"/> |
| Multiple choice exams | <input type="checkbox"/> |

A8 Did you take part in one or more work placements/internships as part of your study programme?

yes, for approximately _____ months in total
 no

A9 To what extent do the following descriptions apply to your study behaviour?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

- | | | | | | |
|---|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| I did extra work above what was required to pass my exams | <input type="checkbox"/> |
| I strived for the highest possible marks | <input type="checkbox"/> |

A10 Altogether, approximately how many hours did you spend on your study?

_____ hours per week

- Please refer to a typical semester week during the last one to two years of the programme
- Include activities such as lectures, self-study, internships etc.

B Other educational and related experiences

B1 What was your highest qualification before you entered higher education for the first time?

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> academic secondary education |
| <input type="checkbox"/> non-academic general secondary education |
| <input type="checkbox"/> vocational secondary education |
| <input type="checkbox"/> other (please specify) |

B2 What was your average final examination grade when you finished secondary education?

6 6.5 7 7.5 8 8.5 9 or higher

B3	Did you acquire any study-related work experience:				
- Either fulltime or part-time					
- Not work placements/internships already reported in A8					
before higher education?		<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ months		<input type="checkbox"/> no	
during higher education?		<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ months		<input type="checkbox"/> no	
B4	Did you acquire any non study-related work experience:				
- Either fulltime or part-time					
before higher education?		<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ months		<input type="checkbox"/> no	
during higher education?		<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ months		<input type="checkbox"/> no	
B5	During your time in higher education, did you hold a position in student or other voluntary organizations? (e.g. chair, committee member)	<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ months			<input type="checkbox"/> no
B6	In addition to the study programme described in block A, have you ever enrolled in any of the following types of study/training programme?	<input type="checkbox"/> (additional) bachelor or master level programmes <input type="checkbox"/> PhD programme <input type="checkbox"/> other postgraduate qualifications (<i>including professional qualifications pursued in combination with work</i>) <input type="checkbox"/> no → go to C1			
B7	Please provide information on these study/training programmes <i>If more than 2, select the 2 programmes you regard as most important for your professional development</i>	Study/training programme 1		Study/training programme 2	
Name of study/training programme				
Type of study/training programme		<input type="checkbox"/> bachelor	<input type="checkbox"/> bachelor	<input type="checkbox"/> master	<input type="checkbox"/> master
		<input type="checkbox"/> PhD	<input type="checkbox"/> PhD	<input type="checkbox"/> other postgraduate qualification	<input type="checkbox"/> other postgraduate qualification
		<input type="checkbox"/> other (please specify)	<input type="checkbox"/> other (please specify)	<input type="checkbox"/> other (please specify)	<input type="checkbox"/> other (please specify)
When did you start?		_____ (month)	_____ (month)	_____ (year)	_____ (year)
Did you gain the qualification?		<input type="checkbox"/> yes, on _____ (month) _____ (year)	<input type="checkbox"/> yes, on _____ (month) _____ (year)	<input type="checkbox"/> no, left without qualification	<input type="checkbox"/> no, left without qualification
		<input type="checkbox"/> no, still enrolled	<input type="checkbox"/> no, still enrolled		
C Transition from study to work					
C1	Have you ever had paid work since graduation in 1999/2000?	<input type="checkbox"/> yes, I continued (for more than 6 months) the work I already had during study → go to C5 <input type="checkbox"/> yes, I have started to work <input type="checkbox"/> no → go to E3			
C2	When did you start being employed after graduation in 1999/2000?	_____ (month) _____ (year)			
C3	When did you begin looking for work?	<input type="checkbox"/> Prior to graduation in 1999/2000 <input type="checkbox"/> Around the time of graduation <input type="checkbox"/> After graduation in 1999/2000 <input type="checkbox"/> Got work without searching → go to C5			

C4 How many months did you search before you obtained this employment:
before graduation: _____ months
after graduation: _____ months

C5 How did you find this work?
· Single answer only

through advertisement in newspaper
 through public employment agency
 through private employment agency
 through internet
 contacted employer on own initiative
 approached by employer
 through work placement during higher education
 through family, friends or acquaintances
 through help of higher education institution
 set up my own business
 other (please specify)

D First job after graduation

The following questions refer to your situation as it was when you **first started** (self)employment after graduation in 1999/2000.

- Exclude jobs you left within 6 months after graduation
- If you continued (for more than 6 months) in (self)employment you already had before graduation, please refer to the situation as it was **immediately after graduation**
- Include trainee jobs

D1 What was your occupation or job title at that time?
(e.g. civil engineer, lawyer, assistant accountant, nurse)

D2 Please describe your main tasks or activities at that time.
(e.g. analysing test results, making diagnoses, teaching classes, developing a marketing plan)

D3 In what economic sector did you work?
(e.g. car manufacturing, primary school, hospital)

What kind of product or service did the organization or – if you were self-employed – you provide?
(e.g. nursing patients, computer components, legal advice, scientific research)

D4 Were you self-employed?

yes → go to D6

no

D5 What type of contract did you have when you started/at the time of graduation?

unlimited term
 fixed-term, for _____ months
 other (please specify):

D6 What was the number of regular/contract hours?

_____ Hours per week

D7 What were your **gross monthly** earnings when you started this work or at the time of graduation, if you were already in this job?

Approximately _____ Euros per month
or _____ DM per month

D8 Did this work involve an initial training period?
· Multiple reply possible

yes, through training or courses for _____ months
 yes, through informal learning for _____ months
 no

D9 What type of education do you feel was most appropriate for this work?	<input type="checkbox"/> PhD <input type="checkbox"/> other postgraduate qualification <input type="checkbox"/> master <input type="checkbox"/> bachelor <input type="checkbox"/> lower than higher education
D10 What field of study do you feel was most appropriate for this work?	<input type="checkbox"/> exclusively own field <input type="checkbox"/> own or a related field <input type="checkbox"/> a completely different field <input type="checkbox"/> no particular field
D11 To what extent were your knowledge and skills utilized in this work?	not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
D12 To what extent did this work demand more knowledge and skills than you could actually offer?	not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
D13 Are you still in your first employment?	<input type="checkbox"/> yes <input type="checkbox"/> no, I left that employment in: _____ (month) _____ (year)
E Employment history and current situation	
E1 How many employers have you had altogether since graduation in 1999/2000? - Including yourself if you have been self-employed - Including current employer	_____ employers
E2 How long in total have you been employed since graduation in 1999/2000?	approximately _____ months
E3 Have you ever been unemployed (that is, not employed <i>and</i> seeking employment) since graduation in 1999/2000?	<input type="checkbox"/> yes, _____ times, for a total of approximately _____ months <input type="checkbox"/> no
E4 In the past 4 weeks, were you engaged in:	
further education or other training related to your professional development?	<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ hours per week <input type="checkbox"/> no
child rearing or family care?	<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ hours per week <input type="checkbox"/> no
unpaid/voluntary work?	<input type="checkbox"/> yes, for approximately _____ hours per week <input type="checkbox"/> no
E5 Have you actively tried to obtain (other) paid work in the past 4 weeks?	<input type="checkbox"/> yes <input type="checkbox"/> no <input type="checkbox"/> no, but I am awaiting the results of earlier job applications
E6 How useful do you consider your social network (friends, relatives, colleagues, former teachers etc.) would be if you: needed information on job opportunities needed help in directly obtaining work needed help in setting up your own business?	not very useful 1 2 3 4 5 very useful <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
E7 Are you currently in paid employment? - Include self-employment	<input type="checkbox"/> yes, I have one job <input type="checkbox"/> yes, I have more than one job <input type="checkbox"/> no → <i>go to H1</i>

F Current work

Please answer these questions about your **current (self)employment situation**

- If you are still in the job you first held after graduation in 1999/2000, please answer these questions for the situation as it is now
- If you have more than one job, please answer the questions for the job in which you work the **highest number of hours**

F1 What is your current occupation or job title?

(e.g. civil engineer, lawyer, assistant accountant, nurse)

the same as listed above for first job

other (please specify): _____

F2 Please describe your current main tasks or activities.

(e.g. analysing test results, making diagnoses, teaching classes, developing a marketing plan)

the same as listed above for first job

other (please specify): _____

F3 Are you self-employed?

yes

no → go to F5

F4 Are you mainly dependent on one client or several clients?

mainly one client → go to F6

several clients → go to F6

F5 What is your current type of contract?

unlimited term

fixed-term, for _____ months

other (please specify): _____

F6 What are your average working hours?

Regular/contract hours in main employment

_____ per week

Paid or unpaid average overtime in main employment

_____ per week

Average hours in other paid work

_____ per week

F7 What are your gross monthly earnings?

From contract hours in main employment

about _____ EURO per month

From overtime or extras in main employment

about _____ EURO per month

From other work

about _____ EURO per month

F8 What type of education do you feel is most appropriate for this work?

PhD

other postgraduate qualification

master

bachelor

lower than higher education

F9 What field of study do you feel is most appropriate for this work?

exclusively own field

own or a related field

a completely different field

no particular field

F10 How much time would it take for an average graduate with the relevant educational background to become an expert in this kind of work?

6 months or less

7 to 12 months

1 to 2 years

3 to 5 years

6 to 10 years

more than 10 years

F11 To what extent are your knowledge and skills utilized in your current work?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

F12 To what extent does your current work demand more knowledge and skills than you can actually offer?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

F13 How satisfied are you with your current work?

very dissatisfied	1	2	3	4	5	very satisfied
<input type="checkbox"/>						

F14 Did you follow any work-related course/training in the past 12 months?
 - Not the ones you already mentioned previously in block B

yes
 no → **G1**

F15 What was the most important reason you had for following this course?
 - If more than one course, please refer to the most important one
 - One answer only

to update my knowledge for my present work
 to enhance my career
 to prepare myself for working in another field
 to prepare myself for self-employment
 other (please specify):

G Work organization

The following questions refer to the organization in which you are currently employed
 - If you are self-employed, these questions apply to yourself or, if applicable, to the organization you run

G1 When did you start working with your current employer/
 start your self-employment? _____ months _____ (year)

G2 In what economic sector do you work?
 (e.g. car manufacturing, primary school, hospital)

the same as listed above for first job
 other (please specify):

What kind of product or service does the organization provide?
 (e.g. nursing patients, computer components, legal advice, scientific research)

the same as listed above for first job
 other (please specify):

G3 Do you work in the public or private sector?

public sector
 private non-profit sector
 private profit sector
 other (please specify):

G4 Where do you work?

Town/city:
 Country: UK other (please specify):

G5 How strong is the competition in the market in which your organization operates?

very weak	1	2	3	4	5	very strong	question not applicable
<input type="checkbox"/>							

G6 Does your organization compete mainly by price or by quality?

mainly price	1	2	3	4	5	mainly quality	question not applicable
<input type="checkbox"/>							

G7 How stable is demand in the market in which your organization operates?

highly stable	1	2	3	4	5	highly unstable	question not applicable
<input type="checkbox"/>							

G8 What is the scope of operations of your organization?

local
 regional
 national
 international

G9 Which of the following changes have taken place in your organization since you started working there?

- | | | |
|------------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| Major change in my own work tasks | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no |
| Reorganization | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no |
| Merger or takeover by another firm | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no |
| Large-scale layoffs of personnel | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no |
| Relocation to another region | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no |

All kinds of organizations may be confronted with a need to innovate. This applies not only to industrial or commercially-based service organizations, but also to, for example, public service organizations.

G10 How would you characterize the *extent of innovation* in your organization or your work, with respect to the following aspects?

- | | very low | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | very high |
|----------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-----------|
| product or service | <input type="checkbox"/> | |
| technology, tools or instruments | <input type="checkbox"/> | |
| knowledge or methods | <input type="checkbox"/> | |

G11 Do you play a role in *introducing* these innovations in your organisation?

- | | | | |
|----------------------------------|------------------------------|-----------------------------|---|
| product or service | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no | <input type="checkbox"/> not applicable, no innovations |
| technology, tools or instruments | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no | <input type="checkbox"/> not applicable, no innovations |
| knowledge or methods | <input type="checkbox"/> yes | <input type="checkbox"/> no | <input type="checkbox"/> not applicable, no innovations |

G12 Is your organization normally at the forefront when it comes to adopting innovations, new knowledge or new methods, or is it more a follower?

- | mainly at the forefront | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | mainly a follower |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------------------|
| <input type="checkbox"/> | |

G13 How are higher positions usually obtained in your organization?

- | by internal appointments | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | by external appointments | question not applicable |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> |

G14 How many people work in your organization and, if applicable, your own location?

- | total organization | location |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 1-9 | <input type="checkbox"/> 1-9 |
| <input type="checkbox"/> 10-49 | <input type="checkbox"/> 10-49 |
| <input type="checkbox"/> 50-99 | <input type="checkbox"/> 50-99 |
| <input type="checkbox"/> 100-249 | <input type="checkbox"/> 100-249 |
| <input type="checkbox"/> 250-999 | <input type="checkbox"/> 250-999 |
| <input type="checkbox"/> 1000 or more | <input type="checkbox"/> 1000 or more |
| | <input type="checkbox"/> not applicable, only one location |

G15 Do you directly or indirectly supervise other members of staff?

- | |
|---|
| <input type="checkbox"/> yes, I supervise _____ staff members |
| <input type="checkbox"/> no |

G16 To what extent are you responsible for:

- | not at all | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | to a very high extent |
|------------|---|---|---|---|---|-----------------------|
|------------|---|---|---|---|---|-----------------------|

- | | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--|
| setting goals for the organization? | <input type="checkbox"/> | |
| setting goals for your own work? | <input type="checkbox"/> | |
| deciding work strategies for the organization? | <input type="checkbox"/> | |
| deciding how you do your own job? | <input type="checkbox"/> | |

G17 To what extent do the following statements apply to your professional role?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

Professional colleagues rely on me as an authoritative source of advice I keep my professional colleagues informed about new developments in my field of work I take the initiative in establishing professional contacts with experts outside the organization Taking account of professional ethics is part of my work

G18 To what extent:

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent Not applicable, there are no others

are the results of your work dependent on the performance of others in the organization? are the results of the work of others in the organization dependent on your performance? are you responsible for assessing the quality of the work of others in the organisation?

G19 To what extent can your individual performance be objectively assessed by others (e.g. supervisor, colleagues)?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent Not applicable, I have no supervisor or colleagues

G20 How closely is your performance monitored by your own supervisor?

not very closely 1 2 3 4 5 very closely Not applicable, I have no supervisor

G21 How damaging would it be for the organization if you made major mistakes or omissions in the performance of your work?

hardly damaging 1 2 3 4 5 extremely damaging

H Competencies

H1 Below is a list of competencies. Please provide the following information:

- How do you rate your own level of competence?
- What is the required level of competence in your current work?

If you are not currently employed, only fill in column A

- a Mastery of your own field or discipline
- b Knowledge of other fields or disciplines
- c Analytical thinking
- d Ability to rapidly acquire new knowledge
- e Ability to negotiate effectively
- f Ability to perform well under pressure
- g Alertness to new opportunities
- h Ability to coordinate activities
- i Ability to use time efficiently
- j Ability to work productively with others
- k Ability to mobilize the capacities of others
- l Ability to make your meaning clear to others
- m Ability to assert your authority
- n Ability to use computers and the internet
- o Ability to come up with new ideas and solutions
- p Willingness to question your own and others' ideas
- q Ability to present products, ideas or reports to an audience
- r Ability to write reports, memos or documents
- s Ability to write and speak in a foreign language

	A Own level							B Required level in current work						
	Very low		↔			very high		Very low		↔			very high	
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
a	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
b	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
c	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
d	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
e	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
f	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
g	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
h	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
i	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
j	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
k	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
l	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
m	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
n	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
o	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
p	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
q	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
r	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							
s	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>							

H2 Name a maximum of 3 competencies from the list above that you regard as **strong** points, and a maximum of three competencies that you regard as **weak** points of your study programme.

- fill in letters corresponding to the relevant competencies

Strong points: 1 2 3

Weak points: 1 2 3

I Evaluation of study programme

I1 To what extent has your **study programme** been a good basis for:

Starting work?

not at all 1 2 3 4 5 to a very high extent

Further learning on the job?

Performing your current work tasks?

Future career?

Your personal development?

Development of entrepreneurial skills?

- I2** Looking back, if you were free to choose again would you choose the same study programme at the same institute of higher education?
- Yes
 No, a different study programme at the same institute
 No, the same study programme at a different institute
 No, a different study programme at a different institute
 No, I would decide not to study at all

I Values and orientations

- J1** Please indicate how important the following job characteristics are to you personally, and to what extent they actually apply to your current work situation
- If you are not currently employed, only fill in column A

	A Importance					B Apply to current work				
	not at all 1	2	3	4	very important 5	not at all 1	2	3	4	to a very high extent 5
Work autonomy	<input type="checkbox"/>									
Job security	<input type="checkbox"/>									
Opportunity to learn new things	<input type="checkbox"/>									
High earnings	<input type="checkbox"/>									
New challenges	<input type="checkbox"/>									
Good career prospects	<input type="checkbox"/>									
Enough time for leisure activities	<input type="checkbox"/>									
Social status	<input type="checkbox"/>									
Chance of doing something useful for society	<input type="checkbox"/>									
Good chance to combine work with family tasks	<input type="checkbox"/>									

K About yourself

- K1** Gender male female
- K2** Year of birth 19

K3 Country of birth of:

Yourself UK other (please specify)

Mother UK other (please specify)

Father UK other (please specify)

Optional ethnicity question

K4 Where did/do you mainly live:

At age 16? Town/city:

Country: UK other (please specify)

During your study programme?

Town/city:

Country: UK other (please specify)

When starting first employment after graduation in 1999/2000?

Town/city:

Country: UK other (please specify)

At present?

Town/city:

Country: UK other (please specify)

K5 Did you spend any time abroad *during* higher education for study or work?

• *Multiple reply possible*

yes, _____ months for study

yes, _____ months for work-related reasons

no

K6 Have you spent any time abroad *since* graduating from higher education for study or work?

• *Multiple reply possible*

yes, _____ months for study

yes, _____ months for work-related reasons

no

K7 How did you live during the last year of your study programme?

Alone (incl. single parent)

With a partner

With parents

Other, please specify

K8 How do you live at present?

Alone (incl. single parent)

With a partner

With parents

Other, please specify

K9 Do you have children?

yes, 1 child

yes, 2 children

yes, 3 or more children

no → *go to K11*

K10 What is the age of the oldest and (in case of more than 1) the youngest?

Age of oldest child _____ years

Age of youngest child _____ years

K11 What is your parent's and, if applicable, partner's highest education?

Father

ISCED 1+2

ISCED 3+4

ISCED 5+6

Mother

ISCED 1+2

ISCED 3+4

ISCED 3+4

ISCED 1+2

ISCED 5+6

ISCED 5+6

not applicable

K12 Date of completion of questionnaire

Day: _____ Month: _____

Comments or suggestions

Thank you very much for your cooperation!

Feedback of results:

The results of this project will be made available through the project's website.

If you would like to receive a summary of the results, please fill in your e-mail address below:

Yes I would like to receive a summary of the results.

My e-mail address is:

Follow-up survey:

It is possible that this study will be repeated in a few years from now. Would you be willing to participate in such a follow-up study? If so, please provide us with your name and current address.

Yes, you can approach me for future research.

Name:

Address:

Postal code:

Town:

Country:

No, I don't want to participate in future research

「卒業生のキャリアと大学教育の評価に関する日欧調査」

-概要（2009年1月版）-

- ▽ 日本と欧州の15カ国で、大学卒業生3万人の大学生活と卒業後5年間の初期キャリアについて、共同して共通枠組みでの調査を実施した。
- ▽ 調査結果から
 - 大学教育は、日欧とも卒業時点での就職よりもキャリア形成や人格形成に役立つ。
 - 大学教育では、日欧とともに、全般に講義、レポート、学術性が重視されていた。インターンシップの重視度は日本では11項目中で最低、逆に「客観式テスト」の比重は欧州諸国よりも高い。インターンシップだけでなく、アルバイトを含む大学の専門と関連した就業経験がある者ほど大学教育の有用性を高く評価している。
 - 卒業直後に大学卒にふさわしい仕事についている卒業生は、日本で必ずしも高くないうが、欧州内でも違いが大きい。英国で特に少なく、日本は、欧州大陸系諸国と英国の中間に位置する。
 - 卒業後5年を経過すると、英国や日本では、大学卒にふさわしい仕事についている卒業生が顕著に増加している。
- ▽ 調査と集計結果の詳細および問い合わせ先
 - 研究代表者 : 吉本 圭一 九州大学人間環境学研究院・教授
 - 研究ホームページ : <http://www.j-reflex.jp>
 - e-mail : reflx@gmail.com

1. 調査概要

【日本】

□調査の主体：文部科学省基盤研究（A）「企業・卒業生による大学教育の点検・評価に関する日欧比較研究」（研究代表者・吉本圭一・九州大学教授）

□調査の時期：2006（平成17）年3月～2007（平成19）年3月

□調査の対象：全国60大学82学部・研究科を2001年3月に卒業した者

□調査の実施：各大学の協力を得て、郵送法調査およびWeb調査を併用して実施

□回収状況：2,501名（うち大学学部卒2,279、大学院卒222）有効回収率18.1%

【欧州】

□参加国：オーストリア、ベルギー、チェコ、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、イタリア、日本、オランダ、ノルウェー、ポルトガル、スペイン、スイス、イギリス 計15カ国

□調査の企画：9カ国の研究機関・研究者の企画による欧州委員会採択の重点的政策科学的研究

（代表者、Rolf van der Velden（オランダ・マーストリヒト大学教育労働市場センター・教授）

□調査の時期：主に2005年調査実施（一部の国は2006～2007年）

□調査の対象：各国の第一学位相当の高等教育課程を2000年（一部2001年）に卒業した者

□調査の実施：郵送法調査およびWeb調査を併用して実施

□回収データ：概要版データは、33,587人（ポルトガル、スイスを除く13カ国、学士レベル19,023人、修士レベル14,564人）

2. 在学中の活動

図表1. 教育課程で重視されていたこと

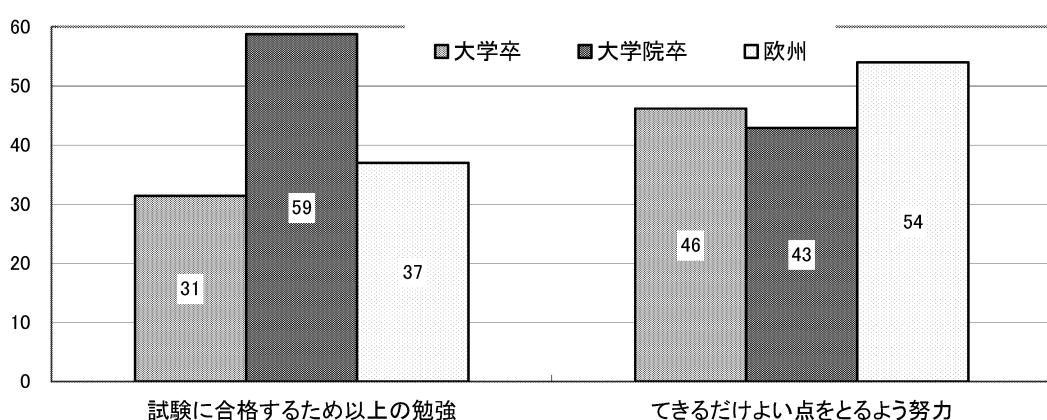
	大学卒	大学院卒	欧州
講義	1	3.8	1
論文やレポートの執筆	2	3.6	4
学問的理論や概念	3	3.5	2
教師の主導性	4	3.3	3
グループ学習	5	2.9	5
口頭でのプレゼンテーション	6	2.8	6
経験・実務的知識	7	2.7	7
問題解決学習	8	2.6	8
選択式の客観試験	9	2.5	10
研究プロジェクトへの参加	10	2.5	11
インターンシップ	11	2.2	9

注)数値は5段階評定平均、左は重要度の項目間順位

□日本の大学卒の目に映った在学時の大学教育の特徴は、「講義」「論文やレポートの執筆」「学問的理論や概念」「教師の主導性」が重視されていたことである。大学院卒ではこれに「口頭でのプレゼンテーション」が加わる。

□欧州と比較すると、日欧ともほぼ同様の傾向にあるが、日本では「論文やレポートの執筆」「研究プロジェクトへの参加」がより重視されていたことが明らかになった。逆に、インターンシップの重視度が11項目中最底であり、数値も低い。また、選択式の客観試験は中程度の重視度であり、欧州と比較して相対的に比重が重い。

図表2. 学習態度

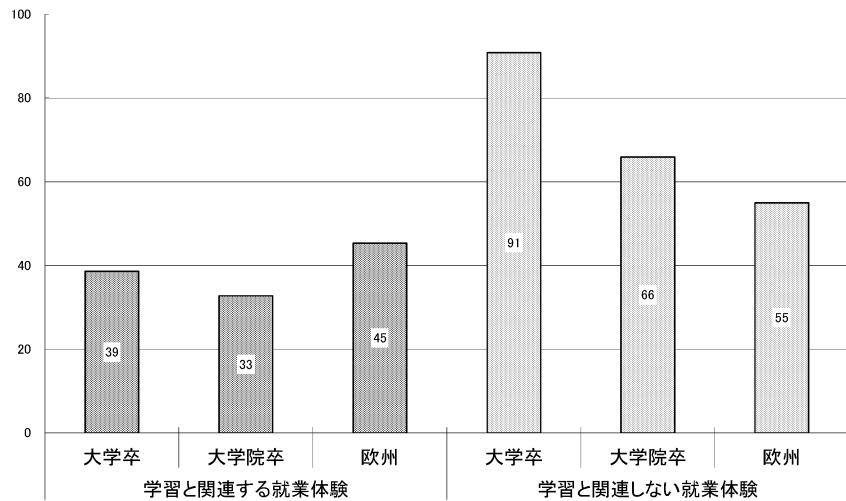


□日本の大学卒で、自分の当時の学習に対する態度については、「試験に合格するため以上の勉強をした」と回答する者は31%（大学院卒では59%）、また、「できるだけよい点をとるよう努力した」というのも、46%と半数を下回っていた。また、これらは欧州と比較して、若干低い数値である。

□在学中の1週間の平均学習時間（授業への出席を含む）は、大学卒で24時間、大学院卒で34時間であり、欧州の平均値35時間よりも少ない。



図表3. インターンシップなどの就業体験と就業経験

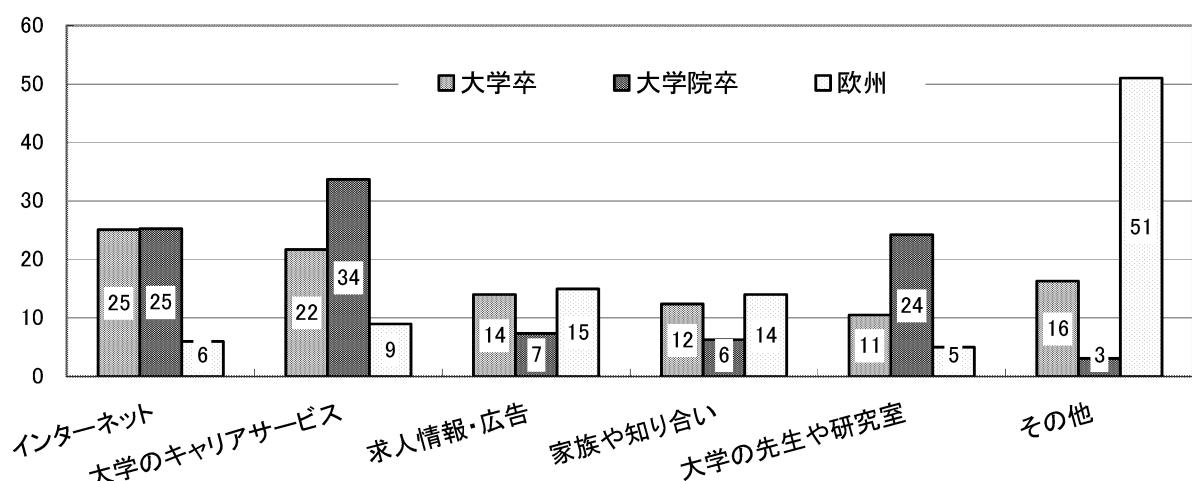


□大学での学習と関係するインターンシップやアルバイトの経験をしている者は、日本の大学卒で38%にとどまり、大学院卒でも32%である。欧州では45%が大学の学習と関係する就業経験を持っており、大きな違いがある。ただし、欧州内の国ごとの違いが大きいことも指摘できる。ドイツ62%、オーストリア71%、フィンランド70%では学習と関連している就業体験を持っているが、イタリア22%、イギリス21%、ベルギー22%では日本の大学卒・大学院卒よりも学習と関連している就業体験をしていないことが分かる。

□就業経験一般についてみれば、大学での学習と関係しないインターンシップやアルバイトの経験をしている大学卒は90%あり、大学院卒で85%である。欧州では大学の学習と関係しない就業経験を持つ者は55%と必ずしも多くない。

□インターンシップだけでなく、アルバイトを含む大学での学習専門と関係する就業経験をしている日本の大学卒の50%、大学院卒の42%、欧州の63%が、学習と関連のある就業体験を持つことが仕事を見つけるうえで役に立った（＝大学教育の有用性がある）と評価している。なお、大学での学習と関係する就業体験をしていない日本の大学卒の32%、大学院卒の58%、欧州の54%が、仕事を見つけるうえで大学教育が役に立ったと評価している。

図表4. 就職先をみつける際に最も重要だったこと



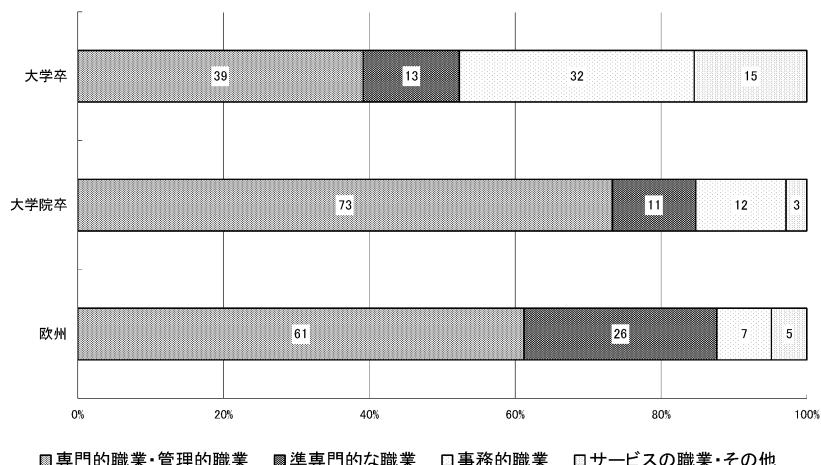


□日本で、卒業前に就職活動を開始したのは大学卒の77%、大学院卒の83%で、大学卒で卒業後に開始した者も11%いる（大学院卒は5%）。これは欧州での卒業前47%、卒業後33%と比べて早い段階で就職活動を始めていることがわかる。

□就職先をみつける重要な手段は、大学卒では「インターネット」「大学のキャリアサービス」の順だが、残りの5割の者はさまざまな手段を利用している。これに対して、大学院卒では、「大学のキャリアサービス」「大学の先生や研究室」「インターネット」の3つで8割を占めており、特に大学教員との関わりが大きいことがわかる。
□欧州では、「インターネット」（6%）「大学のキャリアサービス」（9%）の利用が少なく、その他「会社に直接接触（23%）」「会社からの勧誘（11%）」の手段の利用も多い。

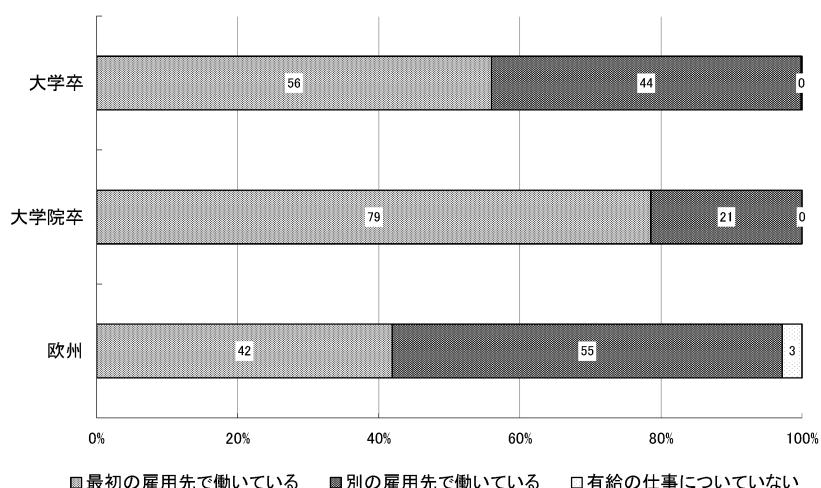
3. 仕事の状況

図表5. 卒業後の初職の職業



□卒業時の初職として、日本の大学卒では39%が専門的職業・管理的職業に就職しているが、事務的職業に就職している者も32%いる。大学院卒では、専門的職業就職者が73%であり、これは欧州の卒業者全体の平均値61%よりも高い比率である。欧州では、準専門的な職業に就職する者も26%ある。

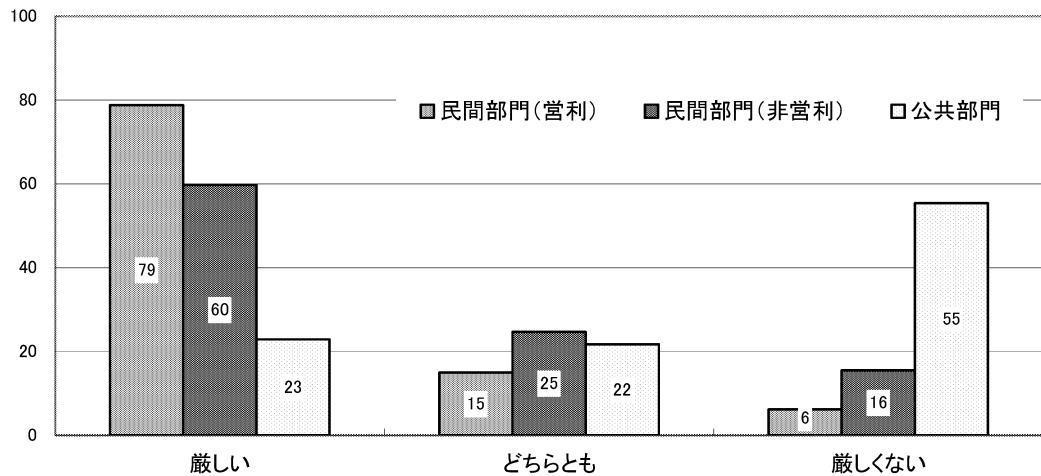
図表6. 初職の継続状況





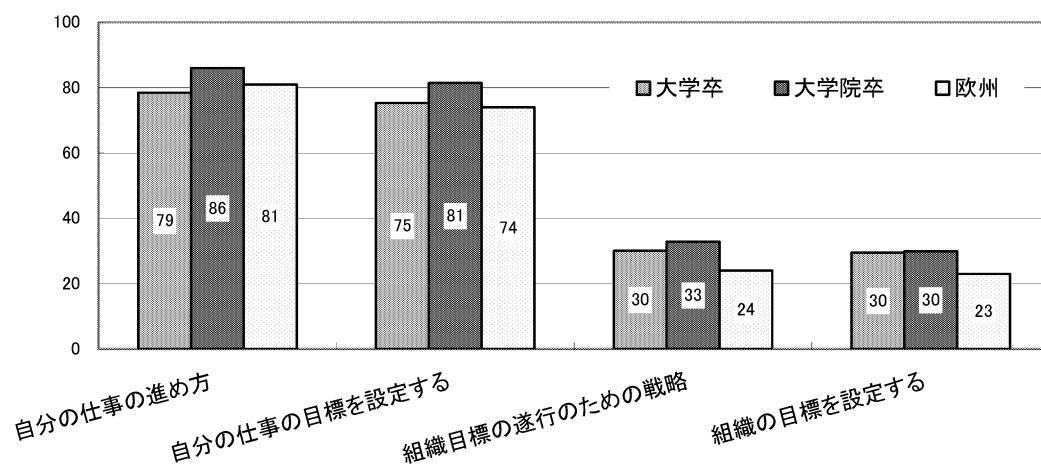
□大学卒業後5年を経過した段階では、卒業時の初職を継続しているのは、大学卒で56%、大学院卒で76%である。他方、欧洲では同じ機関で初職を継続しているのは42%にとどまっており、むしろ離職する者が56%と多数を占めている。

図表7. 現在の職場をとりかこむ競争的な環境



□大学卒・大学院卒の69%は職場が厳しい市場競争下にあるとし、民間部門（営利）ではこの値が79%に達するが、民間部門（非営利）でも60%、また公共部門でも23%が厳しい市場競争下にあると感じている。□（仕事への満足度：表は省略）仕事に対する満足度をみると、日本は、満足53%で、どちらともいえない29%、不満18%に対して、欧洲は満足68%、どちらともいえない21%、不満は11%となっている。

図表8. 仕事における責任の程度(現職)



□大学卒、大学院卒を問わず、7～8割の者が、自分の仕事の進め方や目標の設定については責任があると回答し、自分の仕事は自己で管理する形で遂行している。特に、組織の目標設定やその遂行のための戦略という、自身の仕事を超えた組織レベルの仕事についても、3割の者は責任があると考えている。

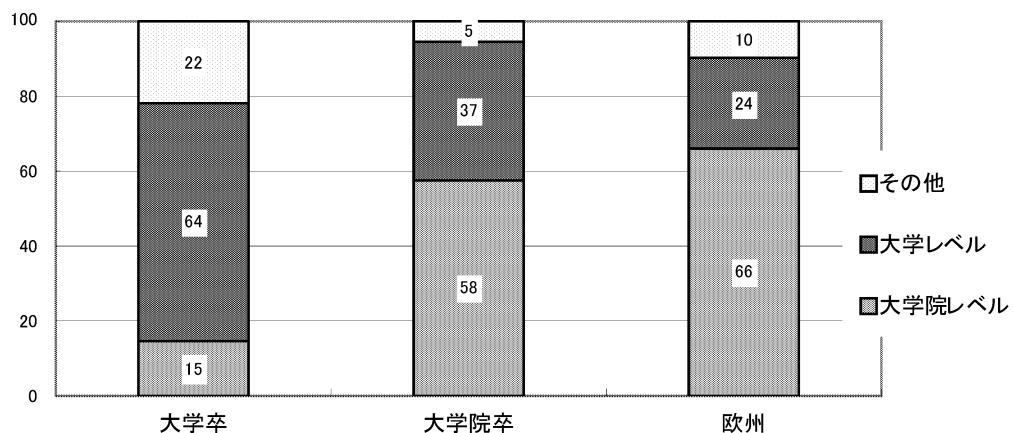
□大学卒の16%、大学院卒の24%は既に直接・間接に部下を管理する立場にあり、その数は2人以下が51%と最も多いが、10人以上の部下を持つ者も14%いる。



□他方、欧洲では、組織の目標設定やその遂行のための戦略に責任を有している者の割合は、日本よりも低い。

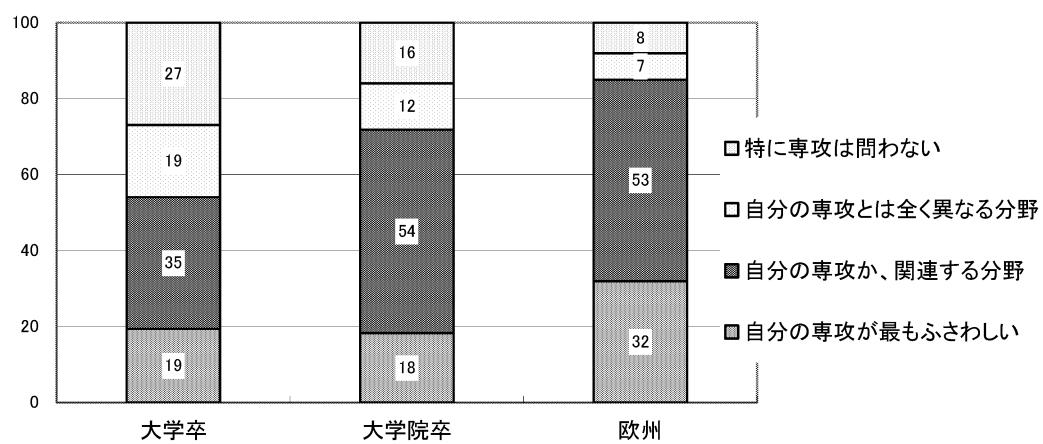
4. 学歴・専攻分野と仕事の対応

図表9. 今の仕事にもっともふさわしい学歴



□現在の仕事について、大学卒の、78%が学歴相当の仕事をしていると考えているが、22%は大学よりも低い学歴レベルの仕事だと判断している。大学院卒では、学歴相当の仕事に就いていると判断している者は58%にとどまり、4割が大学卒レベルと考えている
□欧洲では66%は大学院レベルの仕事と考えており、日本の大学院卒に回答傾向が近い。

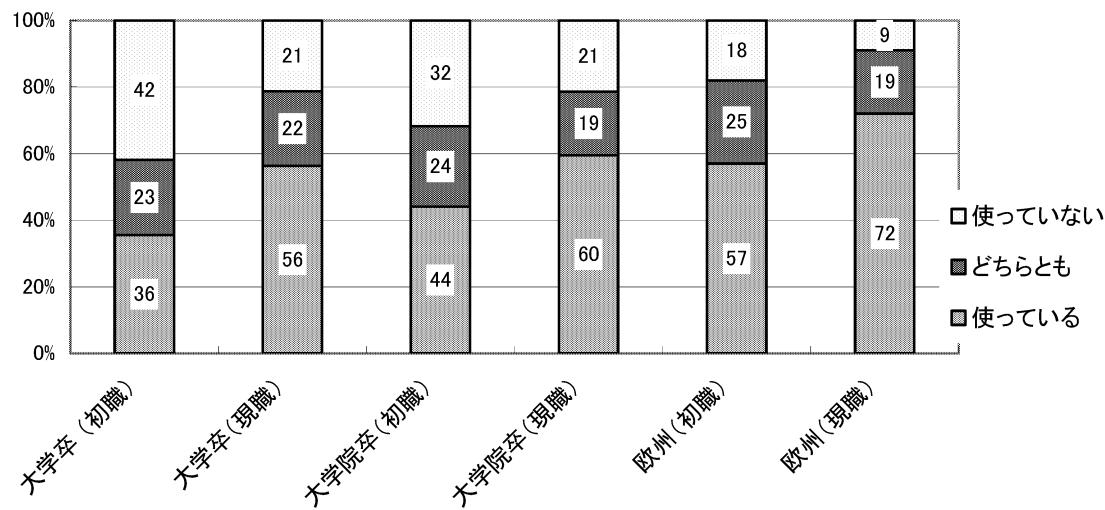
図表10. 今の仕事にもっともふさわしい分野



□日本の大学卒では、過半数が自分の専攻か関連分野の仕事をしていると考えているが、3割は専攻を問わない仕事と判断し、大学院卒では、7割が自分の専攻か関連する分野の仕事に就いていると考えている。
□欧洲では自分の専攻が最もふさわしいが3割と多く、自分の専攻か関連する分野の仕事まで含めると9割近くになり、在学中の専門分野と仕事が対応していると回答する傾向は日本よりも高い。



図表11. 知識・技能の活用度



□日本の大学卒の場合、初職では自分の知識・技能を使っているのは36%と少ないが、現職になると56%に増加し、大学院卒の場合も、初職の44%から現職の60%へと増加する。ただし、大学卒、大学院卒を問わず、現職でも2割が分の知識・技能を活かせない仕事に就いていると考えている。

□欧州では、初職においても自分の知識・技能を使っていると考えている者が57%おり、現職では72%まで増加する。

5. 大学・大学院教育の評価

図表12. 職場で求められるコンピテンシーと卒業時の獲得状況(日本・大学卒)

	①職場の要求	②現在の能力	③卒業時の能力	能力の不足(①-②)	能力の向上(②-③)
他の人に自分の意図を明確に伝える力	5.67	4.36	3.32	1.31	1.04
時間を有効に使う力	5.62	4.58	3.44	1.04	1.14
他の人と生産的に協働する力	5.45	4.67	3.67	0.78	1.00
新たな知識を素早く身につける力	5.42	4.45	3.84	0.97	0.61
新たなアイディアや解決策を見つけ出す力	5.42	4.34	3.35	1.08	0.99
複数の活動を調整する能力	5.39	4.39	3.25	1.00	1.14
記録、資料、報告書等を作成する力	5.37	4.50	3.41	0.87	1.09
分析的に考察する力	5.27	4.46	3.45	0.81	1.01
プレッシャーの中で活躍する力	5.27	4.26	3.12	1.01	1.14
コンピュータやインターネットを活用する力	5.26	4.89	3.61	0.37	1.28
効果的に交渉する力	5.17	4.12	2.87	1.05	1.25
自分や他の人の考えを常に問い合わせる姿勢	5.15	4.34	3.41	0.81	0.93
他の人の知識や能力を結集する力	5.05	4.08	3.20	0.97	0.88
新たなチャンスに機敏に対応する力	4.93	4.08	3.28	0.85	0.80
自分の権限を適切に行使する力	4.76	4.02	3.09	0.74	0.93
製品、アイディア、レポート等のプレゼンテーション能力	4.75	3.83	3.10	0.92	0.73
その他の学問分野や専門領域に関する知識	4.70	3.93	2.98	0.77	0.95
大学で学んだ学問分野や専門領域に精通していること	3.90	3.85	3.69	0.05	0.16
外国語で書いたり話したりする力	3.11	2.70	2.72	0.41	-0.02

注) 数値は7段階評定平均



□職場の要求度は何れも高いが、「大学で学んだ学問分野や専門領域に精通している」「外国語で書いたり話したりする」力についてはさほど高くない。

□ほぼ全ての項目で、職場の要求能力と現在の保有能力と間にはギャップがあり、ギャップが大きいのは「他人に自分の意図を伝える」「アイデアや解決策を見つけ出す」「効果的に交渉する」「時間を有効に使う」「プレッシャーの中で活躍」の順である。

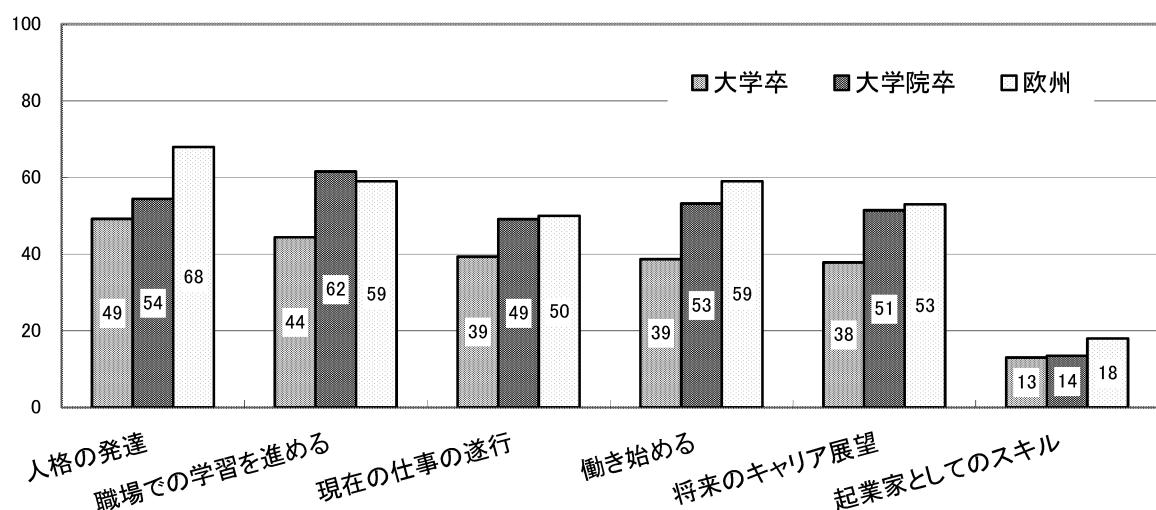
□しかし、これらの項目で、卒業時の能力と現在の保有能力を比べると、職場の経験・訓練を経ることで卒業後に能力は伸びていることがわかる。特に、伸びが大きい上位は「コンピュータやインターネットを活用する」「効果的に交渉する」「時間を有効に活用する」「複数の活動を調整する」「プレッシャーの中で活躍する」の順となっている。

□（大学院卒について：表は省略）大学院卒の場合も職場の要求能力と保有能力とのギャップはあるが、格差は大学卒より小さい。現在の保有能力と職場の要求能力とのギャップは「他人に自分の意図を伝える」「複数の活動を調整する」「時間を有効に活用する」「他人の知識・技能を結集する」「効果的に交渉する」の順に大きい。ここで職場の経験・訓練を経ることで卒業後に能力は伸びており、伸びが大きい上位は「効果的に交渉する」「複数の活動を調整する」「他の人と生産的に協働」「プレッシャーの中で活躍する」となっている。

□（欧洲について：表は省略）欧洲では、現在の能力と職場の要求能力との間のギャップがほとんどなく、19項目中13項目では、現在の能力の方が職場の要求能力よりも高いと判断しており、日本とは対照的である。

□なお、職場の要求水準そのものに対する回答を日欧で比較すると、19項目中、日本の大学卒では12項目、大学院卒では13項目で欧洲よりも要求能力が高いと考えられている。

図表13. 大学で学んだことの貢献度



□日本の大学卒の場合、大学で学んだことが「人格の発達」「学習態度の形成」「職務遂行性」の順に役立っていると肯定的な回答をしており、より長期的な効用を感じている。また、大学院卒は、大学卒よりも高評価であり、「学習態度の形成」「人格発達」「就職」「将来キャリアの展望」の順に評価が高い。

□欧洲でも、大学教育で学んだことの効果については類似した傾向であるが、それぞれの項目では日本よりも相対的に高く評価する傾向にある。

A. 2000年4月から2001年3月に卒業／修了された大学(学部)／大学院(研究科)における学習についてうかがいます。

A2 入学年月(月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日本：学士 度数	0	0	2	2,211	0	2	0	1	0	0	1	0	2,217
日本：学士 度数	0.0%	0.0%	0.1%	99.7%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
日本：修士 度数	0	0	0	213	0	1	0	0	0	1	3	0	218
日本：修士 度数	0.0%	0.0%	0.0%	97.7%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	1.4%	0.0%	0.0%	100.0%
欧州：学士 度数	296	164	87	50	18	78	142	3,109	7,003	2,515	194	13	13,659
欧州：学士 度数	2.2%	1.2%	0.6%	0.4%	0.1%	0.6%	1.0%	22.7%	51.2%	18.4%	1.4%	0.1%	100.0%
欧州：修士 度数	202	134	208	169	64	96	132	1,271	10,252	8,324	940	31	21,833
欧州：修士 度数	0.9%	0.6%	1.0%	0.8%	0.3%	0.4%	0.6%	5.6%	47.0%	38.1%	4.3%	0.1%	100.0%
合計 度数	498	298	297	2,643	82	177	275	4,380	17,266	10,843	1,134	44	37,937
合計 度数	1.3%	0.8%	0.8%	7.0%	0.2%	0.5%	0.7%	11.5%	45.5%	28.6%	3.0%	0.1%	100.0%

A2 入学年月(年)

	1990年以前	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	合計
日本：学士 度数	2	0	3	2	4	59	226	1,757	98	65	0	2,216
日本：学士 度数	0.1%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	2.7%	10.2%	79.3%	4.4%	2.9%	0.0%	100.0%
日本：修士 度数	0	1	0	0	1	29	7	6	15	158	0	217
日本：修士 度数	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	13.4%	3.2%	2.8%	6.9%	72.8%	0.0%	100.0%
欧州：学士 度数	112	66	160	256	590	1,814	5,085	3,840	929	862	65	13,779
欧州：学士 度数	0.8%	0.5%	1.2%	4.3%	13.2%	36.9%	27.9%	6.7%	6.3%	0.5%	100.0%	100.0%
欧州：修士 度数	1,274	807	1,556	2,381	3,746	4,268	3,898	2,477	900	552	262	22,121
欧州：修士 度数	5.8%	3.6%	7.0%	10.8%	16.9%	19.3%	17.6%	11.2%	4.1%	2.5%	1.2%	100.0%
合計 度数	1,388	874	1,719	2,639	4,341	6,170	9,216	8,080	1,942	1,637	327	38,333
合計 度数	3.6%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	2.3%	100.0%

A2 卒業年月(月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日本：学士 度数	0	1	2,221	0	1	2	0	0	0	5	0	0	2,230
日本：学士 度数	0.0%	0.0%	99.6%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
日本：修士 度数	0	0	213	0	2	0	0	0	1	3	0	1	220
日本：修士 度数	0.0%	0.0%	96.8%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	0.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.5%	100.0%
欧州：学士 度数	771	571	285	202	1,118	5,749	1,733	452	1,093	485	293	918	13,670
欧州：学士 度数	5.6%	4.2%	2.1%	1.5%	8.2%	42.1%	12.7%	3.3%	8.0%	3.5%	2.1%	6.7%	100.0%
欧州：修士 度数	908	1,306	1,354	997	1,784	6,753	1,839	595	1,944	1,593	1,147	1,665	21,925
欧州：修士 度数	4.1%	6.0%	6.4%	4.5%	8.1%	30.8%	8.4%	2.7%	8.9%	7.3%	5.2%	7.6%	100.0%
合計 度数	1,679	1,878	4,113	1,199	2,905	12,504	3,572	1,048	3,045	2,078	1,440	2,584	38,045
合計 度数	4.4%	4.9%	10.8%	3.2%	7.6%	32.9%	9.4%	2.8%	8.0%	5.5%	3.8%	6.8%	100.0%

A2 卒業年月(年)

	1999年以前	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	合計
日本：学士 度数	0	0	112	2,106	12	0	0	0	0	0
日本：学士 度数	0.0%	0.0%	5.0%	94.4%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
日本：修士 度数	0	0	5	213	2	0	0	0	0	220
日本：修士 度数	0.0%	0.0%	2.3%	96.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
欧州：学士 度数	2,031	1,962	9,680	1,367	675	32	27	25	1	13,838
欧州：学士 度数	14.7%	14.2%	70.0%	9.9%	4.9%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	100.0%
欧州：修士 度数	2,156	2,074	13,542	3,484	2,896	145	51	50	3	22,328
欧州：修士 度数	9.7%	9.3%	60.7%	15.6%	13.0%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	100.0%
合計 度数	4,137	4,036	23,359	7,170	3,565	177	78	75	4	38,616
合計 度数	10.8%	10.5%	60.4%	18.6%	9.3%	0.5%	0.2%	0.2%	0.0%	100.0%

A4_1 利用した試験制度 一般入試

	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	1,686	552	2,238
日本：75.3%	24.7%	100.0%	
日本：修士 度数	145	71	216
日本：67.1%	32.9%	100.0%	
合計 度数	1,831	623	2,454
合計 度数	74.6%	25.4%	100.0%

A4_1 利用した入試制度 推薦入試

	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	479	1,759	2,238
日本：21.4%	78.6%	100.0%	
日本：修士 度数	53	163	216
日本：24.5%	75.5%	100.0%	
合計 度数	532	1,922	2,454
合計 度数	21.7%	78.3%	100.0%

A4_2 学業(修士)専攻が第一志望であったか否か

A5 教育内容：一般的に、授業・課題の要求水準が高いとみなされていた

	まったくあてはまらない	あてはまる	合計
日本：学士 度数	81	398	1,136
日本：37.7%	62.3%	100.0%	
日本：修士 度数	3	29	51
日本：1.4%	12.2%	100.0%	
合計 度数	293	1,169	1,468
合計 度数	21.9%	78.1%	100.0%

A5 教育内容：教育課程の内容が、利用者によく知られていた

	まったくあてはまらない	あてはまる	合計
日本：学士 度数	88	471	1,006
日本：4.0%	21.3%	45.6%	
日本：修士 度数	6	34	40
日本：2.8%	15.7%	44.9%	
合計 度数	397	1,556	2,053
合計 度数	18.7%	73.9%	100.0%

A5 教育内容：専門的知識を有していた

	まったくあてはまらない	あてはまる	合計
日本：学士 度数	88	471	1,006
日本：4.0%	21.3%	45.6%	
日本：修士 度数	6	34	40
日本：2.8%	15.7%	44.9%	
合計 度数	397	1,556	2,053
合計 度数	18.7%	73.9%	100.0%

A5 教育内容：科目選択時の自由度の高い教育課程だった

	まったくあてはまらない	あてはまる	合計
日本：学士 度数	86	421	1,006
日本：4.3%	20.6%	45.6%	
日本：修士 度数	6	34	40
日本：2.8%	15.7%	44.9%	
合計 度数	397	1,556	2,053
合計 度数	18.7%	73.9%	100.0%

A5 教育内容：選択的教育課程だった

	まったくあてはまらない	あてはまる	合計
日本：学士 度数	86	421	1,006
日本：4.3%	20.6%	45.6%	
日本：修士 度数	6	34	40
日本：2.8%	15.7%	44.9%	
合計 度数	397	1,556	2,053
合計 度数	18.7%	73.9%	100.0%

A5 教育内容：選択的教育課程だった

	まったくあてはまらない	あてはまる	合計
日本：学士 度数	86	421	1,006
日本：4.3%	20.6%	45.6%	
日本：修士 度数	6	34	40
日本：2.8%	15.7%	44.9%	
合計 度数	397	1,556	2,053
合計 度数	18.7%	73.9%	100.0%

A6 学習方法：グループ学習					
まつたく書きされていなかつた			とても書きされていなかつた		
日本：学士 度数	233	626	716	513	136
日本：学士 度数	10,5%	28,1%	32,2%	23,1%	6,1%
日本：修士 度数	30	70	65	14	217
日本：修士 度数	13,8%	32,3%	30,0%	17,5%	6,5%
欧州：学士 度数	718	2,397	3,632	4,857	2,092
欧州：学士 度数	5,2%	17,2%	27,9%	35,0%	15,1%
合計 度数	2,529	6,255	6,586	9,715	22,359
合計 度数	11,3%	28,0%	29,5%	23,6%	7,7%
合計 度数	3,510	9,348	11,199	10,682	3,957
合計 度数	9,1%	24,2%	28,8%	27,6%	10,2%
合計					

A6 学習方法：研究プロジェクトへの参加

A6 学習方法：インターネット・議論体験学習					
まつたく書きされていなかつた			とても書きされていなかつた		
日本：学士 度数	773	665	422	257	100
日本：学士 度数	34,9%	30,0%	19,0%	11,6%	4,5%
日本：修士 度数	77	78	41	19	1
日本：修士 度数	35,6%	36,1%	19,0%	8,6%	0,5%
欧州：学士 度数	3,136	1,920	2,539	3,771	2,479
欧州：学士 度数	22,7%	13,9%	18,3%	27,2%	17,9%
欧州：修士 度数	7,869	5,146	4,196	3,317	1,596
欧州：修士 度数	35,3%	23,9%	18,8%	14,7%	10,0%
合計 度数	11,885	7,979	7,198	4,186	3,562
合計 度数	30,7%	20,7%	18,7%	19,1%	10,8%
合計					

A6 学習方法：実験的・実務的な知識

A6 学習方法：実験的・実務的な知識					
まつたく書きされていなかつた			とても書きされていなかつた		
日本：学士 度数	327	684	709	391	120
日本：学士 度数	14,8%	30,0%	32,1%	17,7%	5,4%
日本：修士 度数	20	49	68	62	19
日本：修士 度数	9,2%	22,5%	31,2%	28,0%	8,7%
欧州：学士 度数	737	2,054	4,434	5,039	1,505
欧州：学士 度数	5,3%	14,8%	32,0%	36,1%	11,4%
欧州：修士 度数	2,760	5,715	7,082	5,080	1,670
欧州：修士 度数	12,4%	25,6%	31,7%	22,9%	7,5%
合計 度数	3,844	8,482	12,293	10,572	3,394
合計 度数	10,0%	22,0%	31,9%	27,7%	8,8%
合計					

A6 学習方法：問題解決型学習

A6 学習方法：問題解決型学習					
まつたく書きされていなかつた			とても書きされていなかつた		
日本：学士 度数	55	281	933	42,7%	34,2%
日本：学士 度数	2,5%	12,1%	42,7%	8,5%	10,0%
日本：修士 度数	5	38	96	55	23
日本：修士 度数	2,3%	17,5%	44,2%	25,3%	10,6%
欧州：学士 度数	267	2,172	4,938	1,692	1,389
欧州：学士 度数	1,9%	15,6%	35,9%	12,2%	10,0%
欧州：修士 度数	475	2,054	7,233	8,133	22,366
欧州：修士 度数	2,1%	12,8%	32,2%	36,4%	10,0%
合計 度数	802	5,345	13,200	13,757	5,574
合計 度数	2,1%	13,6%	34,7%	35,6%	14,4%
合計					

A6 学習方法：論文やレポートの執筆

A6 学習方法：論文やレポートの執筆					
まつたく書きされていなかつた			とても書きされていなかつた		
日本：学士 度数	264	721	874	280	57
日本：学士 度数	12,0%	32,0%	39,9%	13,1%	2,6%
日本：修士 度数	18	56	70	54	19
日本：修士 度数	8,3%	25,8%	32,9%	24,9%	8,8%
欧州：学士 度数	1,608	3,485	4,216	3,408	1,120
欧州：学士 度数	11,6%	25,2%	30,5%	26,4%	8,1%
欧州：修士 度数	3,983	7,339	6,105	3,535	1,152
欧州：修士 度数	17,8%	33,8%	27,9%	15,8%	5,2%
合計 度数	5,873	11,801	11,265	10,722	3,348
合計 度数	15,2%	30,6%	29,2%	18,9%	6,1%
合計					

A6 学習方法：グループ学習や異会合組み					
まつたく書きされていなかつた			とても書きされていなかつた		
日本：学士 度数	63	260	598	887	413
日本：学士 度数	2,8%	11,7%	26,9%	38,9%	18,6%
日本：修士 度数	3	14	42	93	67
日本：修士 度数	1,%	6,%	19,7%	42,5%	21,9
欧州：学士 度数	434	1,893	4,010	5,326	2,241
欧州：学士 度数	3,1%	13,8%	28,9%	38,3%	16,1%
欧州：修士 度数	1,578	4,106	6,072	7,233	3,385
欧州：修士 度数	7,1%	18,4%	27,1%	32,3%	15,1%
合計 度数	2,078	6,273	10,722	13,559	6,106
合計 度数	5,4%	16,2%	27,7%	35,0%	15,8%
合計					

A6 学習方法 - 口頭でのプレゼンテーション

まつたく筆記されていないかかったり、				
とても満足されていった。				
日本：学士 度数	268	666	-	合計
日本：学士 度数	12.1%	30.1%	20.4%	2,213
日本：修士 度数	12	18	46	6.9%
日本：修士 度数	5.5%	8.3%	21.2%	100.0%
欧州：学士 度数	1,019	3,164	4,376	53
欧州：学士 度数	7.3%	22.8%	65.6%	24.4%
欧州：修士 度数	2,356	5,929	6,530	4,099
欧州：修士 度数	10.5%	26.5%	29.2%	13.8%
合計 度数	3,655	9,777	11,629	10,041
合計 度数	9.4%	25.3%	30.1%	9.3%
				100.0%

A6 学習方法 - 選択式の問題は難

まつたく筆記されていないかかったり、				
とても満足されていった。				
日本：学士 度数	-	-	-	合計
日本：学士 度数	739	884	212	45
日本：学士 度数	14.6%	33.6%	40.2%	9.6%
日本：修士 度数	53	76	63	15
日本：修士 度数	24.7%	35.3%	29.3%	2.0%
欧州：学士 度数	5,028	3,906	2,840	1,491
欧州：学士 度数	36.4%	28.3%	20.5%	10.8%
欧州：修士 度数	8,185	5,845	4,380	2,570
欧州：修士 度数	38.7%	26.2%	19.9%	4.0%
合計 度数	13,587	10,566	8,167	4,298
合計 度数	35.2%	27.4%	21.2%	11.1%
				100.0%

A7 在学中の学習経験：試験に合格するためだけの勉強でなく、それ以上勉強をした

まつたくあてはまらない				
とてもあてはまる				
日本：学士 度数	-	-	-	合計
日本：学士 度数	544	699	469	210
日本：学士 度数	12.8%	24.4%	31.1%	21.9%
日本：修士 度数	10	33	46	70
日本：修士 度数	4.6%	15.3%	21.3%	9.4%
欧州：学士 度数	1,429	3,157	4,435	3,659
欧州：学士 度数	10.4%	22.9%	32.2%	26.4%
欧州：修士 度数	2,177	5,151	6,330	6,035
欧州：修士 度数	9.9%	23.3%	29.1%	27.5%
合計 度数	3,902	8,885	11,610	10,303
合計 度数	10.2%	23.2%	30.3%	26.9%
				100.0%

A7 在学中の学習経験：できるだけよい点数をとるために努力した

まつたくあてはまらない				
とてもあてはまる				
日本：学士 度数	-	-	-	合計
日本：学士 度数	373	677	746	283
日本：学士 度数	6.7%	16.7%	30.4%	33.5%
日本：修士 度数	22	40	63	34
日本：修士 度数	10.0%	18.3%	28.8%	27.4%
欧州：学士 度数	738	2,077	3,999	4,673
欧州：学士 度数	5.4%	15.1%	28.3%	32.9%
欧州：修士 度数	1,202	3,075	5,673	7,524
欧州：修士 度数	5.4%	13.8%	25.5%	33.9%
合計 度数	2,111	5,655	10,312	13,003
合計 度数	5.5%	14.5%	26.8%	33.8%
				100.0%

A7 在学中の学習経験：学外での講義や通信教育などで授業的に学習した

まつたくあてはまらない				
とてもあてはまる				
日本：学士 度数	-	-	-	合計
日本：学士 度数	605	318	248	75
日本：学士 度数	44.1%	27.2%	14.3%	3.4%
日本：修士 度数	62	32	18	20
日本：修士 度数	39.4%	28.4%	14.7%	9.2%
合計 度数	667	350	266	95
合計 度数	43.6%	27.3%	14.3%	3.9%
				100.0%

A8 在学生の学習時間（週あたり平均：時間）

まつたく筆記されていないかかったり、				
とても満足されていった。				
日本：学士 度数	675	451	153	合計
日本：学士 度数	21.9%	30.1%	20.4%	2,213
日本：修士 度数	12	18	46	6.9%
日本：修士 度数	5.5%	8.3%	21.2%	100.0%
欧州：学士 度数	1,019	3,164	4,376	217
欧州：学士 度数	7.3%	22.8%	65.6%	100.0%
欧州：修士 度数	2,356	5,929	6,530	4,099
欧州：修士 度数	10.5%	26.5%	29.2%	13.8%
合計 度数	3,655	9,777	11,629	10,041
合計 度数	9.4%	25.3%	30.1%	9.3%
				100.0%

A8 在学生の学習時間（週あたり平均：時間）

まつたく満足していない				
とても満足している				
日本：学士 度数	-	-	-	合計
日本：学士 度数	739	884	212	45
日本：学士 度数	14.6%	33.6%	40.2%	9.6%
日本：修士 度数	53	76	63	15
日本：修士 度数	24.7%	35.3%	29.3%	7.0%
欧州：学士 度数	5,028	3,906	2,840	1,491
欧州：学士 度数	36.4%	28.3%	20.5%	10.8%
欧州：修士 度数	8,185	5,845	4,380	2,570
欧州：修士 度数	38.7%	26.2%	19.9%	4.0%
合計 度数	13,587	10,566	8,167	4,298
合計 度数	35.2%	27.4%	21.2%	11.1%
				100.0%

B. 大学(大学院)入学前・大学(大学院)在学中・大学卒業(大学院修了後)後の教育経験についてうかがいます。

B1 高等教育入前の最高学年 (ISCED)							B2 日本 高校在学中 インターンシップ経験										
高校普通科			高校普通科			専門高校 - medium track			専門高校 - highest track			その他一大棟など			海外の高校		合計
日本 : 学士	度数	2,119	0	0	0	66	0	0	0	0	0	29	0	2,214	2,104	2,133	
日本 : 学士	度数	95.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	98.5%	-10.0%	
日本 : 僕士	度数	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.4%	98.5%	-100.0%	
欧州 : 学士	度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3	215	218	
欧州 : 僕士	度数	59.7%	11.3%	2.0%	2.7%	2,759	107	337	1	0.0%	1.0%	1,053	0.0%	0.013	0.59	2,279	
合計	度数	76.3%	2.0%	18.0%	2.7%	460	15	173	453	184	2.0%	194	10.0%	0.011	0.14	222	

B1.2 年収高校の大学進学率 (追加含む)							B2 【関連】就業経験 : 高等教育在学中							合計		
20%以下			20%~40%			40%~60%			60%以上			60%以上			合計	
日本 : 学士	度数	119	124	194	346	1,423	2,206	2,206	64.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	38.8%	61.4%	100.0%
日本 : 学士	度数	5.4%	5.9%	8.8%	15.7%	64.5%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	10.7	113	220
日本 : 僕士	度数	10	13	15	21	162	221	221	9.5%	73.3%	100.0%	100.0%	100.0%	48.6%	51.4%	100.0%
合計	度数	4.5%	5.9%	6.8%	9.5%	1,585	2,427	2,427	65.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	6.029	7.362	13,411

B2.1 日本 高校在学中 アルバイト経験							B3 【関連】就業経験 : 高等教育在学中 : 時間 (ヶ月)							度数				
平均値			標準偏差			度数			平均値			標準偏差			度数			
日本 : 学士	度数	10.8	13.19	138	日本 : 学士	度数	13.19	138	日本 : 学士	度数	12.1	15.32	822	日本 : 学士	度数	12.1	15.32	
日本 : 学士	度数	14.4	16.64	16	日本 : 僕士	度数	14.4	16.64	日本 : 僕士	度数	17.3	18.42	106	日本 : 僕士	度数	17.3	18.42	
欧州 : 学士	度数	4,229	17,434	21,663	欧州 : 学士	度数	19.5%	80.5%	100.0%	欧州 : 学士	度数	15.7	18.47	5,787	欧州 : 学士	度数	15.7	18.47
欧州 : 僕士	度数	8,585	28,550	37,236	欧州 : 僕士	度数	23.1%	76.9%	100.0%	欧州 : 僕士	度数	16.9	21.86	10,170	欧州 : 僕士	度数	16.9	21.86
合計	度数	21.4	34.39	8,228	合計	度数	16.3	20.48	16,885	合計	度数	16.3	20.48	16,885	合計	度数	16.3	20.48

B2.2 日本 高校在学中 リモート学習経験							B3 【非関連】就業経験 : 高等教育在学中 : 時間 (ヶ月)							度数				
平均値			標準偏差			度数			平均値			標準偏差			度数			
日本 : 学士	度数	12.2	2.990	2,212	日本 : 学士	度数	2,000	2,203	日本 : 学士	度数	19.3	12.44	142	日本 : 学士	度数	19.3	12.44	
日本 : 学士	度数	14	20.8	222	日本 : 僕士	度数	94.5%	100.0%	100.0%	日本 : 僕士	度数	18.1	18.79	6,049	日本 : 僕士	度数	18.1	18.79
欧州 : 学士	度数	6.3%	93.7%	100.0%	欧州 : 僕士	度数	6.3%	93.7%	100.0%	欧州 : 僕士	度数	16.4	23.21	12,086	欧州 : 僕士	度数	16.4	23.21
合計	度数	1,027	5.65	222	合計	度数	19.5	21.58	20,253	合計	度数	19.5	21.58	20,253	合計	度数	19.5	21.58

B3_1_1 日本 大学／大学院在学中 関係あり／アルバイト経験			
	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	552	1,631	2,183
日本：学士 度数	25.3%	74.7%	100.0%
日本：修士 度数	69	151	220
日本：修士 度数	31.4%	68.6%	100.0%
B3_1_2 日本 大学／大学院在学中 関係あり／アルバイト月数			
	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	4.0	10.33	2,279
日本：修士	4.5	9.24	222

B3_2_1 日本 大学／大学院在学中 関係なし／アルバイト経験			
	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	469	1,652	2,121
日本：学士 度数	22.1%	77.9%	100.0%
日本：修士 度数	16	195	211
日本：修士 度数	7.6%	92.4%	100.0%
B3_2_2 日本 大学／大学院在学中 関係あり／インターネット経験			
	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	0.4	2.48	2,279
日本：修士	0.5	3.86	222

B3_2_1 日本 大学／大学院在学中 関係なし／アルバイト経験			
	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	1,994	213	2,207
日本：学士 度数	90.3%	9.7%	100.0%
日本：修士 度数	143	77	220
日本：修士 度数	65.0%	35.0%	100.0%
B3_2_2 日本 大学／大学院在学中 関係なし／アルバイト月数			
	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	27.0	17.81	2,279
日本：修士	12.4	13.59	222

B3_3_1 日本 大学院在学中 関係あり／アルバイト経験			
	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	1,631	43	154
日本：学士 度数	25.3%	21.6%	76.2%
日本：修士 度数	69	151	220
日本：修士 度数	31.4%	68.6%	100.0%
B3_3_2 日本 大学院在学中 関係あり／インターネット経験			
	平均値	標準偏差	度数
日本：修士	3.15	8.81	222

B3_3_1 日本 大学院在学中 関係あり／アルバイト月数			
	平均値	標準偏差	度数
日本：修士	1.72	12.2%	196
日本：修士	24	87.9%	100.0%
B3_3_2 日本 大学院在学中 関係あり／インターネット経験			
	平均値	標準偏差	度数
日本：修士	0.00	0.00	2,279
日本：修士	0.041	0.20	222

B3_3_2 日本 大学院在学中 関係あり／インターネット経験			
	平均値	標準偏差	度数
日本：修士	0.00	0.00	2,279
日本：修士	0.042	3.61	222
B3WE1 日本 いずれかの経験で、事例に関連した就業体験あり			
	なし	あり	合計
日本：学士 度数	1,253	900	2,153
日本：学士 度数	58.2%	41.8%	100.0%
日本：修士 度数	91	115	206
日本：修士 度数	44.2%	55.8%	100.0%
合計	1,344	1,015	2,359
	57.0%	43.0%	100.0%
B3WE2 日本 高等教育機関在学中に、専攻に関連した就業体験あり			
	なし	あり	合計
日本：学士 度数	842	842	2,153
日本：学士 度数	61.4%	38.6%	100.0%
日本：修士 度数	95	107	202
日本：修士 度数	47.0%	53.0%	100.0%
合計	1,436	949	2,359
	60.2%	39.8%	100.0%
B3WE3 日本 最終段階において、専攻に関連した就業体験あり			
	なし	あり	合計
日本：学士 度数	1,341	842	2,153
日本：学士 度数	61.4%	38.6%	100.0%
日本：修士 度数	135	81	216
日本：修士 度数	62.5%	37.5%	100.0%
合計	1,476	923	2,359
	61.5%	38.5%	100.0%

B3_2_2 日本 大学／大学院在学中 関係なし／インターネット経験			
	平均値	標準偏差	度数
日本：学士 度数	0.076	1.05	2,279
日本：学士 度数	0.000	0.00	222
B3_2_2 日本 大学／大学院在学中 関係なし／インターネット経験			
	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	0.131	1.59	2,279
日本：学士	0.063	0.94	222

B4 部活動・サークル活動などにおける経験：大学（大学院）在学中

	度数	いいえ		合計
		はい	いいえ	
日本：学士	855	1,386	2,221	
日本：学士	38.5%	61.5%	100.0%	
日本：修士	43	179	222	
日本：修士	19.4%	80.6%	100.0%	
欧州：学士	2,884	10,969	13,853	
欧州：学士	20.8%	79.2%	100.0%	
欧州：修士	4,835	17,608	22,444	
欧州：修士	21.5%	78.5%	100.0%	
合計	8,616	30,122	38,740	
合計	22.2%	77.8%	100.0%	

B4 部活動・サークル活動などにおける経験：大学（大学院）在学中・期間(ヶ月)

	平均値	標準偏差		度数
		日本：学士	日本：修士	
日本：学士	24.3	15.46	851	
日本：修士	18.5	11.57	43	
欧州：学士	22.8	16.17	2,798	
欧州：修士	30.2	22.14	4,643	
合計	27.1	19.96	8,335	

B5 既当大学（大学院）以外の高等教育経験：大学・大学院の修士レベル

	度数	いいえ		合計
		はい	いいえ	
日本：学士	1,708	451	2,169	
日本：学士	78.7%	21.3%	100.0%	
日本：修士	122	91	213	
日本：修士	57.3%	42.7%	100.0%	

B6 日本 既当大学（大学院）以外の高等教育経験：大学・大学院の修士レベル

	大学院の修士レベル（専門大学院）	大学・学士レベル			短期大学、高等専門学校、専門学校その他	ない	合計
		大学院の修士レベル（専門大学院）	大学・学士レベル	短期大学、高等専門学校、専門学校その他			
日本：学士	73	349	151	166	31	1,555	2,295
日本：修士	18	24	83	7	4	109	245

B6該当大学（大学院）以外の高等教育経験（1）：専門分野（大分類）

	一般教養	教育学	人文・芸術	社会科学	理学	工学	農学	医学・保健	その他	合計
日本：学士	0	42	58	63	32	161	59	65	6	486
日本：修士	0	8.6%	11.9%	13.0%	6.6%	33.1%	12.1%	13.4%	1.2%	100.0%
歐州：学士	10	2	8	5	2	61	1	3	0	82
歐州：修士	0.2%	2.4%	9.8%	6.1%	2.4%	74.4%	1.2%	3.7%	0.0%	100.0%
合計	14	1,041	457	1,757	482	503	70	664	167	4,839
度数	13.2%	12.8%	9.4%	36.3%	10.0%	10.4%	1.4%	13.7%	3.5%	100.0%
度数	1.4%	1.041	2,777	1,157	738	158	795	200	7,875	
度数	1.4%	1,528	4,602	1,673	1,463	288	1,527	2,5%	100.0%	
度数	0.1%	13.7%	11.5%	34.6%	12.6%	11.0%	2.2%	11.5%	2.8%	100.0%
合計	14	1,814	4,602	1,673	1,463	288	1,527	2,5%	13,282	

B6該当大学（大学院）以外の高等教育経験（2）：専門分野（大分類）

	一般教養	教育学	人文・芸術	社会科学	理学	工学	農学	医学・保健	その他	合計
日本：学士	0	2	17	15	11	24	6	6	0	81
日本：修士	0.0%	2.5%	21.0%	18.5%	13.6%	29.6%	7.4%	7.4%	0.0%	100.0%
歐州：学士	0	0	2	1	0	8	0	0	0	11
歐州：修士	0.0%	0.0%	18.2%	9.1%	0.0%	72.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	2	233	216	460	167	110	19	191	56	1,454
度数	16.0%	14.9%	31.6%	11.5%	7.6%	1.3%	13.1%	3.9%	100.0%	
度数	1	307	351	711	233	123	32	236	76	2,070
度数	0.0%	14.8%	17.0%	34.3%	11.3%	5.9%	1.5%	11.4%	3.7%	100.0%
度数	3	542	586	1,187	411	265	57	433	132	3,616
度数	0.1%	15.0%	16.2%	32.8%	11.4%	7.3%	1.6%	12.0%	3.7%	100.0%
合計	14	1,814	4,602	1,673	1,463	288	1,527	2,5%	13,282	

B6該当大学（大学院）以外の高等教育経験（1）：学位・資格の種類（国別）

	准学士	専門士	学士	修士	博士	修士・専門職	課程	その他	合計
日本：学士	41	22	76	276	29	31	5.4%	10.1%	575
日本：修士	7.1%	3.6%	13.2%	48.0%	5.0%	1	0.0%	0.0%	100.0%
歐州：学士	2	1	61	10	11	0	0.0%	0.0%	87
歐州：修士	2.3%	1.1%	70.1%	11.5%	12.6%	1.1%	0.0%	0.0%	100.0%
合計	43	23	137	286	40	32	58	15,550	5,566
度数	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
度数	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
度数	0.3%	0.1%	0.9%	1.8%	0.3%	0.2%	0.4%	0.4%	100.0%
合計	43	23	137	286	40	32	58	15,550	9,322

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(2)：学位・資格の種類（国別）

		準学士	専門士	学士	修士	博士	修士：専門職	修士：課程	その他	取得可能な学位・資格はなし	合計
日本：学士	度数	5 5.1%	2 2.0%	4 4.1%	22 22.4%	45 45.9%	8 8.2%	8 8.2%	8 8.2%	4 4.1%	98 100.0%
日本：修士	度数	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	6 40.0%	5 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	1 6.7%	15 100.0%
欧洲：学士	度数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1,588 100.0%
欧洲：修士	度数	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2,553 100.0%
合計	度数	5 0.1%	2 0.0%	5 0.1%	28 0.7%	50 1.2%	8 0.2%	8 0.2%	10 0.2%	5 0.1%	4,254 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(1)：学位・資格の種類（ISCED）

		ISCED 5A specialist degree (med., dent., vet.) or ISCED 6 le	ISCED 5A long programme providing direct access to doctorate	ISCED 5A long programme not providing direct access to doctorate	ISCED 5A short or ISCED 5B programme	Other programme	合計
日本：学士	度数	60 11.3%	276 51.8%	76 14.3%	63 11.8%	58 10.9%	533 100.0%
日本：修士	度数	12 14.0%	10 11.6%	61 70.9%	3 3.5%	0 0.0%	86 100.0%
欧洲：学士	度数	91 1.6%	2,455 44.4%	1,345 24.3%	260 4.7%	1,375 24.9%	5,526 100.0%
欧洲：修士	度数	2,520 27.1%	3,051 32.8%	935 10.1%	308 3.3%	2,479 26.7%	9,293 100.0%
合計	度数	2,683 17.4%	5,792 37.5%	2,417 15.7%	634 4.1%	3,912 25.3%	15,438 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(2)：学位・資格の種類（ISCED）

		ISCED 5A specialist degree (med., dent., vet.) or ISCED 6 le	ISCED 5A long programme providing direct access to doctorate	ISCED 5A long programme not providing direct access to doctorate	ISCED 5A short or ISCED 5B programme	Other programme	合計
日本：学士	度数	53 56.4%	22 23.1%	4 4.3%	7 7.4%	8 8.5%	94 100.0%
日本：修士	度数	5 35.7%	6 42.9%	1 7.1%	0 0.0%	2 14.3%	14 100.0%
欧洲：学士	度数	159 10.2%	589 37.7%	297 19.0%	33 2.1%	485 31.0%	1,563 100.0%
欧洲：修士	度数	592 23.4%	678 26.8%	229 9.0%	28 1.1%	1,006 39.7%	2,533 100.0%
合計	度数	809 19.2%	1,295 30.8%	531 12.6%	68 1.6%	1,501 35.7%	4,204 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(1)：入学（月）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日本：学士	5 0.9%	0 0.0%	7 1.2%	527 91.8%	5 0.9%	1 0.2%	4 0.7%	1 0.2%	8 1.4%	12 2.1%	3 0.5%	0.2%	574 100.0%
日本：修士	0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	80 94.1%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.4%	1 1.2%	0 0.0%	0.0%	85 100.0%
欧洲：学士	275 5.0%	131 2.4%	82 1.5%	84 1.0%	53 1.3%	72 0.9%	51 1.3%	817 1.48%	2,912 52.9%	897 16.3%	96 1.7%	0.6%	5,503 100.0%
欧洲：修士	641 7.0%	303 3.3%	346 3.8%	311 3.4%	261 2.5%	229 1.9%	171 2.5%	567 6.2%	3,483 38.2%	2,214 24.3%	449 4.9%	1.6%	9,125 100.0%
合計	921 6.0%	434 2.8%	436 2.9%	1,002 6.6%	320 2.1%	302 2.0%	226 1.5%	1,385 9.1%	6,405 41.9%	3,124 20.4%	548 3.6%	1.2%	15,287 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(2)：入学（月）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日本：学士	1 1.0%	0 0.0%	0 10.0%	10 83.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 3.0%	1 1.0%	0 0.0%	2 2.0%	0 0.0%	0 100.0%
日本：修士	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 86.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	2 0.0%	0 0.0%	0 15
欧洲：学士	85 5.2%	40 2.5%	42 2.6%	19 1.2%	21 1.3%	42 2.6%	41 2.5%	212 13.0%	792 48.6%	271 16.6%	45 2.8%	1.2%	1,629 100.0%
欧洲：修士	203 7.6%	107 4.0%	117 4.4%	95 3.6%	84 3.2%	102 2.5%	66 5.9%	156 5.9%	900 33.8%	635 23.9%	58 5.2%	2.2%	2,661 100.0%
合計	289 6.6%	147 3.3%	169 3.8%	210 4.8%	105 2.4%	144 3.3%	110 2.5%	369 8.4%	1,692 38.4%	910 38.4%	77 20.7%	4.2%	4,405 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(1)：入学（年）

	2000年以前	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	合計
日本：学士	135 23.6%	20 3.5%	313 54.6%	40 7.0%	21 3.7%	23 4.0%	14 2.4%	7 1.2%	573 100.0%
日本：修士	69 83.1%	0 0.0%	8 9.6%	4 4.8%	0 0.0%	2 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	83 100.0%
欧洲：学士	1,710 30.7%	1,396 25.1%	811 14.6%	638 11.5%	501 9.0%	347 6.2%	159 2.9%	4 0.1%	5,566 100.0%
欧洲：修士	2,946 31.5%	2,212 23.6%	1,799 19.2%	1,080 11.5%	643 6.9%	433 4.6%	231 2.5%	10 0.1%	9,354 100.0%
合計	4,860 31.2%	3,628 23.3%	2,931 18.8%	1,762 11.3%	1,165 7.5%	805 5.2%	404 2.6%	21 0.1%	15,576 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(2)：入学（年）

	2000年以前	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	合計
日本：学士	16 16.0%	1 1.0%	21 21.0%	2 2.0%	38 38.0%	9 9.0%	10 10.0%	3 3.0%	100 100.0%
日本：修士	8 53.3%	1 6.7%	4 26.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	1 6.7%	0 0.0%	15 100.0%
欧洲：学士	378 22.9%	173 10.5%	255 15.5%	243 14.7%	14,476 13.7%	226 13.7%	130 7.9%	6 4.0%	1,648 100.0%
欧洲：修士	607 22.5%	388 14.4%	394 14.6%	429 15.9%	354 13.1%	305 11.3%	206 7.6%	12 4.0%	2,695 100.0%
合計	1,009 22.6%	563 12.6%	674 15.1%	674 14.1%	1,385 12.1%	540 7.8%	347 4.2%	21 0.5%	4,458 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(1)：取得学位・資格

	取得	取得なし	現在、在籍中	合計
日本：学士	度数 480	82.1%	68 11.6%	37 6.3% 585 100.0%
日本：修士	度数 79	9.0%	8 2.2%	2 100.0% 89
欧州：学士	度数 3,729	65.9%	915 16.2%	1,014 17.9% 5,658 100.0%
欧州：修士	度数 5,896	62.3%	1,326 14.0%	2,247 23.7% 9,469 100.0%
合計	度数 10,184	64.5%	2,317 14.7%	3,300 20.9% 15,801 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(2)：取得学位・資格

	取得	取得なし	現在、在籍中	合計
日本：学士	度数 53	53.5%	13 13.1%	33 33.3% 99 100.0%
日本：修士	度数 12	80.0%	2 13.3%	1 6.7% 15 100.0%
欧州：学士	度数 979	59.6%	197 12.0%	466 28.4% 1,642 100.0%
欧州：修士	度数 1,465	54.0%	280 10.3%	968 35.7% 2,713 100.0%
合計	度数 2,509	56.1%	492 11.0%	1,468 32.8% 4,469 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(1)：学位・資格取得(月)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日本：学士	度数 5	1.1%	3 0.6%	424 91.2%	9 1.9%	5 1.1%	4 0.9%	1 0.2%	1 0.2%	1 1.1%	3 0.6%	1 0.2%	4 0.9% 465 100.0%
日本：修士	度数 0	0.0%	0 0.0%	68 88.3%	2 2.6%	2 2.6%	0 0.0%	1 1.3%	1 1.3%	2 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3% 77 100.0%
欧州：学士	度数 124	3.5%	139 3.9%	124 3.5%	82 2.3%	262 7.4%	1,419 39.8%	134 11.8%	134 3.8%	379 10.6%	158 4.4%	113 3.2%	208 5.8% 3,561 100.0%
欧州：修士	度数 240	4.3%	277 5.0%	263 4.7%	278 5.0%	501 9.0%	1,604 28.7%	575 10.3%	202 3.6%	522 9.3%	413 7.4%	305 5.5%	405 7.3% 5,585 100.0%
合計	度数 3,669	3.8%	4,19 4.3%	879 9.1%	371 3.8%	770 7.9%	3,027 31.2%	996 10.3%	338 3.5%	908 9.4%	574 5.9%	419 4.3%	618 6.4% 9,688 100.0%

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日本：学士	度数 2	4.1%	0 0.0%	42 85.7%	0 0.0%	1 2.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 8.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0% 49 100.0%
日本：修士	度数 0	0.0%	0 0.0%	8 66.7%	8 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3% 12 100.0%
欧州：学士	度数 31	3.3%	29 3.1%	26 2.8%	28 3.0%	59 6.3%	372 40.0%	127 13.7%	27 2.9%	100 10.8%	54 5.8%	23 5.8%	54 5.8% 930 100.0%
欧州：修士	度数 50	3.6%	56 4.1%	71 5.2%	54 3.9%	121 8.8%	439 32.0%	137 10.0%	41 3.0%	157 11.5%	88 6.4%	59 4.3%	98 7.1% 1,371 100.0%
合計	度数 83	3.5%	85 3.6%	147 6.2%	83 3.5%	181 7.7%	264 34.3%	811 11.2%	143 2.9%	262 11.1%	68 6.1%	82 3.5%	153 6.5% 2,362 100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(1)：学位・資格取得(年)

	2000年以前	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	合計
日本：学士	度数 53	9	47	20	260	40	21	18	468
日本：学士	度数 11.3%	1.9%	10.0%	4.3%	55.6%	8.5%	4.5%	3.8%	100.0%
日本：修士	度数 57	4	5	0	3	4	3	0	76
日本：修士	度数 75.0%	5.3%	6.6%	0.0%	3.9%	5.3%	3.9%	0.0%	100.0%
欧州：学士	度数 663	206	595	662	603	545	293	24	3,591
欧州：学士	度数 18.5%	5.7%	16.6%	18.4%	16.8%	15.2%	8.2%	0.7%	100.0%
欧州：修士	度数 1,137	408	738	1,009	835	901	615	58	5,701
欧州：修士	度数 19.9%	7.2%	12.9%	17.7%	14.6%	15.8%	10.8%	1.0%	100.0%
合計	度数 1,910	627	1,385	1,691	1,701	1,490	932	100	9,836
合計	度数 19.4%	6.4%	14.1%	17.2%	17.3%	15.1%	9.5%	1.0%	100.0%

B6 該当大学（大学院）以外の高等教育経験(2)：学位・資格取得(年)

	2000年以前	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	合計
日本：学士	度数 8	1	2	0	18	0	5	15	49
日本：学士	度数 16.3%	2.0%	4.1%	0.0%	36.7%	0.0%	10.2%	30.6%	100.0%
日本：修士	度数 5	0	3	0	0	3	0	1	12
日本：修士	度数 41.7%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	8.3%	100.0%
欧州：学士	度数 155	68	82	170	138	171	130	18	932
欧州：学士	度数 16.6%	7.3%	8.8%	18.2%	14.8%	18.3%	13.9%	1.9%	100.0%
欧州：修士	度数 255	108	146	197	228	232	196	19	1,381
欧州：修士	度数 18.5%	7.8%	10.6%	14.3%	16.5%	16.8%	14.2%	1.4%	100.0%
合計	度数 423	177	233	367	384	406	331	53	2,374
合計	度数 17.8%	7.5%	9.8%	15.5%	16.2%	17.1%	13.9%	2.2%	100.0%

C. 学部卒業／大学院修了後(2000年度)前後の就職活動についてうかがいます。

C1 卒後(修了後)の仕事経験の有無

		はい、卒業後 から働いていたところです		いいえ、3ヶ月以上就職活動は あらためませんでした		合計	
	度数	日本：学士	日本：修士	欧州：学士	欧州：修士	合計	度数
日本：学士	80	3,796	5,896	9	12	141	2,139
日本：修士	12	80	9,851	161	166	4,3% 6.6%	100.0%
欧州：学士	23,4% 23.4%	3,242	71.2%	16,047	742	13,835	5.4%
欧州：修士	18,9% 18.9%	4,232	75.5%	16,047	1,264	22,343	5.7%
合計	19,566	19,696	28,801	2,156	38,523	5.6%	100.0%

C2 C1の仕事の開始年／グループ化

		2000年4月 -2001年3月	2001年4月 -2002年3月	2002年4月 -2003年3月	2003年4月 -2004年3月	2003年5月 -2005年4月	2003年5月 -2005年12月	合計
	度数	日本：学士	日本：修士	欧州：学士	欧州：修士	合計	度数	日本：学士
日本：学士	192	9,896	56.0%	1,097	149	142	263	116
日本：修士	6	161	5.6%	161	5	4	3	11
欧州：学士	3,2% 4,998	3,2% 1,33	84.7% 1.372	2,6% 17.6%	2.1% 8.5%	1.6% 0.3%	5.8% 604	100.0% 7,800
欧州：修士	51.3% 51.4%	51.3% 300	22.9% 3,241	22.9% 17.6%	22.9% 8.5%	22.9% 0.3%	22.9% 53	100.0% 14,158
合計	12,454	12,454	1,091	4,767	3,040	3,040	346	1,059
	51.7% 7.0%	51.7% 7.0%	19.6% 19.6%	19.6% 12.6%	19.6% 1.4%	19.6% 7.5%	19.6% 53	100.0% 24,107

C3 就職活動の開始時期

		卒業前 (1989/2000)	卒業の頃 (1989/2000)	卒業後 (1989/2000)	就職活動をし なれて仕事を見つける人が 多いと感じるときに	合計
	度数	日本：学士	日本：修士	欧州：学士	欧州：修士	合計
日本：学士	1,195	61	184	11.4%	10.4%	1,608
日本：修士	74,3%	3,8%	4	4.6%	10.2%	197
欧州：学士	83.2%	20.0%	4	9	20	100.0%
欧州：修士	27.8%	20.9%	2,027	3,005	1,977	9,709
合計	7,622	5,634	8,961	5,762	3,424	16,292
	27.4%	20.3%	32.2%	20.1%	100.0%	27,806

C4 就職活動の期間(ヶ月)：卒業(修了)後

		平均値	標準偏差	度数	
	日本：学士	日本：修士	欧州：学士	欧州：修士	合計
日本：学士	4.83	4.334	1.06	3,617	1,738
日本：修士	4.30	3,194	0.27	1,503	175
欧州：学士	1.19	2,553	2.65	5,040	7,651
欧州：修士	1.12	2,654	2.92	5,097	12,591
合計	1.46	3,079	2.65	4,592	20,688

C5 日本 就職活動の方法

	求人情報誌・ 求人広告	公共職業安定 所	民間の職業紹 介機関	インターネット によるか 会社(雇用主) と接触	求人があるか どうか知らず る会社(雇用主) から	大学の就職部 や就職情報室	家族、親戚、 友人、知り合 いなどの個人 的なつながり	大学の先生や 研究室の紹介	起業	その他	合計
日本：学士	261	81	93	468	52	75	404	230	195	2	182
日本：修士	14	0	1	48	2.5%	3.7%	19.8%	11.3%	9.5%	0.1%	8.9%
合計	275	81	94	516	53	79	468	242	241	2	193

C5 就職活動の方法

	求人情報誌・ 求人広告	公共職業安定 所	民間の職業紹 介機関	インターネット によるか 会社(雇用主) と接触	求人があるか どうか知らず る会社(雇用主) から	インターネット によるか 会社(雇用主) と接触	求人があるか どうか知らず る会社(雇用主) から	インターネット によるか 会社(雇用主) と接触	家族、親戚、 友人、知り合 いなどの個人 的なつながり	大学の先生や 研究室の紹介	起業	その他	以前から仕事 をしていた	合計
欧州：学士	2,230	636	781	708	2,496	1,362	1,390	1,665	544	208	713	67	12,800	
欧州：修士	2,647	588	664	1,330	4,906	2,541	1,481	3,025	1,238	485	1,345	86	20,316	
合計	5,151	1,305	1,539	2,552	7,455	3,982	2,871	4,930	2,490	675	2,058	153	35,161	

D. 学部卒業／大学院修了後の最初の仕事についてうかがいます。

D1_1 初職：ISCO国際職業標準分類（1988年）：大分類

	軍隊	管理的職業從 事者	専門的・技術 的職業從事者	準専門的な職 業從事者	事務從事者	販売從事者	農林漁業作業 者	運輸・通信從 事者	技能工、探掘・ 製造・建設作業 者	その他	合計
日本：学士	0	36	724	270	686	237	14	16	24	32	2,039
日本：修士	0	3	151	23	33.6%	11.6%	0.7%	0.8%	1.2%	1.6%	100,0%
欧州：学士	18	881	5,150	4,600	1,097	551	31	78	62	148	12,616
欧州：修士	46	938	13,796	3,478	40.8%	36.5%	8.7%	4.4%	0.2%	0.5%	100,0%
合計	64	1,856	19,821	8,371	2,917	1,134	59	157	119	339	34,839

D2 日本 初職・業種

	農業、林業、漁業	鉱業、採石業	製造業	電気、ガス、水道業	卸売・小売業、飲食店、修理業、ホテル	運輸、通信、倉庫業	金融・保険業	コンピュータ関連産業(コンサルタントやサプライ)	研究・開発	不動産業、賃貸業他	法律、会計、簿記、査定、市場調査ビジネス	建設設計、工事技術コンサルタント	その他商業サービス
日本：学士 度数	26 1.3%	2 0.1%	272 13.2%	33 5.6%	116 8.4%	173 2.5%	52 5.8%	120 5.8%	145 7.0%	112 5.4%	22 1.1%	16 0.8%	1,3% 2.7%
日本：修士 度数	0 0.0%	1 0.5%	80 37.7%	4 1.9%	10 4.7%	3 1.4%	5 2.4%	1 0.5%	7 3.3%	42 19.8%	0 0.0%	3 1.4%	6 2.8% 0.9%
合計 度数	26 1.1%	3 1.5%	352 15.5%	37 1.6%	126 7.8%	176 5.3%	57 6.7%	121 6.8%	152 6.7%	22 6.8%	19 1.0%	32 0.8%	57 1.4% 2.5%

D2 日本 初職：業種

	外務・司法、 公共安全	その他の中行政 (一般の公務など)	小学校	中学校、高等学校、 専修学校 高等課程	高等教育(大 学・短大・専門 学校)	成人教育、各 種学校、その 他の教育	医療・保健	ソーシャル ワーク	団体(職業團 体、宗教團 体、労働組合 など)	文化、スポー ツ	その他サー ビス業	合計
日本：学士 度数	19 0.9%	185 9.0%	50 2.4%	93 4.5%	50 2.4%	73 3.5%	160 7.8%	23 1.1%	33 1.6%	10 0.5%	103 5.0%	88 4.3% 100.0%
日本：修士 度数	1 0.5%	19 9.0%	1 0.5%	4 1.9%	9 4.2%	1 0.5%	4 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	1 0.5%	7 3.3% 100.0%
合計 度数	20 0.9%	204 9.0%	51 2.2%	97 4.3%	59 2.6%	74 3.3%	164 7.2%	23 1.0%	33 1.5%	11 0.5%	104 4.6%	95 4.2% 100.0%

D3 日本 初職：組織全体の人数

	-8,00	1~9人	10~49人	50~99人	100~249人	250~999人	1000人以上	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	79 4.1%	258 13.5%	181 9.5%	280 14.6%	381 19.9%	733 38.3%	1,912 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	2 1.0%	14 7.1%	13 6.6%	20 10.2%	23 11.7%	125 63.5%	197 100.0%

D3 日本 初職：事業所の人数

	-8,00	1~9人	10~49人	50~99人	100~249人	250~999人	1000人以上	非該当、1事 業所しかない	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	200 11.4%	568 32.5%	258 14.7%	224 12.8%	170 9.7%	192 11.0%	138 7.9%	1,750 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	6 3.0%	28 14.1%	22 11.1%	36 18.1%	29 14.6%	70 35.2%	8 4.0%	199 100.0%
合計									

D4 初職：自営か

	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	42 2.0%	2,015 98.0%	2,057 100.0%
日本：修士 度数	3 1.4%	208 98.6%	211 100.0%
欧洲：学士 度数	627 4.9%	12,200 95.1%	12,827 100.0%
欧洲：修士 度数	1,708 8.2%	19,184 91.8%	20,892 100.0%
合計	2,380 6.6%	33,607 93.4%	35,987 100.0%

D5 初職：雇用形態

	、 雇用期間の定 めがない契約 が主流な業態	雇用期間の定 めがある契約	その他	合計
日本：学士 度数	1,492 74.5%	478 24.0%	28 1.4%	1,988 100.0%
日本：修士 度数	174 86.6%	25 12.4%	2 1.0%	201 100.0%
欧洲：学士 度数	5,420 53.5%	5,055 42.1%	534 4.4%	12,009 100.0%
欧洲：修士 度数	48,649 48.9%	9,071 48.9%	816 4.4%	58,536 100.0%
合計 度数	16,725 51.1%	14,629 44.7%	1,380 4.2%	32,734 100.0%

D5 初職：雇用形態・期間（ヶ月）

D7 日本 初職：年収 (円) 稲葉代込

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	13,98	9,84	453
日本：修士	14,78	9,96	23
欧洲：学士	10,15	7,89	4,289
欧洲：修士	13,94	11,64	7,862
合計	12,85	10,60	12,627

D6 日本 初職：週当たり労働時間・所定労働

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	34,27	15,64	2,137
日本：修士	37,25	12,87	212
欧洲：学士	36,30	9,24	12,356
欧洲：修士	36,61	10,76	19,453
合計	36,35	10,95	34,158

D8 日本 初職：初任者研修・訓練：なし

	なし	あり	合計
日本：学士 度数	709 35.5%	1,290 64.5%	1,999 100.0%
日本：修士 度数	47 22.6%	161 77.4%	208 100.0%
欧洲：学士 度数	10,934 84.9%	1,946 15.1%	12,880 100.0%
欧洲：修士 度数	17,690 85.0%	3,116 15.0%	20,806 100.0%
合計 度数	29,360 81.9%	6,513 18.1%	35,893 100.0%

D9 日本 初職：初任者研修・訓練：インフォーマルな学習

	なし	あり	合計
日本：学士 度数	1,829 92.0%	158 8.0%	1,987 100.0%
日本：修士 度数	191 92.3%	16 7.7%	207 100.0%
欧洲：学士 度数	9,157 71.1%	3,720 28.9%	12,877 100.0%
欧洲：修士 度数	14,659 70.5%	6,146 29.5%	20,805 100.0%
合計 度数	25,836 72.0%	10,040 28.0%	35,876 100.0%

D10 日本 初職：正規労働時間・雇用形態

	正規雇用35時間以上	正規雇用35時間以下 非正規雇用55 時間以下	合計
日本：学士 度数	1,165 87.9%	163 12.1%	1,328 100.0%
日本：修士 度数	156 93.9%	11 6.6%	167 100.0%
欧洲：学士 度数	4,757 80.3%	1,168 19.7%	5,925 100.0%
欧洲：修士 度数	6,727 74.1%	2,346 25.9%	9,073 100.0%
合計 度数	12,623 77.7%	3,688 22.3%	16,513 100.0%

D7 初職：月収 (euro)

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	2,041.6	822.66	1,938
日本：修士	2,935.5	1,032.86	195
欧洲：学士	1,782.7	2,541.81	10,123
欧洲：修士	1,898.1	2,626.62	13,575
合計	1,871.5	2,496.30	25,934

D8 初職：初任者研修・訓練・研修・訓練・期間（ヶ月）

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	2.7	3.72	1,293
日本：修士	2.8	2.96	180
欧洲：学士	6.7	8.60	1,795
欧洲：修士	7.4	9.86	2,882
合計	6.1	8.62	6,110

D9 初職：最もふさわしい学年

	大学院修士課程	大学院修士課程	短大・高等専	専門学校卒	高校卒	その他	合計
日本：学士	31	177	1,279	188	132	58	2,038
日本：修士	15	8.7%	62.9%	9.2%	6.5%	2.8%	100.0%
合計	7.2%	86	92	5	4	3	208

D10 初職：最もふさわしい取扱分野

	自分の事務分野があるい ふさわしい	自分の事務分 野があるとい ふさわしい	自分の事務分 野があるとい ふさわしい	自分の事務分 野があるとい ふさわしい	自分の事務分 野があるとい ふさわしい	合計
日本：学士	369	17.9%	33.4%	16.9%	341	663
日本：修士	48	22.7%	102	25	36	211
欧洲：学士	3,794	64.4%	48.3%	11.8%	900	1,726
欧洲：修士	29.7%	50.5%	6.9%	13.5%	156	12,763
合計	7,011	9,712	1,358	2,254	20,335	

D11 初職：知識・技能の活用度

	まったく使って いなかった	-	-	とても使っ ていた	合計
日本：学士	368	17.8%	24.1%	4.66	375
日本：修士	26	12.4%	41	51	47
欧洲：学士	727	15.53	2.915	3,706	3,157
欧洲：修士	903	6.0%	12.8%	24.0%	31.2%
合計	2,024	4.612	8,340	10,153	8,568

	まつた必要さ れなかった	-	-	とても要 求され ていた	合計
日本：学士	269	13.0%	17.7%	23.6%	429
日本：修士	23	10.9%	15.2%	26.5%	51
欧洲：学士	2,363	19.5%	3.201	2,489	49
欧洲：修士	3,305	27.3%	26.4%	20.5%	754
合計	6,128	17.9%	27.2%	21.2%	1,352

D12 初職：身につけていた以上の知識・技能の要求度

	まつた必要さ れなかった	-	-	とても要 求され ていた	合計
日本：学士	269	13.0%	17.7%	23.6%	429
日本：修士	23	10.9%	15.2%	26.5%	51
欧洲：学士	2,363	19.5%	3.201	2,489	49
欧洲：修士	3,305	27.3%	26.4%	20.5%	754
合計	6,128	17.9%	27.2%	21.2%	1,352

D13 初職：現在も、最初の用意で働いているか

	いいえ、最初 の雇用先を辞 めた	はい	合計
日本：学士	1,162	56.1%	2,070
日本：修士	165	78.9%	210
欧洲：学士	5,269	41.1%	12,830
欧洲：修士	8,826	58.9%	20,462
合計	15,422	58.6%	35,572

D13 初職：現在も、最初の雇用先で働いているか：辞めた時期（月）

		D13 初職：現在も、最初の雇用先で働いているか：辞めた時期（月）												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
日本：学士	度数	44	50	275	65	51	57	48	55	81	61	30	62	879
日本：学士	率%	5.0%	5.7%	31.3%	7.4%	5.8%	6.5%	5.5%	6.3%	9.2%	6.9%	3.4%	7.1%	100.0%
日本：修士	度数	1	5	13	0	2	1	1	4	4	5	2	3	41
日本：修士	率%	2.4%	12.2%	31.7%	0.0%	4.9%	2.4%	2.4%	9.8%	12.2%	4.9%	7.3%	100.0%	
欧洲：学士	度数	554	532	513	488	523	755	625	834	751	531	364	650	7,130
欧洲：学士	率%	7.8%	7.5%	7.2%	6.8%	7.3%	10.6%	8.8%	11.7%	10.5%	7.4%	5.1%	9.3%	100.0%
欧洲：修士	度数	793	721	780	812	811	1,232	991	956	1,019	850	620	1,205	10,790
欧洲：修士	率%	7.3%	6.7%	7.2%	7.5%	7.5%	11.4%	9.2%	8.9%	9.4%	7.9%	5.7%	11.2%	100.0%
合計	度数	1,392	1,308	1,581	1,365	1,387	2,045	1,665	1,849	1,855	1,447	1,016	1,930	18,840
合計	率%	7.4%	6.9%	8.4%	7.2%	7.4%	10.9%	8.8%	9.8%	9.8%	7.7%	5.4%	10.2%	100.0%

D13 初職：現在も、最初の雇用先で働いているか：辞めた時期（年）

		D13 初職：現在も、最初の雇用先で働いているか：辞めた時期（年）												合計
		1,999	2,000	2,001	2,002	2,003	2,004	2,005	2,006	2,007	2,008	2,009	2,010	
日本：学士	度数	0	11	62	227	180	176	119	9	13.9%	13.9%	9.5%	100.0%	856
日本：学士	率%	0.0%	1.3%	7.2%	26.5%	21.0%	20.6%	20.6%	7	9	2	2	40	
日本：修士	度数	0	0	1	12	9	7	9	22.5%	22.5%	5.0%	5.0%	100.0%	
日本：修士	率%	0.0%	0.0%	2.5%	30.0%	22.5%	17.5%	17.5%	422	422	66	66	7,139	
欧洲：学士	度数	62	877	2,155	1,565	1,126	846	846	11.9%	5.9%	0.9%	0.9%	100.0%	
欧洲：学士	率%	12.3%	30.2%	22.2%	22.2%	15.8%	11.9%	11.9%	11.9%	11.9%	11.9%	11.9%	11.9%	
欧洲：修士	度数	51	1,003	2,712	2,466	2,027	1,549	965	124	10.897				
欧洲：修士	率%	0.5%	9.2%	24.9%	22.6%	18.3%	14.2%	14.2%	8.9%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	100.0%
合計	度数	113	1,691	4,930	4,290	3,342	2,578	1,515	273	18,932				
合計	率%	0.6%	10.0%	26.0%	22.7%	17.7%	13.6%	8.0%	1.4%	100.0%				

E. 学部卒業／大学院修了後の職歴と、現在の状況についてうかがいます。

E4 過去4週間ににおける活動：職業的な能力開発(教育・訓練)への参加

		いいえ	はい	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	度数	197	416	1.597	2.113	100.0%
日本：修士	度数	219	48	7.71	1.71	100.0%
欧州：学士	度数	12.776	4.457	8.319	12.776	100.0%
欧州：修士	度数	12.201	8.583	65.1%	41.3%	100.0%
合計	度数	20.784	13.504	22.388	35.992	100.0%
		37.6%	62.4%			

E4 過去4週間ににおける活動：職業的な能力開発(教育・訓練)への参加: 潜在たり時間

		いいえ	はい	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	度数	394	8.02	11.786	3.94	100.0%
日本：修士	度数	45	5.64	6.971	4.5	100.0%
欧州：学士	度数	4.260	12.33	13.914	4.260	100.0%
欧州：修士	度数	8.278	11.50	13.473	8.278	100.0%
合計	度数	12.977	11.65	13.579	12.977	100.0%

E4 過去4週間ににおける活動：子育て・家族の世話

		いいえ	はい	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	度数	2.108	498	1.610	76.4%	100.0%
日本：修士	度数	215	62	7.129	15.3	100.0%
欧州：学士	度数	12.749	28.8%	71.226	8.904	100.0%
欧州：修士	度数	8.278	3.845	8.914	30.2%	100.0%
合計	度数	100.0%	6.595	14.869	21.064	100.0%
			31.3%	68.7%	100.0%	
			11.000	25.136	36.3%	
			30.4%	69.6%	100.0%	

E4 過去4週間ににおける活動：子育て・家族の世話: 潜在たり時間

		いいえ	はい	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	度数	430	32.13	32.008	4.30	100.0%
日本：修士	度数	57	16.114	19.51	16.114	100.0%
欧州：学士	度数	3.170	42.838	39.41	42.838	100.0%
欧州：修士	度数	5.959	45.065	40.34	45.065	100.0%
合計	度数	9.616	43.769	39.54	43.769	100.0%
			9.616	43.769	100.0%	

E3 幸後(修了後)～現在：仕事をしていない時間(回数)

		平均値	標準偏差	度数
日本：学士	度数	13.518	14.66	1.135
日本：修士	度数	37	10.4	14.61
欧州：学士	度数	4.347	9.42	7.47
欧州：修士	度数	7.999	9.57	7.9
合計	度数	13.518	10.20	8.19

E3 幸後(修了後)～現在：仕事をしていない時間(運営、ヶ月)

		平均値	標準偏差	度数
日本：学士	度数	1.135	14.657	13.71
日本：修士	度数	37	14.612	10.14
欧州：学士	度数	4.347	9.424	7.47
欧州：修士	度数	7.999	9.567	7.9
合計	度数	13.518	10.205	8.19

E4 過去4週間ににおける活動:ボランティア活動または無伴の仕事:週当たり時間

	平均値	標準偏差	度数
日本: 学士	7.18	9.557	174
日本: 僕士	4.06	4.592	17
日本: 学士	6.78	9.634	1,694
日本: 僕士	6.97	10.162	3,166
合計	6.90	9.955	5,281

E5 過去4週間ににおける、有給の仕事を得るために求職活動

	いいえ、まだ していない	いいえ、だい ぶに 行った求職活 動の実験を 持っている	合計
日本: 学士	154	1,598	1,762
日本: 僕士	11	206	1
日本: 学士	5,096	5,056	10,052
日本: 僕士	2,185	11,135	13,653
日本: 学士	16.0%	81.6%	100.0%
日本: 僕士	17.9%	81.9%	100.0%
合計	5,871	30,936	950
	15.6%	82.0%	2.5%
	100.0%		

E6 社会的ネットワークの有用性:実験に際されるるうえで

	まったく役に立 かない	-	-	とても役に立 つ	合計
日本: 学士	212	328	614	590	442
日本: 僕士	19	37	61	56	45
日本: 学士	1,111	2,002	3,570	2,822	13,642
日本: 僕士	7.1%	14.7%	26.2%	30.3%	20.7%
合計	2,910	5,492	9,500	11,539	8,658
	7.6%	14.4%	24.9%	30.3%	22.7%
	100.0%				100.0%

E6 社会的ネットワークの有用性:実験に際されるるうえで

	まったく役に立 かない	-	-	とても役に立 つ	合計
日本: 学士	408	511	637	372	2,179
日本: 僕士	18.7%	23.3%	29.2%	17.1%	11.5%
日本: 学士	29	50	67	42	219
日本: 僕士	13.2%	22.8%	30.6%	19.2%	14.2%
日本: 学士	1,801	2,965	3,879	3,219	13,953
日本: 僕士	11.8%	21.3%	28.5%	23.7%	14.1%
合計	4,472	8,155	10,598	8,903	5,808
	11.8%	21.3%	27.9%	23.5%	15.3%
	100.0%				100.0%

E7 現在:現在の状況(6分類)

	正規雇用	非正規雇用	失業中(教育 訓練あり)	失業中(教育 訓練なし)	就業・育児	ボランティア	合計
日本: 学士	度数	1,456	336	23	87	95	6
日本: 僕士	度数	72.7%	16.8%	1.1%	4.3%	4.7%	0.3%
日本: 学士	度数	174	22	0	2	1	0
日本: 僕士	度数	87.4%	11.1%	0.0%	1.0%	0.5%	0.0%
日本: 学士	度数	9,155	1,765	251	452	328	71
日本: 僕士	度数	76.2%	14.7%	2.1%	3.8%	2.7%	0.6%
日本: 学士	度数	12,760	4,006	446	694	683	134
日本: 僕士	度数	68.2%	21.4%	3.7%	3.7%	3.7%	0.7%
合計	度数	23,545	6,123	720	1,235	1,107	32,947
		71.5%	16.6%	2.2%	3.7%	3.4%	0.6%
		100.0%					

F. 現在の仕事についてうかがいます。

F1_1 現在の仕事：初職（D1）と同じか

		同じ	異なる	合計
日本：学士	度数	1,341	566	1,907
		70.3%	29.7%	100.0%
日本：修士	度数	186	28	214
		13.1%	100.0%	
欧州：学士	度数	3,535	3,761	7,296
		51.5%	51.5%	100.0%
欧州：修士	度数	4,216	4,853	9,069
		46.5%	53.5%	100.0%
合計	度数	9,278	9,208	18,486
		50.2%	49.8%	100.0%

F1_1日本 現在の仕事：ISCO国際職業標準分類（1988年）：大分類

	軍隊	管理的職業從事者	専門的・技術的職業從事者	準専門的な職業從事者	事務從事者	販売從事者	農林漁業作業者	運輸・通信從事者	技能工、探査・製造・建設作業者及び労務作業者	その他	合計
日本：学士	度数	0	90	675	231	597	159	12	15	28	36
		0.0%	4.9%	36.6%	12.5%	32.4%	8.6%	0.7%	0.8%	1.5%	100.0%
日本：修士	度数	0	3	152	21	25	3	0	1	1	0
		0.0%	1.5%	73.8%	10.2%	12.1%	1.5%	0.0%	0.5%	0.5%	100.0%
欧州：学士	度数	25	1,164	6,284	3,402	655	332	20	51	27	57
		0.2%	9.7%	52.3%	28.3%	5.5%	2.8%	0.2%	0.4%	0.2%	12,017
欧州：修士	度数	30	1,520	13,909	2,819	727	195	19	30	19	49
		0.2%	7.9%	72.0%	14.6%	3.8%	1.0%	0.1%	0.2%	0.1%	19,317
合計	度数	55	2,777	21,020	6,473	2,004	689	51	97	75	142
		0.2%	8.3%	63.0%	19.4%	6.0%	2.1%	0.2%	0.3%	0.2%	33,383

F1_2 現在の仕事：仕事の内容：初職(D1)と同じか

		同じ	異なる	合計
日本：学士	度数	1,202	185	1,387
		86.7%	13.3%	100.0%
日本：修士	度数	164	42	206
		79.6%	20.4%	100.0%
欧州：学士	度数	3,373	3,595	6,968
		48.4%	51.6%	100.0%
欧州：修士	度数	4,144	4,580	8,724
		47.5%	52.5%	100.0%
合計	度数	8,883	8,402	17,285
		51.4%	48.6%	100.0%

F2 現在の仕事：自営業か

	(はい)	いいえ	合計
日本：学士 度数	117	1,824	1,941
日本：6.0% 94.0%	94.0%	100.0%	
日本：修士 度数	11	204	215
日本：5.1% 94.9%	94.9%	100.0%	
欧洲：学士 度数	900	11,462	12,362
欧洲：7.3% 12.6%	92.7%	100.0%	
欧洲：修士 度数	2,489	11,734	19,933
欧洲：12.5% 87.5%	100.0%		
合計 度数	3,527	30,924	34,451
合計 度数	10.2%	89.8%	100.0%

F3 現在の仕事：雇用形態

	雇用期間固定 めがけない契約	雇用期間固定 めがけた契約	その他	合計
日本：学士 度数	1,462	337	6	1,805
日本：81.0% 18.7%	81.0%	0.3%	100.0%	
日本：修士 度数	174	22	1	197
日本：68.3% 11.2%	68.3%	0.5%	100.0%	
欧洲：学士 度数	9,201	1,777	204	11,182
欧洲：82.3% 15.9%	82.3%	1.8%	100.0%	
欧洲：修士 度数	12,828	4,024	297	17,149
欧洲：74.8% 23.6%	74.8%	1.7%	100.0%	
合計 度数	23,665	6,160	508	30,333
合計 度数	78.0%	20.3%	1.7%	100.0%

F4 現在の仕事：週当たり労働時間・所定労働

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	12.89	13.29	284
日本：修士	19.50	18.07	18
欧洲：学士	14.02	11.91	1,408
欧洲：修士	19.04	15.62	3,463
合計	17.34	14.79	5,173

F4 現在の仕事：週当たり労働時間・時間外労働

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	35.28	12.79	1,921
日本：修士	37.64	10.32	210
欧洲：学士	36.33	8.27	11,996
欧洲：修士	37.14	8.87	19,145
合計	36.75	8.96	33,272

F5 日本 現在の仕事：収入・主な仕事：年収(万円)

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	275.3	349.17	2,279
日本：修士	455.4	242.45	222

F5 日本 現在の仕事：収入・その他の有給の仕事：年収(万円)

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	1.4	11.73	2,279
日本：修士	1.0	8.44	222

F5 日本 現在の仕事：合計：月収(euro)

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	2,001.6	757.29	1,794
日本：修士	2,918.7	978.40	185
欧洲：学士	2,347.2	1,349.62	11,445
欧洲：修士	2,306.2	1,532.22	18,019
合計	2,307.5	1,433.36	31,453

F6 現在の仕事：最もふさわしい学派

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	10.78	13.08	1,924
日本：修士	12.87	10.34	209
欧洲：学士	3.96	7.84	12,212
欧洲：修士	5.04	8.45	19,350
合計	5.03	8.74	33,395

	正規時間33.5時間以上	非正規時間35時間以下	合計
日本：学士 度数	1,167	112	1,279
日本：修士 度数	156	9	165
欧洲：学士 度数	94.5%	5.5%	100.0%
欧洲：修士 度数	68.61	6.1%	7.127
合計 度数	91.2%	8.8%	100.0%

F4 現在の仕事：週当たり労働時間：その他の有給の仕事

	(はい)	いいえ	合計
日本：学士 度数	117	1,824	1,941
日本：6.0% 94.0%	94.0%	100.0%	
日本：修士 度数	11	204	215
日本：5.1% 94.9%	94.9%	100.0%	
欧洲：学士 度数	900	11,462	12,362
欧洲：7.3% 12.6%	92.7%	100.0%	
欧洲：修士 度数	2,489	11,734	19,933
欧洲：12.5% 87.5%	100.0%		
合計 度数	3,527	30,924	34,451
合計 度数	10.2%	89.8%	100.0%

F7 現在の仕事：最もふさわしい専攻分野

自分の専攻分野がある理由			自分の専攻分野がある理由		
自分の専攻分野がある理由		自分の専攻分野がある理由		自分の専攻分野がある理由	
野球が得意で、野球をやる分野		野球が得意で、野球をやる分野		野球が得意で、野球をやる分野	
日本：学士 度数	376	666	368	521	1,933
日本：修士 度数	19,5%	34,6%	19,0%	27,0%	100,0%
日本：修士 度数	39	114	26	34	213
日本：修士 度数	18,3%	53,5%	12,2%	16,0%	100,0%
欧州：学士 度数	3,484	6,653	689	1,071	12,307
欧州：修士 度数	28,3%	55,8%	8,7%	10,0%	100,0%
合計 度数	6,786	10,288	1,346	1,420	19,840
合計 度数	34,2%	51,9%	6,8%	7,2%	100,0%
合計 度数	10,685	17,933	2,623	3,046	34,293
合計 度数	31,2%	52,3%	7,7%	8,9%	100,0%

F8 現在の仕事：一人前とみなされる能力・資質を醸成するために必要な経験（修了後）の期間（ヶ月）

		0ヶ月以下	7-12ヶ月	1-2年	3-5年	6-10年	10年以上	合計
日本：学士 度数	95	153	360	856	131	1,914		
日本：学士 度数	5,0%	8,0%	18,9%	44,7%	16,7%	6,8%	100,0%	
日本：修士 度数	15	9	29	36	46	10	205	
日本：修士 度数	7,3%	4,4%	14,4%	46,9%	22,4%	4,9%	100,0%	
欧州：学士 度数	1,450	1,945	4,024	11,115	460	12,248		
欧州：学士 度数	11,8%	15,9%	26,6%	37,9%	9,1%	3,8%	100,0%	
欧州：修士 度数	2,668	3,366	5,437	6,067	1,573	496	19,607	
欧州：修士 度数	13,6%	17,7%	30,7%	30,3%	8,0%	2,5%	100,0%	
合計 度数	4,228	5,413	9,080	11,043	3,053	1,097	33,974	
合計 度数	12,4%	16,1%	26,7%	32,5%	9,0%	3,2%	100,0%	

F9 現在の仕事・知識・技能の活用度

まつたく使ってない			まつたく使ってない			まつたく使っている			まつたく使っている			合計
日本：学士 度数	152	261	432	515	573	1,933						
日本：学士 度数	7,9%	13,5%	22,3%	28,6%	28,6%	100,0%						
日本：修士 度数	16	30	41	60	68							
日本：修士 度数	7,4%	14,0%	19,1%	27,9%	31,6%	100,0%						
欧州：学士 度数	280	944	2,375	4,587	4,174	12,360						
欧州：修士 度数	360	1,329	3,728	7,174	3,388	33,800						
欧州：修士 度数	1,8%	6,7%	18,7%	36,7%	36,7%	100,0%						
合計 度数	868	2,554	6,576	12,336	12,14	34,598						
合計 度数	2,3%	7,5%	19,1%	35,5%	35,2%	100,0%						

F10 現在の仕事：身につけている以上の知識・技能の要求度

まつたく要求されていない			まつたく要求されていない			まつたく要求されている			まつたく要求されている			合計
日本：学士 度数	112	182	-	410	-	569	637	1,933				
日本：学士 度数	5,8%	9,4%	21,2%	29,5%	-	34,0%	34,0%	100,0%				
日本：修士 度数	15	20	44	72	63	214						
日本：修士 度数	7,0%	9,3%	20,6%	33,5%	28,4%	100,0%						
欧州：学士 度数	1,527	3,852	3,899	2,449	604	12,331						
欧州：修士 度数	12,4%	31,2%	31,6%	19,0%	4,9%	100,0%						
欧州：修士 度数	2,647	6,685	5,916	3,634	975	19,697						
合計 度数	13,3%	33,7%	29,8%	18,3%	4,9%	100,0%						
合計 度数	4,301	10,739	10,269	6,724	2,299	34,332						
合計 度数	12,5%	31,3%	29,9%	19,5%	6,7%	100,0%						

F11 現在の仕事：満足度

まつたく満足していない			まつたく満足していない			まつたく満足している			まつたく満足している			合計	
日本：学士 度数	88	263	559	663	639	1,932							
日本：学士 度数	4,6%	13,6%	28,9%	34,9%	18,6%	100,0%							
日本：修士 度数	7	29	58	80	41	215							
日本：修士 度数	3,3%	13,5%	27,0%	37,2%	19,1%	100,0%							
欧州：学士 度数	334	1,048	2,806	5,042	3,313	12,343							
欧州：学士 度数	2,7%	8,5%	21,1%	40,9%	26,8%	100,0%							
欧州：修士 度数	492	1,499	4,253	8,173	5,449	19,856							
欧州：修士 度数	2,5%	7,5%	21,1%	41,1%	27,4%	100,0%							
合計 度数	921	2,639	7,476	13,958	9,162	34,356							
合計 度数	2,7%	8,3%	21,1%	40,6%	26,7%	100,0%							

G. 現在所属している組織(企業、官公庁、団体など)についてうかがいます。

G1 現在所属している組織：就労開始年（西暦）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
日本：学士 度数	53 2.8%	43 2.3%	83 4.4%	1,226 64.1%	68 3.6%	57 3.0%	75 3.9%	47 2.5%	58 3.0%	110 5.8%	41 2.2%	43 2.3%	1,904 100.0%	
日本：修士 度数	2 0.9%	3 1.4%	7 3.3%	152 71.0%	5 2.3%	7 3.3%	5 2.3%	6 2.8%	4 2.2%	9 4.2%	5 5.1%	4 1.9%	3 1.4%	214 100.0%
欧洲：学士 度数	1,325 10.9%	838 6.9%	840 6.9%	818 7.0%	898 6.8%	794 7.4%	1,187 12.3%	1,489 16.4%	1,981 16.4%	998 12.3%	776 8.2%	497 6.4%	12,107 100.0%	
欧洲：修士 度数	2,153 11.2%	1,403 7.3%	1,466 7.6%	1,348 7.0%	1,309 6.8%	1,187 6.2%	1,276 6.6%	2,059 10.7%	3,159 16.4%	1,782 9.3%	1,217 6.4%	859 6.3%	19,218 100.0%	
合計 度数	3,553 10.6%	2,287 6.8%	2,396 7.2%	2,200 10.7%	2,569 6.6%	2,149 6.4%	2,150 6.4%	3,601 10.9%	5,217 15.6%	2,901 8.7%	2,038 6.1%	1,402 4.2%	33,443 100.0%	

G2 現在所属している組織：業種：初職と同じか

	同じ	異なる	合計
日本：学士 度数	1,363 72.2%	524 27.8%	1,887 100.0%
日本：修士 度数	188 87.9%	26 12.1%	214 100.0%
欧洲：学士 度数	4,947 67.5%	2,379 32.5%	7,326 100.0%
欧洲：修士 度数	5,853 64.9%	3,162 35.1%	9,015 100.0%
合計 度数	12,351 67.0%	6,091 33.0%	18,442 100.0%

G3 日本 現在所属している組織：業種：初職と異なるか

	はい	いいえ	合計
日本：学士 度数	1,365 72.2%	526 27.8%	1,881 100.0%
日本：修士 度数	188 87.9%	26 12.1%	214 100.0%
合計 度数	1,553 73.8%	552 26.2%	2,105 100.0%

G4 日本 現在所属している組織：業種

	農業・林業、漁業	製造業	電気・ガス、水道業	建設業	卸売・小売業、修理業、飲食店	倉庫業、運輸、通信	金融・保険業	コンピュータ関連産業(コンサルタント)	研究・開発	不動産業、賃貸業	法律、会計、簿記、会場設備・サルネス・コントラクト	建設設計、工業技術コンサルタント
日本：学士 度数	58 10.4%	53 10.4%	5 0.9%	17 3.0%	41 7.3%	16 2.9%	14 2.5%	18 3.2%	2 1.1%	16 1.1%	6 3.4%	8 1.4%
日本：修士 度数	0 0.0%	4 16.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.0%	0 0.0%	1 4.0%	2 8.0%	1 4.0%	3 12.0%	0 0.0%
合計 度数	58 9.9%	62 10.6%	5 0.9%	17 2.9%	41 7.0%	18 3.1%	14 2.4%	19 3.2%	7 3.1%	18 1.2%	22 3.8%	8 1.4%

G2 日本 現在所属している組織：業種

	その他の中商サービス	外務、司法、 公共安全	その他の行政 (一般の公務など)	小学校	中学校、高校 校、専修学校 高等課程	高等教育(大学、短大、専門 学校)	成人教育・各種 学校、その他の教育	医療・保健	ソーシャル ワーク	団体(職業團 体、宗教團 体、労働組合 など)	文化、スポー ツ	その他のサー ビス業
日本：学士 度数	28 5.0%	7 1.3%	39 7.0%	13 2.3%	21 3.8%	27 4.8%	18 3.2%	42 7.5%	7 1.3%	11 2.0%	4 0.7%	33 5.9%
日本：修士 度数	1 4.0%	1 4.0%	3 12.0%	1 4.0%	0 0.0%	3 12.0%	2 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計 度数	29 5.0%	8 1.4%	42 7.2%	14 2.4%	21 3.6%	30 5.1%	20 3.4%	42 7.2%	7 1.2%	12 2.1%	4 0.7%	33 5.6%

G3 現在所属している組織：公部門か民間部門か

	公部門	民間部門(非 営利)	民間部門(營 利)	その他	合計
日本：学士 度数	520 27.5%	119 6.3%	1,224 64.6%	31 1.6%	1,884 100.0%
日本：修士 度数	51 24.1%	9 4.2%	150 70.8%	2 0.9%	212 100.0%
欧州：学士 度数	5,367 44.2%	1,030 8.5%	5,595 45.9%	172 1.4%	12,184 100.0%
欧州：修士 度数	7,870 39.8%	1,344 6.8%	10,177 51.5%	369 1.9%	19,760 100.0%
合計 度数	13,828 40.6%	2,502 7.3%	17,146 50.4%	574 1.7%	34,050 100.0%

G4 現在所属している組織：所在地

	自國	海外	合計
日本：学士 度数	1,919 99.7%	5 0.3%	1,924 100.0%
日本：修士 度数	214 99.5%	1 0.5%	215 100.0%
欧州：学士 度数	11,840 97.6%	291 2.4%	12,131 100.0%
欧州：修士 度数	18,634 96.9%	602 3.1%	19,296 100.0%
合計 度数	32,657 97.3%	899 2.7%	33,556 100.0%

G5 現在所属している組織：市場競争の激しさ

		まったく感じない		感じた		とても感じた		非該当		合計	
日本：学士	度数	116	104	207	407	593	1,999	350	100.0%	8,226	91.9%
日本：修士	度数	6,29%	5,93%	14,1%	24,6%	31,2%	18,4%	100.0%	100.0%	157	1,749
日本：修士	度数	11	13	28	40	103	20	215	100.0%	24	191
日本：修士	度数	5,1%	6,0%	13,0%	18,6%	47,9%	9,3%	100.0%	100.0%	11,2%	88.6%
欧州：学士	度数	756	921	1,869	3,213	3,172	2,160	12,011	100.0%	1,846	9,801
欧州：修士	度数	6,3%	15,6%	15,6%	26,8%	18,2%	10,0%	100.0%	100.0%	14,4%	85.0%
合計	度数	961	1,202	2,853	5,160	6,056	2,677	18,909	100.0%	2,275	16,360
合計	度数	5,1%	6,0%	15,6%	27,3%	32,0%	14,2%	100.0%	100.0%	12,2%	87.6%
合計	度数	1,146	2,140	5,017	8,860	9,924	5,222	33,034	100.0%	4,102	32,203
合計	度数	5,6%	6,1%	15,2%	26,9%	30,0%	15,8%	100.0%	100.0%	12,7%	87.3%

G6 現在所属している組織：市場における競争の妥協度

		とても妥協		どちら妥協		どちら不妥協		非該当		合計	
日本：学士	度数	182	384	518	342	109	353	1,888	100.0%	201	1,906
日本：学士	度数	9,6%	20,3%	27,4%	18,1%	5,8%	18,7%	100.0%	100.0%	10,5%	89.5%
日本：修士	度数	22	51	31,8%	33,7%	12	25	214	100.0%	34	215
日本：修士	度数	10,3%	23,8%	32,2%	15,4%	5,6%	11,7%	100.0%	100.0%	15,8%	84.2%
欧州：学士	度数	1,489	2,816	3,216	1,888	645	2,984	12,282	100.0%	657	10,29
欧州：修士	度数	12,1%	19,7%	23,4%	15,5%	5,3%	24,1%	100.0%	100.0%	5,8%	94.2%
欧州：修士	度数	2,086	4,149	4,606	2,862	1,180	4,803	19,111	100.0%	946	17,946
合計	度数	10,6%	21,0%	24,6%	14,6%	6,0%	24,4%	100.0%	100.0%	5,1%	94.5%
合計	度数	3,779	7,000	8,065	5,155	1,946	8,150	34,095	100.0%	1,840	32,103
合計	度数	11,1%	20,5%	23,7%	15,1%	5,7%	23,9%	100.0%	100.0%	5,7%	94.5%

G7 現在所属している組織：変化：あなたの組織内での大きな変化

		はい		いいえ		合計					
日本：学士	度数	696	1,221	1,917	1,917	510	508	22,3%	23,3%	4,7%	88
日本：学士	度数	36,3%	63,7%	100.0%	100.0%	11,6%	24,9%	22,2%	22,2%	13,3%	13,3%
日本：修士	度数	71	145	216	216	27	60	54	50	12,4%	215
日本：修士	度数	32,9%	67,1%	100.0%	100.0%	12,6%	27,0%	23,1%	23,1%	11,2%	100.0%
欧州：学士	度数	6,897	11,889	17,688	17,688	3,063	5,938	3,890	3,890	1,043	11,700
欧州：学士	度数	41,5%	58,5%	100.0%	100.0%	14,4%	33,2%	15,5%	15,5%	8,9%	8,9%
欧州：修士	度数	7,024	11,987	19,011	19,011	4,906	5,266	4,747	4,747	1,441	18,253
欧州：修士	度数	36,9%	63,1%	100.0%	100.0%	16,8%	28,0%	32,5%	32,5%	7,9%	100.0%
合計	度数	12,688	20,244	32,932	32,932	8,217	21,4%	10,425	10,425	2,761	32,072
合計	度数	38,5%	61,5%	100.0%	100.0%	15,6%	28,9%	32,5%	32,5%	8,6%	100.0%

G8 現在所属している組織：変化：あなた自身の職務内容の大変な変化

		はい		いいえ		合計					
日本：学士	度数	838	1,078	1,916	1,916	510	508	22,3%	23,3%	4,7%	88
日本：学士	度数	43,7%	56,3%	100.0%	100.0%	27,3%	27,3%	23,3%	23,3%	13,3%	13,3%
日本：修士	度数	125	90	215	215	68	72	49	49	1	14
日本：修士	度数	58,1%	41,9%	100.0%	100.0%	32,1%	34,8%	23,3%	23,3%	6,8%	6,8%
欧州：学士	度数	6,023	5,324	11,847	11,847	2,733	2,945	2,478	2,478	1,059	12,175
欧州：学士	度数	50,8%	49,2%	100.0%	100.0%	22,4%	24,2%	20,4%	20,4%	8,9%	8,9%
欧州：修士	度数	8,535	10,451	18,986	18,986	4,906	4,906	3,630	3,630	1,332	18,645
欧州：修士	度数	45,0%	55,0%	100.0%	100.0%	25,0%	21,4%	18,5%	18,5%	6,8%	100.0%
合計	度数	15,521	17,443	32,964	32,964	8,217	7,725	6,592	6,592	2,713	33,900
合計	度数	47,1%	52,9%	100.0%	100.0%	24,2%	22,0%	19,4%	19,4%	9,0%	100.0%

G7 現在所属している組織：変化：組織の再編成

		はい		いいえ		合計					
日本：学士	度数	150	1,759	1,909	1,909	131	144	228	228	336	1,813
日本：学士	度数	7,9%	92,1%	100.0%	100.0%	7,2%	13,9%	12,6%	12,6%	18,5%	100.0%
日本：修士	度数	17	196	213	213	10	19	12,5%	12,5%	130	207
日本：修士	度数	8,0%	92,0%	100.0%	100.0%	4,8%	6,3%	4,8%	4,8%	62,9%	100.0%
欧州：学士	度数	1,867	9,598	11,465	11,465	1,288	1,891	1,135	1,135	4,083	11,543
欧州：学士	度数	16,3%	83,7%	100.0%	100.0%	11,2%	16,1%	9,8%	9,8%	35,4%	100.0%
欧州：修士	度数	2,449	16,169	18,618	18,618	2,592	1,784	1,784	1,784	2,698	18,427
欧州：修士	度数	13,2%	86,8%	100.0%	100.0%	14,1%	18,1%	9,7%	9,7%	14,6%	100.0%
合計	度数	4,483	27,722	32,205	32,205	4,021	5,78	3,602	3,602	10,985	31,990
合計	度数	13,9%	86,1%	100.0%	100.0%	12,6%	17,1%	9,6%	9,6%	15,1%	34,3%

G10 現在所属している組織・規模・事業所

	1~9人	10~49人	50~99人	100~249人	250~999人	1000人以上	非該当	合計
日本：学士	188 11.1%	474 14.7%	236 11.4%	126 11.4%	193 11.4%	193 11.4%	186 10.0%	1,687
日本：修士	7 26.1%	33 10.0%	20 15.4%	31 14.9%	30 14.9%	71 14.9%	9 10.0%	201
欧州：学士	3,596 17.5%	16,496 29.5%	2,095 11.5%	1,159 11.5%	1,156 10.5%	1,055 10.5%	787 11.6%	1,166 10.0%
欧州：修士	4,334 18.9%	18,088 28.2%	1,808 11.7%	1,830 11.9%	1,710 11.9%	1,704 11.9%	1,704 10.0%	15,396
合計	4,855 17.8%	7,956 28.5%	3,223 11.5%	2,988 11.8%	2,161 10.9%	3,065 10.9%	27,317 11.2%	10,076

G11 現在所属している組織・直接管理している部下の有無

G12 現在所属している組織・責任の度量：責任の度量・組織としての目標の設定

	部署がある ない	合計
日本：学士	312 16.3%	1,902 83.7%
日本：修士	53 24.8%	161 75.2%
欧州：学士	4,475 36.5%	7,789 63.5%
欧州：修士	7,026 35.7%	12,950 64.3%
合計	11,866 34.8%	22,220 65.2%

G13 現在所属している組織・責任の度量：あなたの仕事の成績が組織内他の人の仕事ぶりに左右されることがある

	まつたく責任が ある	まつたく責任が ない	合計
日本：学士	度数 164	度数 86%	度数 282
日本：修士	度数 13	度数 14.7%	度数 47
欧州：学士	度数 61%	度数 17.8%	度数 21%
欧州：修士	度数 947	度数 14.5%	度数 3,120
合計	度数 1,839	度数 14.5%	度数 3,123

G14 現在所属している組織・責任の度量：組織としての目標の設定

	まつたく責任が ある	まつたく責任が ない	合計
日本：学士	457 23.9%	343 17.9%	58,955 308
日本：修士	47 22.0%	33 15.4%	6,539 51
欧州：学士	91,220 36.8%	41,181 20.8%	1,155 1,142
欧州：修士	44,525 37.9%	6,455 18.9%	66,549 10,985
合計	12,911 36.6%	8,774 18.9%	65,524 10,985

G15 現在所属している組織・責任の度量：あなたの仕事の成績が、あなたの仕事ぶりに左右されることがある

	まつたく責任は まらない	まつたく責任は ある	合計
日本：学士	度数 159	度数 8.3%	度数 281
日本：修士	度数 12	度数 5.7%	度数 61
欧州：学士	度数 970	度数 8.0%	度数 1,697
欧州：修士	度数 1,648	度数 9.4%	度数 2,993
合計	度数 2,963	度数 8.7%	度数 5,337

G16 現在所属している組織・責任の度量：組織内他の人の仕事ぶりに左右されることがある

	まつたく責任は まらない	まつたく責任は ある	合計
日本：学士	度数 892	度数 46.1%	度数 2,039
日本：修士	度数 105	度数 4.7%	度数 49
欧州：学士	度数 970	度数 13.9%	度数 7,954
欧州：修士	度数 1,648	度数 19.6%	度数 3,996
合計	度数 11,036	度数 4.1%	度数 15,576

G17 現在所属している組織・責任の度量：自分の仕事の目標の設定

	まつたく責任が ある	まつたく責任が ない	合計
日本：学士	度数 56	度数 2.9%	度数 191
日本：修士	度数 6	度数 2.8%	度数 21
欧州：学士	度数 494	度数 4.0%	度数 12,244
欧州：修士	度数 840	度数 4.3%	度数 3,006
合計	度数 1,306	度数 4.1%	度数 15,576

G14 現在所属している組織：組織内の他の人は、あなた個人の成果をどの程度客観的に評価できると思うか

		まったく評議でない		十分に評議できる		非該当		合計	
		度数		度数		度数		度数	
日本：学士	45	2.4%	250	638	643	276	52	1.912	1.912
日本：修士	7	3.3%	13.1%	33.3%	33.6%	14.4%	3.2%	100.0%	100.0%
日本：修士	7	3.3%	13.29	64	76	33	4	213	213
欧洲：学士	212	1.0%	1,090	30.0%	35.7%	15.5%	1.9%	100.0%	100.0%
欧洲：修士	1.7%	8.1%	3.127	5,003	2,458	343	12.233	100.0%	100.0%
合計	376	1.9%	9,784	22.6%	40.9%	20.1%	2.89%	100.0%	100.0%
日本：修士	9	9.3%	24.4%	4,802	7,829	4,198	669	19,658	19,658
日本：修士	9	9.3%	3,153	8,659	13,551	6,985	1,079	34,016	34,016
合計	640	1.9%	9,936	25.4%	38.8%	20.5%	3.2%	100.0%	100.0%

G15 現在所属している組織：上司があなたの仕事をどうの評価範囲に点検していると思うか

		まったく範囲でない		とても範囲である		非該当		合計	
		度数		度数		度数		度数	
日本：学士	153	8.0%	20,376	31.6%	528	184	56	1.915	1.915
日本：修士	17	8.0%	22.4%	33.71	56	13	9	213	213
歐州：学士	551	2.8%	2,085	3.546	3,100	1,369	695	12,246	12,246
歐州：修士	6.9%	21.9%	29.0%	3.546	3,100	11.24%	5.7%	100.0%	100.0%
合計	2,282	6.3%	9,732	28.3%	9,051	4,160	1,914	34,030	34,030
日本：修士	6.6%	20.3%	26.9%	9,732	9,051	4,160	1,914	5,696	100.0%

H1A 現在所属している組織：あなたが大きなミスをしたり、あなたの業績が落ちた時、どの程度の責任感を抱えますか

		ほとんど被害がない		被害がある		とても被害がある		非常に被害がある		合計	
		度数		度数		度数		度数		度数	
日本：学士	89	4.6%	255	573	649	349	1,915	1,915	1,915	1,915	1,915
日本：修士	8	4.6%	13.3%	29.73	33.9%	33.9%	18.2%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
歐州：学士	3.8%	16.0%	34.3%	31.9%	14.1%	14.1%	10.0%	21.3	30	30	21.3
歐州：修士	579	1.3%	1,033	22.1%	4,142	3,485	12,183	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
合計	2,476	7.3%	14,896	23.5%	3,029	4,302	19,580	23.5%	22.0%	100.0%	100.0%
日本：修士	7.3%	20.3%	26.9%	9,732	9,051	4,160	1,914	33,895	10.294	8,146	10.294

H1A 現在所属している組織：新たに知識を素早く身につける力

		まったく身につけていない		少しだけ身につけていない		どちらか身上に付いている		多く身についている		十分类に身についている		非常に身についている		合計	
		度数		度数		度数		度数		度数		度数		度数	
日本：学士	78	3.7%	14.9%	4.6%	1.4%	1.4%	0.0%	15.1%	16	7.4%	3.4%	14.9%	14.9%	29	2.126
日本：修士	2	0.9%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	304	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	68	4.4%
歐州：学士	22	0.2%	22.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	1.1%	22	11.4%	27.4%	39.9%	39.9%	2.359	5.7%
歐州：修士	26	0.1%	0.5%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	1.8%	1,637	7.7%	22.6%	40.9%	40.9%	5,623	13.166
合計	77	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	1,033	3.843	11.3%	24.8%	24.8%	8,150	12.120
日本：修士	7.4%	20.4%	26.9%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	2.2%	1,112	4,687	8.7%	22.6%	22.6%	8,150	36.757

H1A 現在所属している組織：新たに知識を素早く身につける力

		まったく身につけていない		少しだけ身につけていない		どちらか身上に付いている		多く身についている		十分类に身についている		非常に身についている		合計	
		度数		度数		度数		度数		度数		度数		度数	
日本：学士	404	19.1%	4.6%	1.4%	0.4%	0.4%	0.0%	19.1%	16	7.4%	3.4%	14.9%	14.9%	321	94
日本：修士	9	4.0%	4.2%	0.9%	0.9%	0.9%	0.0%	14.0%	304	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%	68	4.4%
歐州：学士	22	0.2%	22.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	1.1%	720	1.710	3.458	8.871	8.871	3,458	13.104
歐州：修士	26	0.1%	0.5%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	1.3%	1,637	1.637	2.2%	5.623	5.623	5,623	13.104
合計	807	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2,112	4,687	2.1%	4.892	4.892	8,150	21.177
日本：修士	807	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2.0%	2,112	4,687	2.1%	4.892	4.892	8,150	21.177

H1A 現在所属している組織：新しい能力とその活用についてつかがいいます。

H1A 現在の能力：大学で学んだ学問分野や専門領域で精進していること

H1A 現在の能力：フレッシャーの中で力を発揮すること

H1A 現在の能力：十分に身についている

H1A 現在の能力：非常に身についている

H1A 現在の能力：十分类に身についている

H1A 現在の能力：多く身についている

H1A 現在の能力：少しだけ身についている

H1A 現在の能力：まったく身につけていない

H1A 現在の能力：合計

HIA 現在の能力：新たなるチャンスに挑戦に對応する力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		2,114
日本・学士	68	177	450	676	466	233	592	92	114	度数	345
日本・修士	3,296	8,153	20,319	32,195	22,096	9,956	4,494	100,0%	2,116	度数	6,356
日本・修士	3	9	42	60	64	29	9	216	1,14	度数	2,036
欧州・学士	1,4%	4.2%	18.4%	27.8%	29.6%	13.9%	4.2%	100,0%	0.9%	度数	8
欧州・学士	140	377	911	2,842	3,979	3,565	1,215	13,055	1,152	度数	521
欧州・修士	1.1%	2.0%	7.0%	21.7%	30.4%	9.7%	100,0%	0.2%	1.1%	度数	1,152
合計	310	786	1,777	4,464	6,101	5,332	2,378	21,148	0.0%	度数	89
合計	521	1,349	3,100	8,044	10,610	9,125	3,754	36,563	100,0%	度数	161
	度数	1.4%	3.7%	6.6%	22.0%	28.0%	10.3%	100,0%	0.1%	度数	0.1%
	度数	1.4%	3.7%	6.6%	22.0%	28.0%	10.3%	100,0%	0.1%	度数	161

HIA 現在の能力：他の人に自分の意見を明確に伝える力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		89
日本・学士	66	177	450	676	466	233	592	92	114	度数	345
日本・修士	3,296	8,153	20,319	32,195	22,096	9,956	4,494	100,0%	2,116	度数	6,356
日本・修士	3	9	42	60	64	29	9	216	1,14	度数	2,036
欧州・学士	1.4%	4.2%	18.4%	27.8%	29.6%	13.9%	4.2%	100,0%	0.9%	度数	8
欧州・学士	140	377	911	2,842	3,979	3,565	1,215	13,055	1,152	度数	521
欧州・修士	1.1%	2.0%	7.0%	21.7%	30.4%	9.7%	100,0%	0.2%	1.1%	度数	1,152
合計	310	786	1,777	4,464	6,101	5,332	2,378	21,148	0.0%	度数	89
合計	521	1,349	3,100	8,044	10,610	9,125	3,754	36,563	100,0%	度数	161
	度数	1.4%	3.7%	6.6%	22.0%	28.0%	10.3%	100,0%	0.1%	度数	161
	度数	1.4%	3.7%	6.6%	22.0%	28.0%	10.3%	100,0%	0.1%	度数	161

HIA 現在の能力：他の人の知識や能力を尊重する力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		1,119
日本・学士	56	135	304	616	564	345	102	2,123	42	度数	147
日本・修士	2,696	6,395	14,3%	28.0%	26,6%	16.3%	4.6%	100,0%	3,056	度数	70
日本・修士	3	9	21	60	78	37	11	215	1.1	度数	11
欧州・学士	1.4%	2.3%	9.6%	27.9%	36.3%	17.2%	5.1%	100,0%	0.5%	度数	236
欧州・学士	44	139	480	1,673	3,531	4,829	2,435	13,122	1.1%	度数	511
欧州・修士	0.3%	1.1%	3.7%	12.7%	26.9%	37.7%	18.5%	100,0%	0.9%	度数	13,055
合計	203	538	1,606	4,811	9,847	12,859	6,985	36,659	100,0%	度数	1,924
合計	0.6%	1.5%	4.4%	13.1%	26.3%	35.1%	19.1%	100,0%	1.9%	度数	12,1%
	度数	0.6%	1.5%	4.4%	13.1%	26.3%	35.1%	19.1%	100,0%	度数	28,3%
	度数	0.6%	1.5%	4.4%	13.1%	26.3%	35.1%	19.1%	100,0%	度数	30,3%

HIA 現在の能力：時間を作的に使つる力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		2,123
日本・学士	41	97	290	565	590	394	151	2,128	71	度数	147
日本・修士	1.9%	4.9%	13.6%	26.6%	27.7%	18.3%	7.1%	100,0%	1.1%	度数	70
日本・修士	4	3	23	59	69	49	10	217	1.1%	度数	13
欧州・学士	1.8%	1.9%	10.6%	27.2%	31.8%	22.5%	4.6%	100,0%	0.0%	度数	3
欧州・学士	35	159	1,902	3,692	4,390	2,333	13,147	100,0%	0.5%	度数	62
欧州・修士	0.3%	1.2%	4.8%	14.5%	28.1%	33,926	17.7%	100,0%	0.9%	度数	91
合計	174	559	1,979	5,287	10,181	11,772	6,754	36,706	100,0%	度数	177
合計	0.5%	1.5%	5.4%	14.4%	27.7%	32,1%	18.4%	100,0%	0.5%	度数	496
	度数	0.5%	1.5%	5.4%	14.4%	27.7%	32,1%	18.4%	100,0%	度数	12,1%
	度数	0.5%	1.5%	5.4%	14.4%	27.7%	32,1%	18.4%	100,0%	度数	28,3%

HIA 現在の能力：他の人の活動を調査する力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		2,123
日本・学士	41	107	290	565	590	394	151	2,128	71	度数	147
日本・修士	4	3	23	59	69	49	10	217	1.1%	度数	13
欧州・学士	1.8%	1.9%	10.6%	27.2%	31.8%	22.5%	4.6%	100,0%	0.0%	度数	3
欧州・修士	49	101	286	1,216	3,352	5,398	2,722	13,122	1.1%	度数	37
欧州・修士	0.4%	0.9%	2.2%	9.3%	25.5%	41.1%	20.7%	100,0%	0.3%	度数	91
合計	87	222	609	1,957	5,128	8,503	4,690	21,196	0.9%	度数	95
合計	0.4%	1.0%	2.1%	9.2%	24.2%	40.1%	22.1%	100,0%	0.5%	度数	159
	度数	0.5%	1.0%	2.1%	9.2%	24.2%	40.1%	22.1%	100,0%	度数	159
	度数	0.5%	1.0%	2.1%	9.2%	24.2%	40.1%	22.1%	100,0%	度数	159

HIA 現在の能力：他の人の意見を明確に伝える力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		2,123
日本・学士	32	73	215	556	659	416	120	2,119	42	度数	147
日本・修士	1.5%	3.4%	10.1%	27.7%	31.6%	19.6%	6.6%	100,0%	1.2%	度数	70
日本・修士	1	8	11	69	82	36	9	215	2	度数	2
欧州・学士	0.5%	3.7%	5.0%	31.7%	37.6%	17.4%	4.1%	100,0%	0.9%	度数	13,055
欧州・修士	49	101	286	1,216	3,352	5,398	2,722	13,122	1.1%	度数	91
欧州・修士	0.4%	0.9%	2.2%	9.3%	25.5%	41.1%	20.7%	100,0%	0.3%	度数	95
合計	169	404	1,121	3,826	9,231	14,455	7,549	36,655	100,0%	度数	153
合計	0.5%	1.1%	3.1%	10.4%	25.2%	39.2%	20.5%	100,0%	0.4%	度数	153
	度数	0.5%	1.1%	3.1%	10.4%	25.2%	39.2%	20.5%	100,0%	度数	153
	度数	0.5%	1.1%	3.1%	10.4%	25.2%	39.2%	20.5%	100,0%	度数	153

HIA 現在の能力：他の人の意見や能力を尊重する力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
	度数	-	-	-	-	-	-	-	-		2,123
日本・学士	46	156	443	722	488	205	56	2,116	42	度数	147
日本・修士	2.2%	7.4%	20.9%	34.1%	23.1%	9.7%	2.6%	100,0%	1.4%	度数	70
日本・修士	4	7	41	65	67	3	215	1,14	6	度数	11
欧州・学士	1.9%	3.3%	19.1%	30.2%	31.2%	13.0%	1.0%	100,0%	0.9%	度数	13,055
欧州・修士	112	368	1,085	2,924	4,169	3,284	1,152	13,104	1.1%	度数	91
欧州・修士	0.9%	2.8%	8.3%	22.4%	31.8%	9.2%	0.7%	100,0%	0.9%	度数	95
合計	454	1,285	3,388	8,306	11,223	8,365	3,180	36,594	100,0%	度数	1,231
合計	1.2%	3.5%	9.3%	22.7%	30.7%	23.9%	8.7%	100,0%	1.3%	度数	153
	度数	1.2%	3.5%	9.3%	22.7%	30.7%	23.9%	8.7%	100,0%	度数	153
	度数	1.2%	3.5%	9.3%	22.7%	30.7%	23.9%	8.7%	100,0%	度数	153

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	

<tbl_r cells

HIA 現在の能力：製品、アイディア、レポート等のプレゼンテーション能力

		十分に身に付いている				十分に身に付いていない				合計	
日本：学士	度数	115	26%	471	-	-	-	-	-	2,117	72
日本：学士	度数	5.1%	12.2%	22.2%	28.5%	19.6%	8.1%	114	178	3.4%	100.0%
日本：修士	度数	2	12	32	48	65	47	10	216	4.6%	100.0%
日本：修士	度数	0.9%	5.6%	14.8%	22.2%	30.5%	21.8%	4.6%	6.6%	2.85%	100.0%
欧洲：学士	度数	344	832	1,503	2,701	3,378	3,077	1,272	13,107	10.0%	100.0%
欧洲：学士	度数	2.6%	6.5%	11.5%	20.6%	25.8%	23.5%	9.7%	11.3%	2.85%	100.0%
欧洲：修士	度数	414	990	1,767	3,589	5,612	5,752	3,137	21,181	10.0%	100.0%
欧洲：修士	度数	2.0%	4.7%	8.4%	16.9%	26.0%	27.2%	14.8%	14.8%	2.85%	100.0%
合計	度数	875	2,098	3,763	6,941	9,369	9,054	4,491	36,621	10.4%	100.0%

HIB 現在の能力：記録、資料、報告書等を作成する力

		十分に身に付いている				十分に身に付けていない				合計	
日本：学士	度数	52	193	294	572	629	374	110	2,124	2.1%	100.0%
日本：修士	度数	2.4%	4.4%	13.8%	26.9%	29.6%	17.9%	5.2%	5.2%	11.5%	100.0%
日本：修士	度数	0.0%	2.1%	5.7%	16	41	53	16	212	0.0%	100.0%
欧洲：学士	度数	123	308	805	1,976	3,498	4,323	2,088	13,121	10.0%	100.0%
欧洲：学士	度数	0.9%	2.3%	6.1%	15.1%	26.7%	30.9%	15.9%	15.9%	12.0%	100.0%
欧洲：修士	度数	149	404	890	2,419	4,869	7,522	4,992	21,192	11.4%	100.0%
欧洲：修士	度数	0.7%	1.5%	4.1%	11.4%	23.0%	35.5%	23.4%	23.4%	12.0%	100.0%
合計	度数	324	810	1,975	5,008	9,079	12,277	7,176	36,649	2.2%	100.0%

HIB 現在の能力：外国情でいたり話したりする力

		十分に身に付いている				十分に身に付けていない				合計	
日本：学士	度数	593	465	453	21.4%	298	179	82	31	2,121	10.0%
日本：修士	度数	28.0%	22.8%	22.8%	4.4%	14.0%	8.4%	3.9%	1.5%	21.5%	100.0%
日本：修士	度数	19	49	49	50	28	14	6	6	7	100.0%
欧洲：学士	度数	8,896	22,96	22,8%	23.3%	13,0%	6,9%	2.8%	1.5%	7	47
欧洲：学士	度数	1,601	1,613	1,805	2,283	2,300	2,156	1,382	1,140	2,320	10.0%
欧洲：修士	度数	12,296	12,356	13,717	17.4%	17.5%	16.4%	10.5%	10.5%	17	220
欧洲：修士	度数	1,102	1,770	2,229	3,622	4,124	4,571	3,802	3,056	5,154	10.0%
合計	度数	3,315	3,617	4,536	6,233	6,631	6,223	5,221	3,686	2,099	100.0%

HIB 現在の能力：大学で学んだ学問分野や専門領域に精通していること

		十分に身に付いている				十分に身に付けていない				合計	
日本：学士	度数	247	299	275	14.5%	346	308	212	216	1,903	10.0%
日本：修士	度数	13.0%	15.7%	16.2%	18.2%	11.3%	11.3%	11.3%	11.3%	13.0%	100.0%
日本：修士	度数	20	34	30	49	24	28	23	213	7	211
欧洲：学士	度数	9.4%	16.1%	13.1%	14.1%	23.0%	11.3%	13.1%	13.1%	11.0%	100.0%
欧洲：修士	度数	210	282	551	1,745	2,849	3,741	2,359	11,837	17	220
欧洲：修士	度数	1.8%	2.9%	4.7%	14.7%	24.9%	31.9%	19.9%	19.9%	1.0%	100.0%
合計	度数	810	1,063	1,682	4,427	7,405	9,788	7,890	33,065	3.2%	100.0%

HIB 現在の能力：他の学問分野や専門領域に精通していること

		まったく必要ない				とても必要な				合計	
日本：学士	度数	77	146	155	402	398	366	307	445	5	459
日本：修士	度数	4.1%	7.7%	10.3%	21.3%	21.0%	19.4%	16.2%	17.3%	2.7%	1,892
日本：修士	度数	6	22	16	43	46	55	24	14	7	211
欧洲：学士	度数	536	1,139	1,862	3,378	2,686	1,807	546	11,774	2.1%	100.0%
欧洲：修士	度数	4.6%	9.7%	16.2%	28.7%	22.8%	13.8%	10.3%	10.3%	7	212
欧洲：修士	度数	813	1,622	2,711	4,828	4,516	3,077	1,285	19,052	1.3%	100.0%
合計	度数	1,452	3,129	4,804	8,651	7,646	5,105	2,162	32,939	1.0%	100.0%

HIB 現在の能力：プレッシャーの中できつと働く力

		まったく必要な				とても必要な				合計	
日本：学士	度数	57	3.0%	4.6%	9.3%	17.3%	23.5%	25.5%	25.5%	1.1%	1,892
日本：修士	度数	7	0.5%	2.3%	5.2%	11.4%	28.6%	32.7%	32.7%	4.7%	213
欧洲：学士	度数	557	4.3%	4.7%	9.0%	18.9%	24.5%	27.3%	27.3%	3.4%	11,769
欧洲：修士	度数	1,010	4.0%	4.5%	9.0%	17.0%	27.3%	32.7%	32.7%	5.1%	19,012
合計	度数	1,631	2.1%	2.7%	4.6%	14.9%	28.7%	34.7%	34.7%	8.017	32,937

HIB 現在の能力：新たな環境に柔軟に対応する力

		まったく必要な				とても必要な				合計	
日本：学士	度数	43	3.3%	6.9%	16.6%	19.9%	24.5%	26.5%	26.5%	1.1%	1,884
日本：修士	度数	1	0.5%	3.3%	7.1%	16.1%	28.9%	30.9%	30.9%	4.5%	211
欧洲：学士	度数	170	2.3%	5.1%	14.7%	27.7%	32.7%	34.8%	34.8%	3.45%	11,733
欧洲：修士	度数	262	1.0%	2.4%	4.4%	12.5%	20.2%	29.7%	29.7%	3.917	19,004
合計	度数	531	849	2,204	5,151	8,787	14.9%	17.9%	17.9%	6.359	19,072

H1B職場で必要な能力：リーダーとして他事を考え、行動する力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計			
日本：学士	度数	27	49	122	301	394	463	540	1,898	5.5%	20.4%	24.69%	28.5%	30.1%	30.4%	31.8%	41.1%	49	4.7%	10.0%	28.7%	535	422	303	233	1,865			
日本：修士	度数	1,496	2,356	6,55%	16,0%	20,4%	24,69%	28,5%	100.0%																	100.0%			
日本：修士	度数	5	2	9	24	41	72	58	211	14.9%	11.4%	19.4%	34.1%	27.5%	100.0%													211	
欧洲：学士	度数	195	385	634	1,766	2,601	3,402	2,750	11,753	5.4%	15.2%	22.1%	28.9%	23.1%	100.0%													100.0%	
欧洲：修士	度数	312	637	1,042	2,587	3,938	5,598	4,902	19,016	1.7%	3.9%	5.5%	13.6%	20.7%	25.0%	100.0%													100.0%
合計	度数	539	1,072	1,807	4,688	6,984	9,338	8,250	32,866	1.6%	3.3%	5.5%	13.6%	21.2%	29.0%	100.0%													100.0%

H1B職場で必要な能力：コンピューターやインターネットを活用する力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計		
日本：学士	度数	23	31	82	271	352	474	658	1,891	1.2%	4.3%	14.3%	18.6%	25.1%	34.9%	100.0%												1,883	
日本：修士	度数	2	6	7	28	49	64	58	212	0.9%	2.8%	3.3%	12.3%	23.1%	30.2%	27.4%	100.0%												210
欧洲：学士	度数	113	207	426	1,488	2,498	3,712	3,308	11,762	1.0%	3.6%	12.7%	21.2%	28.1%	31.6%	28.5%	100.0%												11,768
欧洲：修士	度数	221	369	773	2,268	3,904	5,703	5,794	19,037	1.2%	3.9%	4.1%	11.9%	20.5%	30.0%	30.1%	100.0%												19,048
合計	度数	359	613	1,288	4,063	6,803	9,958	9,818	32,902	1.1%	3.9%	12.3%	13.9%	20.7%	30.3%	29.9%	100.0%												32,909

H1B職場で必要な能力：時間に効率よく働く力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計		
日本：学士	度数	46	91	304	479	479	653	1,883	5.5%	16.1%	20.1%	25.4%	29.1%	30.0%	100.0%												1,882		
日本：修士	度数	2	7	36	48	62	50	212	0.9%	3.3%	3.3%	17.0%	22.6%	23.9%	100.0%												211		
欧洲：学士	度数	180	304	524	1,515	2,467	3,616	3,446	11,752	1.5%	4.5%	12.9%	21.0%	30.8%	26.9%	100.0%												11,741	
欧洲：修士	度数	357	691	1,019	2,443	3,879	5,459	5,188	19,036	1.9%	3.6%	5.4%	12.8%	20.4%	28.7%	27.9%	100.0%												19,037
合計	度数	570	1,048	1,641	4,288	6,773	9,616	8,637	32,883	1.7%	3.2%	5.0%	13.1%	20.6%	29.2%	27.2%	100.0%												32,841

H1B職場で必要な能力：物の仕事に対する集中力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計		
日本：学士	度数	31	46	91	304	479	653	1,883	5.5%	16.1%	20.1%	25.4%	29.1%	30.0%	100.0%												1,882		
日本：修士	度数	2	7	36	48	62	50	212	0.9%	3.3%	3.3%	17.0%	22.6%	23.9%	100.0%												211		
欧洲：学士	度数	180	304	524	1,515	2,467	3,616	3,446	11,752	1.5%	4.5%	12.9%	21.0%	30.8%	26.9%	100.0%												11,741	
欧洲：修士	度数	357	691	1,019	2,443	3,879	5,459	5,188	19,036	1.9%	3.6%	5.4%	12.8%	20.4%	28.7%	27.9%	100.0%												19,037
合計	度数	570	1,048	1,641	4,288	6,773	9,616	8,637	32,883	1.7%	3.2%	5.0%	13.1%	20.6%	29.2%	27.2%	100.0%												32,841

H1B職場で必要な能力：他の人との相談や協議で問題を解決する力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計		
日本：学士	度数	38	63	168	473	385	413	390	1,800	2.0%	3.4%	8.9%	22.5%	22.0%	20.7%	100.0%												1,802	
日本：修士	度数	4	9	14	37	48	64	34	210	0.9%	6.7%	17.6%	22.9%	30.5%	16.2%	100.0%												210	
欧洲：学士	度数	439	875	1,055	2,473	2,523	2,712	1,856	11,733	3.7%	5.8%	9.0%	21.1%	21.5%	23.1%	15.9%	100.0%												11,734
欧洲：修士	度数	697	1,333	1,802	3,910	4,128	3,232	1,683	11,732	4.7%	18.4%	20.4%	21.1%	21.5%	23.1%	10.0%	100.0%												11,734
合計	度数	1,378	3,080	3,038	6,614	6,866	7,317	5,512	32,806	4.2%	6.3%	9.3%	20.2%	20.9%	22.3%	16.9%	100.0%												32,805

H1B職場で必要な能力：他の人の意見を尊重する力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計		
日本：学士	度数	13	23	102	242	358	464	692	1,884	0.7%	1.2%	5.0%	12.8%	19.0%	24.6%	100.0%												1,884	
日本：修士	度数	0	4	4	25	44	64	69	210	0.0%	1.9%	11.9%	21.0%	30.5%	32.9%	100.0%												210	
欧洲：学士	度数	145	217	514	1,851	2,747	3,474	2,804	11,732	1.2%	4.4%	15.8%	23.4%	20.6%	23.9%	10.0%	100.0%												11,733
欧洲：修士	度数	308	524	958	2,857	4,250	5,505	4,613	19,015	1.6%	4.0%	15.0%	22.4%	29.0%	10.0%	100.0%													19,007
合計	度数	496	768	1,578	4,795	6,156	7,398	5,688	32,861	4.2%	6.3%	9.3%	15.1%	22.5%	28.9%	10.0%	100.0%												32,862

H1B職場で必要な能力：製品、アイテム、レポート等のプレゼンテーション能力

		まったく必要な い	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	-	-	-	とても必要 い	-	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	-	とても必要 い	-	合計
日本：学士	度数	105	52	120	49	131	139	177	422	5.6%	2.6%	6.4%	16.1%	20.7%	21.3%	10.0%											422
日本：修士	度数	4	12	18	39	35	45	45	45	3.0%	2.9%	3.0%	7.1%	15													

H1B 雇用で必要な能力：記録、資料、報告書等を作成する力

		まったく必要ない						とても必要							
日本：学士	度数	39	-	46	-	119	-	284	-	407	-	479	-	513	1,887
日本：学士	度数	2.1%	2.4%	6.3%	15.1%	21.6%	25.4%	27.2%	30%	25.4%	27.2%	27.2%	27.2%	100.0%	
日本：修士	度数	2	3	8	28	47	72	49	72	34.4%	23.4%	23.4%	23.4%	100.0%	209
欧州：学士	度数	1.0%	1.4%	3.8%	13.4%	22.5%	34.4%	23.4%	34.4%	23.4%	23.4%	23.4%	23.4%	100.0%	
欧州：修士	度数	493	732	919	2,031	2,477	2,891	2,207	2,477	2,891	2,207	2,207	2,207	11,750	
欧州：修士	度数	4.2%	6.2%	7.8%	17.3%	21.1%	24.6%	18.8%	21.1%	24.6%	18.8%	18.8%	18.8%	100.0%	
合計	度数	553	815	1,116	2,479	3,789	5,156	5,117	3,789	5,156	5,117	5,117	5,117	19,025	
合計	度数	1,087	1,596	2,162	4,822	6,720	8,598	7,886	6,720	8,598	7,886	7,886	7,886	32,871	
		3.3%	4.9%	6.6%	14.7%	20.4%	26.2%	24.0%	20.4%	26.2%	24.0%	24.0%	24.0%	100.0%	

H1B 雇用で必要な能力：外国語で書いたり話したりする力

		まったく必要ない						とても必要							
日本：学士	度数	514	-	370	-	294	-	265	-	181	-	116	-	145	1,885
日本：学士	度数	27.3%	19.6%	15.6%	14.1%	9.6%	6.2%	6.2%	7.7%	6.2%	7.7%	7.7%	7.7%	100.0%	
日本：修士	度数	35	34	22	42	28	17	31	209	31	209	209	209	100.0%	
欧州：学士	度数	16.3%	16.3%	10.5%	20.1%	13.4%	8.1%	14.8%	100.0%	14.8%	14.8%	14.8%	14.8%	100.0%	
欧州：修士	度数	3,063	1,708	1,298	1,669	1,362	1,230	1,283	11,603	1,230	1,230	1,230	1,230	11,603	
欧州：修士	度数	26.4%	14.7%	11.1%	14.4%	11.7%	10.6%	11.1%	100.0%	11.1%	11.1%	11.1%	11.1%	100.0%	
合計	度数	6,546	4,312	3,337	4,489	4,125	4,345	5,279	32,433	4,125	4,345	5,279	5,279	32,433	
合計	度数	20.2%	13.3%	10.3%	13.8%	12.7%	13.4%	16.3%	100.0%	13.4%	16.3%	16.3%	16.3%	100.0%	

H1C 大卒（院修了）時的能力：大学で学んだ学問分野や専門領域に精通していること

		まったく身に付いていない						とても身に付いている							
日本：学士	度数	0	126	337	481	589	389	176	42	2,140	2,140	2,140	2,140	100.0%	
日本：修士	度数	0.0%	5.9%	15.7%	22.5%	27.5%	18.2%	8.2%	2.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
欧州：学士	度数	0	1	33	42	65	50	20	7	218	218	218	218	100.0%	
欧州：修士	度数	12,452	0	0	0	0	0	0	0	12,452	12,452	12,452	12,452	100.0%	
欧州：修士	度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
合計	度数	19,278	0	0	0	0	0	0	0	19,278	19,278	19,278	19,278	100.0%	
合計	度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
合計	度数	31,730	127	370	523	654	439	196	49	34,088	34,088	34,088	34,088	100.0%	
合計	度数	93.1%	0.4%	1.1%	1.5%	1.9%	1.3%	0.6%	0.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

H1C 大卒（院修了）時的能力：その他の学問分野や専門領域に関する知識

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	283 13.3%	550 25.8%	546 25.7%	525 24.7%	153 7.2%	57 2.7%	14 0.7%	2,128 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	31 14.2%	53 24.3%	50 22.9%	53 24.3%	23 10.6%	8 3.7%	0 0.0%	218 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.1%	314 0.9%	603 1.8%	596 1.7%	578 1.7%	176 0.5%	65 0.2%	14 0.0%	34,076 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：分析的に考察する力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	118 5.5%	375 17.6%	634 29.8%	609 28.6%	251 11.8%	104 4.9%	37 1.7%	2,128 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	6 2.8%	36 16.6%	47 21.7%	67 30.9%	41 18.9%	17 7.8%	3 1.4%	217 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.1%	124 0.4%	411 1.2%	681 2.0%	676 2.0%	292 0.9%	121 0.4%	40 0.1%	34,075 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：新たな知識を素早く身につける力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	83 3.9%	240 11.3%	498 23.4%	704 33.1%	383 18.0%	158 7.4%	60 2.6%	2,126 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	4 1.8%	24 11.0%	46 21.1%	71 32.6%	46 21.1%	23 10.6%	4 1.8%	218 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.1%	87 0.3%	264 0.8%	544 1.6%	775 2.3%	429 1.3%	181 0.5%	64 0.2%	34,074 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：効果的に交渉する力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	299	553	662	411	142	35	2,123
日本：学士 度数	0.0%	14.1%	26.0%	31.2%	19.4%	6.7%	1.6%	100.0%
日本：修士 度数	0	30	58	54	45	23	5	216
日本：修士 度数	0.0%	13.9%	26.9%	25.0%	20.8%	10.6%	2.3%	100.0%
欧州：学士 度数	12,452	0	0	0	0	0	0	12,452
欧州：学士 度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
欧州：修士 度数	19,278	0	0	0	0	0	0	19,278
欧州：修士 度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計 度数	31,730	329	611	716	456	165	40	34,069
合計 度数	93.1%	1.0%	1.8%	2.1%	1.3%	0.5%	0.1%	100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：プレゼンターの中で力を発揮すること

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	238	469	615	516	181	68	2,118
日本：学士 度数	0.0%	11.2%	22.1%	29.9%	24.4%	8.5%	3.2%	100.0%
日本：修士 度数	0	14	50	54	53	28	15	216
日本：修士 度数	0.0%	6.5%	23.1%	25.0%	24.5%	13.0%	6.9%	100.0%
欧州：学士 度数	12,452	0	0	0	0	0	0	12,452
欧州：学士 度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
欧州：修士 度数	19,278	0	0	0	0	0	0	19,278
欧州：修士 度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計 度数	31,730	252	519	669	569	209	83	34,064
合計 度数	93.1%	0.7%	1.5%	2.0%	1.7%	0.6%	0.2%	100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：新たなチャレンジに挑戦に応じる力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	200	400	601	595	196	84	2,116
日本：学士 度数	0.0%	9.5%	18.9%	28.4%	28.1%	9.3%	4.0%	100.0%
日本：修士 度数	0	13	38	73	58	23	9	217
日本：修士 度数	0.0%	6.0%	17.5%	33.6%	26.7%	10.6%	4.1%	100.0%
欧州：学士 度数	12,452	0	0	0	0	0	0	12,452
欧州：学士 度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
欧州：修士 度数	19,278	0	0	0	0	0	0	19,278
欧州：修士 度数	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
合計 度数	31,730	213	438	674	653	219	93	34,063
合計 度数	93.2%	0.6%	1.3%	2.0%	1.9%	0.6%	0.3%	100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：複数の活動を調整する能力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	212	390	608	598	215	73	24	2,120 100.0%
日本：修士 度数	0	24	42	60	53	28	7	2	216 100.0%
欧州：学士 度数	0	11.1%	19.4%	27.8%	24.5%	13.0%	3.2%	0.9%	100.0%
欧州：修士 度数	12,452	0	0	0	0	0	0	0	12,452 100.0%
合計 度数	31,730	236	432	668	651	243	80	26	34,066 100.0%
	93.1%	0.7%	1.3%	2.0%	1.9%	0.7%	0.2%	0.1%	100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：時間を有効に使う力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	201	342	565	588	261	116	53	2,126 100.0%
日本：修士 度数	0	9.5%	16.1%	26.8%	27.7%	12.3%	5.5%	2.5%	2,126 100.0%
欧州：学士 度数	0	19	39	53	56	30	17	3	217 100.0%
欧州：修士 度数	12,452	0	0	0	0	0	0	0	12,452 100.0%
合計 度数	31,730	220	381	618	644	291	133	56	34,073 100.0%
	93.1%	0.6%	1.1%	1.8%	1.9%	0.9%	0.4%	0.2%	100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：他の人と生産的に仕事をする力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	107	281	547	691	308	138	47	2,119 100.0%
日本：修士 度数	0	12	42	54	66	35	6.5%	2.2%	2,119 100.0%
欧州：学士 度数	12,452	0	0	0	0	0	0	0	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278	0	0	0	0	0	0	0	19,278 100.0%
合計 度数	31,730	119	323	601	757	343	146	48	34,067 100.0%
	93.1%	0.3%	0.9%	1.8%	2.2%	1.0%	0.4%	0.1%	100.0%

H1C 大卒（院修了）時的能力：他の人の知識や能力を総集する力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	184 8.7%	432 20.4%	630 29.8%	605 28.6%	183 8.7%	64 3.0%	17 0.8%	2,115 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	19 8.9%	47 22.0%	66 30.0%	57 26.6%	21 9.8%	3 1.4%	1 0.5%	214 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.2%	203 0.6%	479 1.4%	696 2.0%	652 1.9%	204 0.6%	67 0.2%	18 0.1%	34,059 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：他の人に自身の意図を明確に伝える力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	160 7.5%	400 18.9%	626 29.5%	608 28.7%	223 10.5%	71 3.3%	34 1.6%	2,122 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	17 7.9%	36 16.7%	60 27.8%	60 27.8%	34 15.7%	8 3.7%	1 0.5%	216 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.1%	177 0.5%	436 1.3%	686 2.0%	668 2.0%	257 0.8%	79 0.2%	35 0.1%	34,058 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：リーダーとして物事を考え、行動する力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0.0%	251 12.0%	416 19.8%	616 29.4%	612 29.2%	126 6.0%	49 2.3%	26 1.2%	2,056 100.0%
日本：修士 度数	0 0.0%	26 12.1%	44 20.5%	59 27.4%	67 31.2%	15 7.0%	4 1.9%	0 0.0%	215 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.2%	277 0.8%	460 1.4%	675 2.0%	679 2.0%	141 0.4%	53 0.2%	26 0.1%	34,041 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：コンピュータやインターネットを活用する力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0%	143 6.7%	363 17.1%	512 24.2%	554 26.1%	335 15.8%	129 6.1%	83 3.9%	2,119 100.0%
日本：修士 度数	0 0%	5 2.3%	20 9.3%	41 19.0%	52 24.1%	57 26.4%	29 13.4%	12 5.6%	216 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.1%	148 0.4%	383 1.1%	553 1.6%	606 1.8%	392 1.2%	158 0.5%	95 0.3%	34,065 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：新たなアイディアや解決策を見つけ出す力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0%	138 6.5%	379 17.9%	661 31.2%	635 30.0%	193 9.1%	76 3.6%	34 1.6%	2,116 100.0%
日本：修士 度数	0 0%	10 4.6%	28 13.0%	51 23.0%	67 31.0%	41 19.0%	16 7.4%	3 1.4%	216 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.2%	148 0.4%	407 1.2%	712 2.1%	702 2.1%	234 0.7%	92 0.3%	37 0.1%	34,062 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：自身や他の人の考え方を常に聞いて直す姿勢

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0 0%	140 6.6%	354 16.7%	646 30.5%	648 30.6%	205 9.7%	74 3.5%	54 2.5%	2,121 100.0%
日本：修士 度数	0 0%	9 4.2%	35 16.2%	47 21.8%	81 37.5%	30 13.9%	11 5.1%	3 1.4%	216 100.0%
欧州：学士 度数	12,452 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	12,452 100.0%
欧州：修士 度数	19,278 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	19,278 100.0%
合計 度数	31,730 93.1%	149 0.4%	389 1.1%	693 2.0%	729 2.1%	235 0.7%	85 0.2%	57 0.2%	34,067 100.0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：製品、アイディア、レポート等のプレゼンテーション能力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	256	481	585	505	192	60	35	2,114
日本：修士 度数	0	12,1%	22,8%	27,7%	23,9%	9,1%	2,8%	1,7%	100,0%
欧州：学士 度数	0	11	35	48	57	44	12	8	215
欧州：修士 度数	0	5,1%	16,3%	22,3%	26,5%	20,5%	5,6%	3,7%	100,0%
合計 度数	0	0	0	0	0	0	0	0	12,452
欧州：学士 度数	12,452	0	0	0	0,0%	0,0%	0,0%	0,0%	100,0%
欧州：修士 度数	19,278	0	0	0	0,0%	0,0%	0,0%	0,0%	19,278
合計 度数	31,730	267	516	633	562	236	72	43	34,059
	93,2%	0,8%	1,5%	1,9%	1,7%	0,7%	0,2%	0,1%	100,0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：記録、資料、報告書等を作成する力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	182	353	581	607	260	103	38	2,124
日本：修士 度数	0	8,6%	16,6%	27,4%	28,6%	12,2%	4,8%	1,8%	100,0%
欧州：学士 度数	0	11	27	49	58	44	17	8	214
欧州：修士 度数	0	5,1%	12,6%	22,9%	27,1%	20,6%	7,9%	3,7%	100,0%
合計 度数	0	0	0	0	0	0	0	0	12,452
欧州：学士 度数	12,452	0	0,0%	0,0%	0,0%	0,0%	0,0%	0,0%	100,0%
欧州：修士 度数	19,278	0	0	0	0	0	0	0	19,278
合計 度数	31,730	193	380	630	665	304	120	46	34,068
	93,1%	0,6%	1,1%	1,8%	2,0%	0,9%	0,4%	0,1%	100,0%

H1C 大卒（院修了）時の能力：外国語で書いたり話したりする力

	未該当	まったく身に付いていない	-	-	-	-	-	十分に身に付いている	合計
日本：学士 度数	0	577	486	422	342	196	75	24	2,122
日本：修士 度数	0	27,2%	22,9%	19,9%	16,1%	9,2%	3,5%	1,1%	100,0%
欧州：学士 度数	0	32	51	52	52	20	6	4	217
欧州：修士 度数	12,452	23,5%	24,0%	24,0%	9,2%	2,8%	1,8%	1,0%	12,452
合計 度数	31,730	609	537	474	394	216	81	28	34,069
	93,1%	1,8%	1,6%	1,4%	1,2%	0,6%	0,2%	0,1%	100,0%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が優れていた項目：1番目

		大学で学んだ その他の学問 分野や専門領 域に精通してい ること	分析する知 識	新たな知識を 早く身につ ける力	効果的に交渉 する力	プレッシャー の中で活躍す る力	新たなチャン スに機敏に対 応する力	複数の活動を 調整する能力	時間を持つ有効 的に使う力	他の人と生産 的に協働する 力	他の人の知識 や能力を総集 する力	他の人の意図を明確 に伝える力	自分の権限を 適切に行使其 る力	コンピュータ やインターネット ネットを活用 する力
日本：学士	度数	697	100	174	67	24	18	19	45	74	26	34	9	173
日本：修士	度数	36,876	5,3%	9,1%	3,5%	0,3%	1,3%	0,9%	1,0%	2,4%	3,9%	1,4%	0,5%	9,1%
欧州：学士	度数	3,883	576	1,854	2,4%	0,0%	4	1	5	1	0	0	0,0%	18
欧州：修士	度数	31,3%	4,6%	14,9%	1,012	219	689	135	437	331	859	103	211	73
合計	度数	11,935	1,510	6,294	3,009	457	760	141	331	399	690	86	234	698
		34,4%	4,4%	18,1%	8,7%	1,3%	4,3%	0,9%	2,3%	2,2%	1,624	215	479	144
											0,6%	1,4%	0,4%	4,2%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が優れていた項目：1番目

		大学で学んだ その他の学問 分野や専門領 域に精通してい ること	自分や他的人 の考え方を常に 見つけ出す力	新たなアイ デアや解決 策を見つける 力	製品、アイ デア等のア セット等のア セスメント能 力を評価する 力	記録、資料、 報告書等を作 成する力	外國語で書い たり話したり する力	合計
日本：学士	度数	30	54	103	134	117	1,904	1,904
日本：修士	度数	1,6%	2,8%	5,4%	7,0%	6,1%	100,0%	206
欧州：学士	度数	221	131	340	394	371	12,423	
欧州：修士	度数	1,8%	1,1%	2,7%	3,2%	3,0%	100,0%	20,147
合計	度数	514	390	847	1,284	1,170	34,680	100,0%
		1,5%	1,1%	2,4%	3,7%	3,4%		

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が優れていた項目：2番目

		大学で学んだ その他の学問 分野や専門領 域に精通してい ること	新たな知識を 早く身につ ける力	分析的に考 察する力	新たな知識を 早く身につ ける力	効果的に交渉 する力	プレッシャー の中で活躍す る力	新たなチャン スに機敏に対 応する力	複数の活動を 調整する能力	時間を持つ有効 的に使う力	他の人と生産 的に協働する 力	他の人の知識 や能力を総集 する力	他の人の意図を明確 に伝える力	自分の権限を 適切に行使其 る力	コンピュータ やインターネット ネットを活用 する力
日本：学士	度数	145	209	233	94	16	46	19	38	76	123	52	100	14	153
日本：修士	度数	16	25	29	6	0	7	1	4	4	6,8%	2,9%	5,5%	0,8%	8,5%
欧州：学士	度数	494	515	1,209	1,251	260	1,114	291	696	734	1,455	283	554	157	885
欧州：修士	度数	4,0%	4,2%	9,9%	10,2%	2,1%	9,1%	2,4%	5,7%	6,0%	11,9%	2,3%	4,5%	1,3%	7,2%
合計	度数	1,507	1,875	4,627	4,611	592	2,850	653	1,488	2,763	542	1,358	338	1,130	2,194
		4,5%	5,5%	13,7%	13,6%	1,8%	8,4%	1,9%	5,4%	8,2%	1,6%	4,0%	1,0%	6,5%	

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が優れていた項目：2番目

		新たなアイディアや解決策を見つけ出す力			自分や他の人の考え方を常に直す姿勢			製品、アイポート等のプレゼンテーション能力			記録、資料、報告書等を作成する力			外国語で書いたり話したりする力			合計		
日本：学士	度数	61	3.4%	61	128	11.3%	1.8%	204	33	1,805									
日本：修士	度数	15	4	28	16	6	200												
欧州：学士	度数	547	2.0%	360	8.0%	3.0%	100.0%	183	12,208										
欧州：修士	度数	722	3.7%	639	763	1.274	307	19,591											
合計	度数	1,345	4.0%	1,064	3.9%	6.5%	1.6%	2,173	529	33,804									

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が優れていた項目：3番目

		大学で学んだ分野や専門領域に精通すること			その他の学問分野や専門領域に精通すること			分析的に考察する力			新たな知識を素早く身につける力			効果的に交渉する力			フレッシュヤングの中で活躍する力			新たな機会に対応する力			複数の活動を調整する能力			時間を持つ方に有効に使う力			他の人と協働する力			他の人の知識や能力を継続的に伝える力			他の人の意図を明確に伝える力			自分の意図を明確に伝える力			自分の権限を適切に行使する力			コンピュータやインターネットを活用する力		
日本：学士	度数	107	71	182	94	5.6%	1.3%	22	38	24	1.4%	2.2%	2.8%	1.4%	2.8%	47	89	56	5.3%	5.7%	5.3%	5.7%	5.3%	5.7%	56	98	15	98	15	187	15	11.1%	0	0	0											
日本：修士	度数	13	5	27	10	2	1.0%	0.5%	6	1	4	1.6%	2.1%	2.6%	1.6%	2.1%	3	4	2	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	1.0%	2	11	0	5.7%	0.0%	0	18	0	9.4%	0	0	0									
欧州：学士	度数	434	2.6%	543	778	153	6.6%	5.4%	634	220	470	1.9%	4.0%	5.9%	1.9%	4.0%	470	687	1,163	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	2.4%	281	529	238	238	238	982	238	8.4%	0	0	0										
欧州：修士	度数	767	4.2%	1,092	1,950	210	1.1%	1.287	281	626	1.120	1.149	1.149	1.1%	1.149	281	626	1,120	1.149	1.149	1.149	1.149	1.149	212	729	200	200	200	1,366	200	7.4%	0	0	0												
合計	度数	1,321	736	1,844	2,832	387	1.965	1.5%	526	1,147	1,899	1.6%	3.6%	5.9%	1.6%	3.6%	551	2,413	551	1.367	1.367	1.367	1.367	1.367	1.367	551	453	2,553	2,553	2,553	2,553	2,553	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%	8.0%									

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が優れていた項目：3番目

		新たなアイディアや解決策を見つけ出す力			自分や他の人の考え方を常に直す姿勢			製品、アイポート等のプレゼンテーション能力			記録、資料、報告書等を作成する力			外国語で書いたり話したりする力			合計				
日本：学士	度数	66	80	117	240	14.2%	3.6%	61	1,690												
日本：修士	度数	13	7	26	31	4.2%	4.2%	8	192												
欧州：学士	度数	857	658	867	1,486	12.7%	4.3%	505	11,737												
欧州：修士	度数	1,109	1,048	1,089	2,760	1.040	18,445	1,040	18,445												
合計	度数	2,045	1,793	2,099	4,519	14.1%	5.0%	1,614	32,064												

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が劣っていた項目：1番目

		他の学問分野や専門領域に精通していること	その他の学問分野や専門領域に精通していること	新たな知識を効果的に交換する力	分析的に考察する力	新たな知識を早く身につける力	プレッシャーの中で活躍する力	新たなチャンスに機敏に対応する力	複数の活動を調整する能力	時間的有效利用	他の人と協働する能力	他の人の知識や能を結集する力	他の人に自分自身の意図を明確に伝える力	コンピューターやインターネットを活用する力
日本：学士	度数	39	100	41	24	238	103	52	32	39	28	47	50	88
日本：修士	度数	3	13	1	3	42	5	6	9	12	17	2	15	6.5%
欧州：学士	度数	428	1,212	708	173	1,535	410	434	254	436	215	495	195	933
欧州：修士	度数	3,5%	9.9%	5.8%	1.4%	12.6%	3.4%	3.6%	2.1%	3.6%	1.8%	4.1%	1.6%	6.8%
合計	度数	643	2,039	586	171	2,886	708	535	683	788	831	366	1,434	1,287
日本：修士	度数	3.3%	10.3%	3.0%	0.9%	14.7%	3.1%	3.9%	2.7%	3.5%	4.0%	4.2%	1.9%	6.5%
合計	度数	1,113	3,364	999	3.9%	1.1%	13.8%	3.3%	3.7%	2.4%	3.1%	4.1%	6.8%	7.3%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が劣っていた項目：1番目

		他の学問分野や専門領域に精通していること	その他の学問分野や専門領域に精通していること	新たな知識を効果的に交換する力	分析的に考察する力	新たな知識を早く身につける力	プレッシャーの中で活躍する力	新たなチャンスに機敏に対応する力	複数の活動を調整する能力	時間的有效利用	他の人と協働する能力	他の人の知識や能を結集する力	他の人に自分自身の意図を明確に伝える力	コンピューターやインターネットを活用する力
日本：学士	度数	76	34	222	25	552	1,914	1,914	1,914	1,914	1,914	1,914	1,914	1,914
日本：修士	度数	6	2	6	0	52	206	206	206	206	206	206	206	206
欧州：学士	度数	255	224	832	423	2,215	12,205	12,205	12,205	12,205	12,205	12,205	12,205	12,205
欧州：修士	度数	460	249	1,191	398	3,801	19,736	19,736	19,736	19,736	19,736	19,736	19,736	19,736
合計	度数	797	509	2,251	846	6,620	34,061	34,061	34,061	34,061	34,061	34,061	34,061	34,061
日本：修士	度数	2.3%	1.5%	6.6%	2.5%	19.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が劣っていた項目：2番目

		他の学問分野や専門領域に精通していること	その他の学問分野や専門領域に精通していること	新たな知識を効果的に交換する力	分析的に考察する力	新たな知識を早く身につける力	プレッシャーの中で活躍する力	新たなチャンスに機敏に対応する力	複数の活動を調整する能力	時間的有效利用	他の人と協働する能力	他の人の知識や能を結集する力	他の人に自分自身の意図を明確に伝える力	コンピューターやインターネットを活用する力
日本：学士	度数	35	70	40	22	212	131	94	73	62	61	76	83	105
日本：修士	度数	1	6	1	3	28	8	12	12	13	18	4.2%	4.6%	6.6%
欧州：学士	度数	0.5%	3.0%	0.5%	1.5%	14.2%	4.1%	6.1%	6.1%	6.6%	9.1%	9.6%	12	20
欧州：修士	度数	1.0%	4.1%	3.1%	0.9%	698	417	538	359	522	290	897	339	566
合計	度数	123	783	315	141	1,381	596	940	709	896	1,567	636	2,326	1,639
日本：修士	度数	0.7%	4.2%	1.7%	0.8%	7.5%	3.2%	5.1%	3.8%	4.8%	5.2%	8.5%	3.4%	8.8%
合計	度数	274	1,343	717	271	2,519	1,152	1,584	1,153	1,325	2,559	1,070	4,007	2,738
日本：修士	度数	0.8%	4.2%	2.2%	0.8%	7.8%	3.6%	4.9%	3.6%	4.6%	4.1%	7.9%	3.3%	8.5%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が劣っていた項目：2番目

	新たなアイデイアや解決策を見つける力	自分や他の人の考え方を常に直す姿勢	製品、アイポート等のプレゼンテーション能力	記録、資料、報告書等を作成する力	外国语で書いたり話したりする力	合計
日本：学士 度数	89 4.9%	77 4.3%	214 11.8%	82 4.5%	160 8.9%	1,806 100.0%
日本：修士 度数	4 2.0%	3 1.5%	15 7.6%	1 0.5%	11 5.6%	197 100.0%
欧州：学士 度数	521 4.4%	460 3.9%	1,206 10.3%	783 6.7%	909 7.8%	11,729 100.0%
欧州：修士 度数	903 4.9%	546 2.9%	1,874 10.1%	870 4.7%	1,322 7.1%	18,523 100.0%
合計 度数	1,517 4.7%	1,085 3.4%	3,309 10.3%	1,736 5.4%	2,402 7.4%	32,255 100.0%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が劣っていた項目：3番目

	大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識	その他の学問分野や専門領域に関する知識	分析的に考察する力	新たな知識を早く身に付ける力	効果的に交換する力	フレッシュマーケティングの中での活躍する力	新たなチャンスに機敏に対応する力	複数の活動を調整する能力	時間管理能力	他の人と生産的に協働する力	他の人の知識や能力を活用する力	他の人に自分の知識や意図を明確に伝える力	自分の権限を適切に行使する力	コンピュータやインターネットを活用する力	
日本：学士 度数	29 1.7%	81 4.8%	43 2.5%	30 1.8%	159 9.4%	128 7.6%	54% 5.4%	92 3.7%	62 3.7%	63 5.8%	98 5.6%	94 5.6%	83 4.9%	123 7.3%	103 6.1%
日本：修士 度数	0 0.0%	5 2.6%	6 3.1%	1 0.5%	20 10.4%	9 4.7%	4.1% 4.1%	8 8.3%	16 7.3%	11 7.3%	14 7.3%	13 6.7%	7 6.7%	7 7.3%	4 2.1%
欧州：学士 度数	119 1.1%	519 4.1%	329 3.0%	119 1.1%	675 6.1%	287 2.6%	4.6% 4.6%	503 2.5%	278 3.4%	374 1.9%	209 5.6%	616 5.6%	303 2.8%	1,190 10.8%	560 5.1%
欧州：修士 度数	125 0.7%	681 4.0%	300 1.8%	122 0.7%	1,074 6.3%	391 2.3%	4.5% 4.5%	788 2.6%	440 3.2%	551 3.6%	610 6.8%	457 6.8%	457 2.7%	1,948 11.5%	884 5.2%
合計 度数	273 0.9%	1,286 4.3%	678 2.3%	272 0.9%	1,928 6.5%	815 2.7%	4.6% 4.6%	1,371 2.7%	796 3.3%	999 3.1%	931 6.3%	1,887 6.3%	850 2.8%	3,284 11.0%	1,551 5.2%

H2 H1項目のうち大学（大学院）教育課程による育成が劣っていた項目：3番目

	新たなアイデイアや解決策を見つける力	自分や他の人の考え方を常に直す姿勢	製品、アイポート等のプレゼンテーション能力	記録、資料、報告書等を作成する力	外国语で書いたり話したりする力	合計
日本：学士 度数	89 5.3%	58 3.4%	970 6.7%	113 3.5%	60 10.9%	1,693 100.0%
日本：修士 度数	8 4.1%	7 3.6%	9 4.7%	5 2.6%	5 14.0%	193 100.0%
欧州：学士 度数	484 4.4%	499 4.5%	8,886 8.8%	970 6.3%	691 20.7%	10,999 100.0%
欧州：修士 度数	890 5.2%	654 3.8%	1,719 10.1%	818 4.8%	3,399 20.0%	16,995 100.0%
合計 度数	1,471 4.9%	1,218 4.1%	2,811 9.4%	1,574 5.3%	5,895 19.7%	29,880 100.0%

I. 大学の教育課程での学習経験を振り返って

11 大学(大学院)教育の有用度: 記録や教科としてのスキルを発展させるうえで

		まったく(強く)立つていなかった			とても立つていっている				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	206	461	653	547	296	2,153			
日本: 学士 9.6%	21.4%	30.3%	25.4%	13.3%	100.0%				
日本: 修士 度数	12	40	50	74	42	218			
日本: 修士 5.5%	18.3%	22.9%	33.9%	19.3%	100.0%				
欧州: 学士 度数	1,005	1,395	3,117	4,630	3,294	13,441			
欧州: 学士 7.5%	10.4%	23.2%	34.4%	24.5%	100.0%				
欧州: 修士 度数	1,505	2,598	4,946	7,043	5,688	21,780			
欧州: 修士 6.9%	11.9%	22.7%	32.3%	26.1%	100.0%				
合計 度数	2,728	4,944	8,765	12,294	9,310	37,592			
合計 7.3%	12.0%	23.3%	32.7%	24.8%	100.0%				

11 大学(大学院)教育の有用度: 現在の仕事を遂行していくうえで

		まったく(強く)立つていなかった			とても立つていっている				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	156	351	687	656	299	2,149			
日本: 学士 7.3%	16.3%	32.0%	30.9%	13.9%	100.0%				
日本: 修士 度数	11	23	50	81	54	219			
日本: 修士 5.0%	10.5%	22.8%	37.0%	24.7%	100.0%				
欧州: 学士 度数	660	1,318	3,447	5,844	2,365	13,394			
欧州: 学士 4.9%	9.8%	25.7%	41.7%	17.8%	100.0%				
欧州: 修士 度数	1,017	2,061	5,479	8,729	4,328	21,614			
欧州: 修士 4.7%	9.5%	25.3%	40.0%	20.0%	100.0%				
合計 度数	1,844	3,753	9,853	15,050	7,066	37,376			
合計 4.9%	10.0%	25.9%	40.3%	18.9%	100.0%				

11 大学(大学院)教育の有用度: 将来のキャリアを展開するうえで

		まったく(強く)立つていなかった			とても立つていっている				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	198	462	627	526	307	2,120			
日本: 学士 9.3%	21.6%	29.6%	24.9%	14.5%	100.0%				
日本: 修士 度数	17	39	55	60	47	218			
日本: 修士 7.8%	17.9%	25.2%	27.5%	21.6%	100.0%				
欧州: 学士 度数	926	2,024	3,705	4,455	2,236	13,346			
欧州: 学士 6.9%	15.2%	27.8%	33.4%	16.8%	100.0%				
欧州: 修士 度数	1,337	3,111	6,050	7,194	3,622	21,514			
欧州: 修士 6.2%	14.5%	28.1%	33.9%	17.8%	100.0%				
合計 度数	2,478	5,636	10,137	12,235	6,472	37,198			
合計 6.7%	15.2%	28.1%	32.5%	17.2%	100.0%				

11 大学(大学院)教育の有用度: 将来のキャリアを展開するうえで

		まったく(強く)立つていなかった			とても立つていっている				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	167	440	726	554	295	2,142			
日本: 学士 7.8%	20.5%	33.9%	25.5%	11.9%	100.0%				
日本: 修士 度数	17	31	58	67	45	219			
日本: 修士 7.8%	14.2%	26.6%	30.7%	20.6%	100.0%				
欧州: 学士 度数	667	1,678	3,976	4,801	2,271	13,393			
欧州: 学士 5.0%	12.5%	29.7%	35.9%	17.0%	100.0%				
欧州: 修士 度数	1,141	2,746	6,069	7,415	4,250	21,621			
欧州: 修士 5.3%	12.7%	28.1%	34.9%	19.9%	100.0%				
合計 度数	1,982	4,895	10,929	12,837	6,621	37,374			
合計 5.3%	13.1%	29.0%	34.9%	18.3%	100.0%				

11 大学(大学院)教育の有用度: 将來のキャリアを展開するうえで

		まったく(強く)立つていなかった			とても立つていっている				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	105	276	708	716	340	2,145			
日本: 学士 4.9%	12.9%	33.0%	25.9%	11.9%	100.0%				
日本: 修士 度数	10	30	59	76	42	217			
日本: 修士 7.8%	14.2%	26.6%	30.7%	20.6%	100.0%				
欧州: 学士 度数	667	1,678	3,976	4,801	2,271	13,393			
欧州: 学士 5.0%	12.5%	29.7%	35.9%	17.0%	100.0%				
欧州: 修士 度数	1,141	2,746	6,069	7,415	4,250	21,621			
欧州: 修士 5.3%	12.7%	28.1%	34.9%	19.9%	100.0%				
合計 度数	1,982	2,713	8,761	15,442	9,917	37,554			
合計 5.3%	7.2%	23.3%	40.3%	20.4%	100.0%				

12 日本 高校卒業後の進路選択をやり直せるから: 大学

		同じ大学の同じ専攻分野を同じ大学の同じ専攻分野を選ぶ			違う大学の同じ専攻分野を同じ大学の同じ専攻分野を選ぶ				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	603	225	393	19.9%	38.2%	780	39	2,040	
日本: 学士 29.6%	13.9%	11.1%	22.2%	0.9%	1.9%	100.0%			
日本: 修士 度数	94	24	33	4.3%	0.0%	0	0	194	
日本: 修士 48.5%	12.4%	1.4%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%			
欧州: 学士 度数	6,251	1,376	8,194	18.1%	24.6%	13,449	39	21,567	
欧州: 学士 61.4%	12.9%	10.2%	21.6%	1.8%	1.8%	100.0%			
欧州: 修士 度数	13,746	2,062	15,356	13.2%	23.3%	21,683	39	479	
欧州: 修士 63.4%	12.7%	10.3%	21.3%	1.4%	1.4%	100.0%			
合計 度数	22,694	4,487	3,093	6.3%	7.8%	37,361	39	21,567	
合計 28.8%	12.0%	8.3%	21.2%	0.9%	0.9%	100.0%			

12 日本 高校卒業後の進路選択をやり直せるから: 大学

		同じ大学の同じ専攻分野を違う大学の同じ専攻分野を選ぶ			違う大学の同じ専攻分野を違う大学の同じ専攻分野を選ぶ				
		-	-	-	-	-	-	合計	
日本: 学士 度数	603	225	393	19.9%	38.2%	780	39	2,040	
日本: 学士 28.1%	12.1%	10.3%	22.3%	0.9%	0.9%	100.0%			
日本: 修士 度数	94	24	33	15.0%	19.5%	43	26	220	
日本: 修士 42.7%	19.0%	10.8%	21.6%	1.8%	1.8%	100.0%			

J. あなたににとっての重要度：仕事の属性

JIA あなたににとっての重要度：仕事の属性				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	22 1.0%	48 2.3%	479 22.5%	764 35.9%
日本：修士 度数	2 0.9%	4 1.8%	39 17.9%	83 38.1%
欧州：学士 度数	81 0.9%	299 2.3%	2,111 16.1%	5,315 40.8%
欧州：修士 度数	96 0.9%	316 1.5%	2,142 10.5%	7,771 40.4%
合計 度数	201 0.5%	637 1.8%	4,771 13.0%	13,933 37.9%
				100.0%

JIA あなたににとっての重要度：雇用や自分の保護

JIA あなたににとっての重要度：雇用や自分の保護				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	33 1.5%	74 3.5%	345 16.1%	675 31.5%
日本：修士 度数	4 0.4%	14 6.4%	40 18.3%	82 37.4%
欧州：学士 度数	161 1.2%	442 3.4%	1,807 13.7%	4,341 32.9%
欧州：修士 度数	276 1.3%	893 4.1%	3,254 15.3%	6,642 31.2%
合計 度数	474 1.3%	1,393 3.8%	5,446 14.8%	11,737 31.9%
				100.0%

JIA あなたににとっての重要度：新しいことに取り組む機会

JIA あなたににとっての重要度：新しいことに取り組む機会				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	12 0.6%	55 2.6%	328 15.9%	724 34.5%
日本：修士 度数	1 0.5%	2 0.9%	18 8.3%	93 42.7%
欧州：学士 度数	27 0.2%	104 0.6%	1,025 7.8%	5,242 39.7%
欧州：修士 度数	46 0.2%	179 0.8%	1,493 7.0%	7,450 35.0%
合計 度数	86 0.2%	341 0.8%	2,874 7.8%	13,519 36.7%
				100.0%

JIA あなたににとっての重要度：高い収入

JIA あなたににとっての重要度：高い収入				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	42 2.0%	117 5.5%	535 26.0%	800 37.4%
日本：修士 度数	7 3.2%	13 6.1%	49 22.6%	95 39.2%
欧州：学士 度数	208 1.7%	738 6.1%	3,680 30.3%	5,051 41.6%
欧州：修士 度数	542 1.8%	1,849 6.1%	4,708 23.4%	8,952 40.6%
合計 度数	998 0.8%	3,141 6.1%	12,431 29.4%	18,952 40.8%
				100.0%

JIA あなたににとっての重要度：新たな経験に挑戦すること

JIA あなたににとっての重要度：新たな経験に挑戦すること				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	31 1.4%	123 5.1%	590 27.6%	772 36.1%
日本：修士 度数	1 0.7%	7 2.7%	33 15.1%	89 40.8%
欧州：学士 度数	66 0.5%	353 2.0%	2,050 15.6%	6,151 46.7%
欧州：修士 度数	181 0.9%	772 2.1%	3,681 17.4%	8,878 41.7%
合計 度数	298 0.8%	1,849 3.4%	12,431 29.4%	18,952 43.2%
				100.0%

JIA あなたににとっての重要度：社会的・政治的立場

JIA あなたににとっての重要度：社会的・政治的立場				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	16 0.7%	89 4.2%	90 4.6%	144 7.1%
日本：修士 度数	3 1.4%	10 4.6%	53 19.8%	116 53.3%
欧州：学士 度数	225 0.9%	1,002 4.7%	2,229 10.2%	5,007 40.9%
欧州：修士 度数	380 1.1%	1,614 4.4%	3,874 18.2%	7,670 36.1%
合計	380 1.0%	2,165 5.9%	7,753 34.7%	17,556 36.5%
				100.0%

JIA あなたににとっての重要度：社会的・政治的立場

JIA あなたににとっての重要度：社会的・政治的立場				
	まったく必要でない	-	とても必要である	合計
日本：学士 度数	145 6.6%	290 13.6%	280 40.4%	420 40.4%
日本：修士 度数	15 6.6%	120 12.0%	75 34.6%	72 32.9%
欧州：学士 度数	806 6.1%	1,962 14.9%	4,693 36.6%	4,030 36.6%
欧州：修士 度数	1,199 5.6%	3,005 14.3%	7,120 33.5%	7,759 31.8%
合計	2,165 5.9%	5,303 14.4%	12,753 34.7%	17,556 34.7%
				100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:仕事の自覚性

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	61	153	683	846	1,888
日本：学士 %	8.1%	18.3%	36.2%	34.2%	100.0%
日本：修士 度数	7	21	53	98	188
日本：修士 %	9.9%	24.9%	46.0%	16.0%	100.0%
欧洲：学士 度数	191	568	2,655	4,536	9,337
欧洲：学士 %	1.6%	5.0%	21.7%	38.4%	100.0%
欧洲：修士 度数	245	795	2,853	6,669	9,529
欧洲：修士 %	1.3%	4.1%	15.5%	33.3%	100.0%
合計 度数	504	1,557	6,264	12,148	22,905
合計 %	1.5%	4.7%	18.9%	36.7%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:新しい収入

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	106	244	435	529	1,867
日本：学士 %	5.9%	12.9%	22.9%	27.9%	100.0%
日本：修士 度数	6	21	46	63	123
日本：修士 %	2.9%	9.9%	21.6%	29.6%	100.0%
欧洲：学士 度数	655	1,115	2,262	3,889	7,900
欧洲：学士 %	5.5%	9.4%	19.0%	33.4%	100.0%
欧洲：修士 度数	1,503	1,931	3,985	5,724	12,612
欧洲：修士 %	7.8%	10.1%	20.7%	29.9%	100.0%
合計 度数	2,270	3,311	6,708	10,205	20,205
合計 %	6.5%	10.0%	20.2%	30.8%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:新しい収入

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	120	306	571	539	1,891
日本：学士 %	6.3%	17.8%	30.2%	28.5%	100.0%
日本：修士 度数	10	32	64	77	213
日本：修士 %	4.7%	15.0%	30.0%	36.2%	100.0%
欧洲：学士 度数	298	1,188	4,188	3,035	8,321
欧洲：学士 %	2.5%	10.0%	25.5%	35.2%	100.0%
欧洲：修士 度数	385	1,607	4,434	6,564	12,506
欧洲：修士 %	2.0%	7.3%	23.2%	34.3%	100.0%
合計 度数	813	3,183	8,104	11,388	33,140
合計 %	2.3%	9.5%	24.5%	34.3%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:社会的地位

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	321	416	420	395	1,869
日本：学士 %	16.9%	21.9%	22.1%	20.8%	100.0%
日本：修士 度数	27	49	57	56	214
日本：修士 %	12.6%	22.9%	26.6%	21.7%	100.0%
欧洲：学士 度数	750	1,930	3,428	3,746	11,867
欧洲：学士 %	6.3%	16.0%	28.8%	31.3%	100.0%
欧洲：修士 度数	1,686	3,565	5,520	5,227	19,142
欧洲：修士 %	6.8%	18.6%	28.8%	27.3%	100.0%
合計 度数	2,174	5,930	9,944	9,944	33,142
合計 %	6.4%	17.9%	28.4%	28.3%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:新しい収入

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	370	407	600	529	1,894
日本：学士 %	19.5%	25.5%	31.7%	17.4%	100.0%
日本：修士 度数	31	54	78	38	212
日本：修士 %	14.6%	25.5%	36.8%	17.9%	100.0%
欧洲：学士 度数	1,334	2,450	4,194	2,305	9,529
欧洲：学士 %	12.2%	22.3%	38.5%	21.1%	100.0%
欧洲：修士 度数	1,902	3,091	5,107	3,185	9,929
欧洲：修士 %	13.3%	21.6%	35.8%	22.3%	100.0%
合計 度数	3,637	6,082	9,979	5,657	27,321
合計 %	13.3%	22.3%	35.5%	21.4%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:新しい収入

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	321	416	420	395	1,869
日本：学士 %	16.9%	21.9%	22.1%	20.8%	100.0%
日本：修士 度数	5	33	45	45.4%	9.0%
日本：修士 %	2.3%	15.4%	47.2%	24.3%	100.0%
欧洲：学士 度数	870	1,884	3,428	3,746	11,867
欧洲：学士 %	7.3%	15.7%	41.2%	27.3%	100.0%
欧洲：修士 度数	1,159	2,685	7,237	5,141	21,988
欧洲：修士 %	6.1%	14.9%	30.4%	21.9%	100.0%
合計 度数	2,187	4,881	13,091	9,524	33,080
合計 %	6.6%	14.8%	39.6%	28.8%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:社会的地位

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	67	211	726	573	1,869
日本：学士 %	3.5%	11.2%	38.4%	30.3%	100.0%
日本：修士 度数	3	22	91	73	214
日本：修士 %	1.4%	10.3%	42.5%	34.1%	100.0%
欧洲：学士 度数	1,119	1,683	3,032	3,071	11,863
欧洲：学士 %	9.4%	15.7%	25.5%	23.3%	100.0%
欧洲：修士 度数	1,719	3,074	5,144	5,228	19,142
欧洲：修士 %	9.0%	16.0%	26.9%	27.3%	100.0%
合計 度数	2,908	5,170	8,993	8,945	33,143
合計 %	8.8%	15.6%	27.1%	27.0%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:社会的地位

	まったく満たさ れていない	-	-	十分に満たさ れています	合計
日本：学士 度数	193	318	659	385	1,869
日本：学士 %	10.1%	16.7%	34.6%	20.5%	100.0%
日本：修士 度数	20	47	74	48	214
日本：修士 %	9.3%	22.0%	34.6%	22.4%	100.0%
欧洲：学士 度数	1,115	1,800	3,427	3,238	11,863
欧洲：学士 %	9.4%	15.2%	27.3%	24.9%	100.0%
欧洲：修士 度数	1,728	5,330	5,688	5,688	19,142
欧洲：修士 %	9.0%	17.1%	27.9%	27.9%	100.0%
合計 度数	3,056	5,441	9,490	8,839	33,143
合計 %	9.2%	16.4%	28.7%	28.7%	100.0%

JIB 現在の仕事における充足度:社会的地位

K. あなたご自身についてうかがいいます。

K3 居住地：現在

K1 性別							
	男性	女性		自國	海外		合計
日本：学・士	度数 972	度数 4477%	合計 2,104	度数 55.3%	度数 100.0%	度数 96.6%	度数 100.0%
日本：修・士	度数 191	度数 86.4%	合計 30	度数 13.6%	度数 100.0%	度数 98.5%	度数 100.0%
欧洲：学・士	度数 5,345	度数 36.5%	合計 8,112	度数 13.517	度数 100.0%	度数 97.5%	度数 100.0%
欧洲：修・士	度数 4,945	度数 43.7%	合計 12,314	度数 21.859	度数 100.0%	度数 96.6%	度数 100.0%
合計	度数 16,053	度数 42.5%	合計 21,720	度数 37,773	度数 100.0%	度数 97.1%	度数 100.0%

現在の年齢

		平均値	標準偏差	度数				
	日本：学・士	28.22	2.176	2,151	日本：修・士	度数 2,170	合計	
日本：修・士	度数 31.74	度数 4,949	度数 214	度数 94.1%	度数 11,477	度数 85.1%	度数 100.0%	
欧洲：学・士	度数 31.10	度数 6,083	度数 13,494	度数 13.498	度数 16,777	度数 96.0%	度数 100.0%	
欧洲：修・士	度数 31.48	度数 4,676	度数 21,763	度数 100.0%	度数 30,398	度数 90.4%	度数 100.0%	
合計	度数 31.16	度数 5,172	度数 37,622	度数 100.0%	度数 80.7%	度数 19.3%	度数 100.0%	

K4 海外経験：在学中：学習目的

		なし	あり				
	日本：学・士	度数 1,936	度数 89.4%	日本：修・士	度数 208	度数 5.9%	合計
日本：学・士	度数 94.1%	度数 100.0%	度数 94.1%	度数 100.0%	度数 12,693	度数 96.0%	度数 100.0%
欧洲：学・士	度数 13.498	度数 100.0%	度数 13.498	度数 100.0%	度数 19,726	度数 96.0%	度数 100.0%
欧洲：修・士	度数 10.0%	度数 100.0%	度数 10.0%	度数 100.0%	度数 34,563	度数 90.4%	度数 100.0%
合計	度数 85.1%	度数 100.0%	度数 85.1%	度数 100.0%	度数 92,339	度数 75.2%	度数 100.0%

K4 海外経験：いいえ

		なし	該当しない				
	日本：学・士	度数 1,936	度数 99.7%	日本：修・士	度数 208	度数 0.3%	合計
日本：学・士	度数 99.7%	度数 100.0%	度数 99.7%	度数 100.0%	度数 12,693	度数 94.1%	度数 100.0%
欧洲：学・士	度数 13.498	度数 100.0%	度数 13.498	度数 100.0%	度数 19,726	度数 96.0%	度数 100.0%
欧洲：修・士	度数 10.0%	度数 100.0%	度数 10.0%	度数 100.0%	度数 34,563	度数 90.4%	度数 100.0%
合計	度数 85.1%	度数 100.0%	度数 85.1%	度数 100.0%	度数 92,339	度数 75.2%	度数 100.0%

K4 海外経験：いいえ

		なし	該当する				
	日本：学・士	度数 1,936	度数 99.3%	日本：修・士	度数 208	度数 100.0%	合計
日本：学・士	度数 99.3%	度数 100.0%	度数 99.3%	度数 100.0%	度数 12,693	度数 94.1%	度数 100.0%
欧洲：学・士	度数 13.218	度数 100.0%	度数 13.218	度数 100.0%	度数 19,726	度数 96.0%	度数 100.0%
欧洲：修・士	度数 21.819	度数 100.0%	度数 21.819	度数 100.0%	度数 34,563	度数 90.4%	度数 100.0%
合計	度数 75.2%	度数 100.0%	度数 75.2%	度数 100.0%	度数 92,339	度数 75.2%	度数 100.0%

K3 居住地：大学生（大学院生）の時

		自國	海外				
	日本：学・士	2,142	5	日本：修・士	2,147	度数 0.2%	合計
日本：学・士	度数 99.5%	度数 100.0%	度数 99.5%	度数 100.0%	度数 12,803	度数 97.2%	度数 100.0%
日本：修・士	度数 21.7%	度数 100.0%	度数 21.7%	度数 100.0%	度数 20,473	度数 96.0%	度数 100.0%
欧洲：学・士	度数 13.338	度数 100.0%	度数 13.338	度数 100.0%	度数 36,977	度数 99.5%	度数 100.0%
欧洲：修・士	度数 21.440	度数 100.0%	度数 21.440	度数 100.0%	度数 169	度数 0.5%	度数 100.0%
合計	度数 96.5%	度数 100.0%	度数 96.5%	度数 100.0%	度数 35,604	度数 96.5%	度数 100.0%

K3 居住地：一年（修了）後、初回就職時

		自國	海外				
	日本：学・士	2,121	10	日本：修・士	2,121	度数 0.5%	合計
日本：学・士	度数 99.5%	度数 100.0%	度数 99.5%	度数 100.0%	度数 12,803	度数 97.2%	度数 100.0%
日本：修・士	度数 21.7%	度数 100.0%	度数 21.7%	度数 100.0%	度数 20,473	度数 96.0%	度数 100.0%
欧洲：学・士	度数 13.196	度数 100.0%	度数 13.196	度数 100.0%	度数 36,736	度数 96.5%	度数 100.0%
欧洲：修・士	度数 21.279	度数 100.0%	度数 21.279	度数 100.0%	度数 1,132	度数 3.1%	度数 100.0%
合計	度数 6,359	度数 100.0%	度数 6,359	度数 100.0%	度数 35,604	度数 96.5%	度数 100.0%

K4 海外経験：在学中：学習目的：期間（ヶ月）

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	4.33	4.956	6
欧州：学士	5.98	7.053	744
欧州：修士	5.76	6.507	2,007
合計	5.81	6.719	2,757

K5 海外経験：卒（修了）後：学習目的

	なし	あり	合計
日本：学士	度数 2,043	度数 76	2,119
日本：修士	度数 98.4%	度数 3.6%	100.0%
日本：修了	度数 203	度数 2	205
日本：修了率	99.7%	1.0%	100.0%
欧州：学士	度数 12,714	度数 756	13,470
欧州：修士	度数 94.4%	度数 5.6%	100.0%
欧州：修了	度数 19,889	度数 1,897	21,786
欧州：修了率	91.3%	8.7%	100.0%
合計	度数 34,849	度数 2,731	37,580
合計率	92.7%	7.3%	100.0%

K5 海外経験：卒（修了）後：学習目的

	なし	あり	合計
日本：学士	度数 2,043	度数 54	2,097
日本：修士	度数 97.7%	度数 2.6%	100.0%
日本：修了	度数 203	度数 15	218
日本：修了率	93.1%	6.9%	100.0%
欧州：学士	度数 11,701	度数 1,759	13,470
欧州：修士	度数 86.9%	度数 13.1%	100.0%
欧州：修了	度数 11,970	度数 3,825	21,795
欧州：修了率	82.5%	17.5%	100.0%
合計	度数 31,917	度数 84.5%	37,580
合計率	92.7%	7.3%	100.0%

K5 海外経験：卒（修了）後：学習目的：期間（ヶ月）

	1年未満	1年以上	合計
日本：学士	度数 124	度数 2,043	2,167
日本：修士	度数 5.7%	度数 94.9%	100.0%
日本：修了	度数 17	度数 203	220
日本：修了率	7.7%	92.3%	100.0%
欧州：学士	度数 17.3%	度数 10,929	13,217
欧州：修士	度数 5,160	度数 16,367	21,547
欧州：修了	度数 24.0%	度数 7,609	31,151
合計	度数 20.5%	度数 7,659	28,542
合計率	79.5%	20.5%	100.0%

K6 同居者：在学中の最後の1年間

	1人で	配偶者・パート	面親	その他	学生寮	その他の親近	知人	合計
日本：学士	度数 1,002	度数 69	度数 1,056	度数 49.1%	度数 36	度数 0	度数 0.0%	度数 2,173
日本：修士	度数 110	度数 22	度数 85	度数 32.2%	度数 17.7%	度数 0.0%	度数 0.0%	度数 100.0%
日本：修了	度数 50.0%	度数 10.0%	度数 38.6%	度数 4.9%	度数 0.0%	度数 0.0%	度数 0.0%	度数 220
欧州：学士	度数 3,369	度数 4,032	度数 579	度数 13.4%	度数 415	度数 79	度数 1.0%	度数 100.0%
欧州：修士	度数 25.1%	度数 30.0%	度数 3.1%	度数 4.0%	度数 1.2%	度数 0.0%	度数 0.0%	度数 143.9
欧州：修了	度数 4,925	度数 5,851	度数 1,347	度数 17.6%	度数 8.172	度数 394	度数 1.2%	度数 21,728
合計	度数 9,406	度数 9,880	度数 13,355	度数 35.6%	度数 809	度数 205	度数 5.1%	度数 100.0%

K7 同居者：現在

	1人で	配偶者・パート	面親	その他	学生寮	その他の親近	知人	合計
日本：学士	度数 635	度数 639	度数 768	度数 35.4%	度数 110	度数 0	度数 0.0%	度数 2,172
日本：修士	度数 30.2%	度数 36.2%	度数 28.4%	度数 5.1%	度数 35	度数 9	度数 0.0%	度数 100.0%
日本：修了	度数 67	度数 109	度数 109	度数 4.5%	度数 45.9%	度数 4.1%	度数 0.0%	度数 220
欧州：学士	度数 30.5%	度数 35.7%	度数 30.5%	度数 4.1%	度数 346	度数 40	度数 1.0%	度数 13,442
欧州：修士	度数 21.9%	度数 21.9%	度数 21.9%	度数 1.6%	度数 61.9%	度数 11.8%	度数 1.6%	度数 100.0%
欧州：修了	度数 4,618	度数 13,247	度数 13,247	度数 3.0%	度数 3,052	度数 652	度数 1.6%	度数 21,759
合計	度数 8,282	度数 22,311	度数 22,311	度数 3.0%	度数 5,450	度数 89	度数 1.0%	度数 37,633

K8 子どもの有無と数

	1人	2人	3人以上	なし
日本：学士	度数 9.8%	度数 21.4%	度数 3.0%	度数 0.5%
日本：修士	度数 16.4%	度数 5.0%	度数 2.3%	度数 0.0%
日本：修了	度数 2,096	度数 1,452	度数 520	度数 9.4%
欧州：学士	度数 15.3%	度数 10.7%	度数 3.8%	度数 70.1%
欧州：修士	度数 3,305	度数 1,804	度数 451	度数 16.2%
欧州：修了	度数 15.1%	度数 8.3%	度数 2.1%	度数 74.5%
合計	度数 5,621	度数 3,322	度数 14.9%	度数 0.2%

K9 子どもの年齢：第一子

	平均値	標準偏差	度数
日本：学士	2.07	4.092	271
日本：修士	5.68	8.404	47
欧州：学士	7.65	8.621	3,871
欧州：修士	5.56	7.347	5,237
合計	6.32	7.831	9,426

K9 子どもの年齢：末子

	平均値	標準偏差	度数
日本：学・土	1.33	3.452	270
日本：修・土	4.65	6.987	46
欧洲：学・土	5.51	7.344	3,787
欧洲：修・土	4.07	6.223	5,041
合計	4.59	6.715	9,144

K10 日本：学歴：父

	中卒	高卒	短大・専門学 校・高等卒	大学卒	大学院卒 (修士 ・博士課程)	その他	合計
日本：学・士 度数	174	889	128	634	84	14	2,123
日本：修・士 度数	27	73	9	90	10	3	212
合計 度数	201	962	137	924	94	17	2,335

K10 日本：学歴：母

	中卒	高卒	短大・専門学 校・高等卒	大学卒	大学院卒 (修士 ・博士課程)	その他	合計
日本：学・士 度数	131	1,050	552	331	9	11	2,124
日本：修・士 度数	67%	51.3%	26.0%	15.6%	0.4%	0.5%	100.0%
合計 度数	152	1,195	601	367	9	13	2,337

K10 日本：学歴：配偶者・パートナー

	中卒	高卒	短大・専門学 校・高等卒	大学卒	大学院卒 (修士 ・博士課程)	その他	合計
日本：学・士 度数	9	108	181	433	117	18	846
日本：修・士 度数	1.1%	12.6%	18.0%	51.2%	13.8%	2.1%	100.0%
合計 度数	9	119	187	484	137	19	975

卷末資料

6) 卒業生調査利用状況調査・調査票

「企業・卒業生における大学教育の点検・評価に関する日欧比較研究」

大学教育の成果点検・評価方法に関する調査

ご回答いただくにあたって

- まだ卒業生を輩出していない学部につきましては、今後の計画について可能な範囲でお答え下さい。
- 選択肢がある設問につきましては、特に指示がない限り、該当する番号1つに○をつけてください。
- 本調査についてのお問い合わせは、以下の共同研究者へお願ひいたします。

担当：稻永由紀（筑波大学） Tel./Fax. 03-3942-6941 e-mail reflxedu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

A. 最初に、貴学部のことについて、お伺いします

問1 貴大学・学部に関する以下のことがらについてお教え下さい。

(1)貴大学・学部名 _____ 大学 _____ 学部 _____

(2)貴学部設置年(西暦) _____ 年

(3)貴学部における最新の学科改組年(西暦) _____ 年

(4)貴学部の分野・領域(複数回答可)

- | | | | | |
|----------|---------|-----------------------|--------------|--------|
| 1. 人文科学系 | 2. 法学系 | 3. 経済・経営・商学系 | 4. その他の社会科学系 | |
| 5. 理学系 | 6. 工学系 | 7. 農学系 | 8. 保健系 | 9. 家政系 |
| 10. 教育系 | 11. 芸術系 | 12. その他 (具体的に _____) | | |

B. 次に、貴学部における大学教育の成果点検・評価の方法について、お伺いします

問2 貴学部では、現在、大学教育の成果を点検・評価するために、どのような対象にどのような調査をおこなっていますか。(複数回答可)

1. 在学生による、授業評価の調査
2. 在学生による、カリキュラム評価の調査
3. 在学生による、上記以外の、大学教育に関する調査
4. 保護者を対象とした調査
5. 官庁や企業など、学生を受け入れる側を対象とした調査
6. 地域住民を対象とした調査
7. 卒業生を対象とした調査
8. その他 (具体的に _____)
9. 大学教育の成果を点検・評価するための調査は実施していない

C. 続いて、卒業生に対する調査（以下、卒業生調査）に限定して、お伺いします

問3 貴学部では、最近5ヵ年以内に、卒業生調査を企画・実施しましたか。

1. 大学教育成果の自己点検として、実施した
2. 1以外の目的で、実施した
3. 実施していないが、企画中だ（開始予定： 年）
4. 実施していないし、企画もしていない

問4へお進みください。
→ 問8へお進みください。

以下、問4～7は、問3で「1. 大学教育成果の自己点検として、実施した」「2. 1以外の目的で、実施した」「3. 実施していないが、企画中である」を選んだ方だけ、お答えください。

また、「3. 実施していないが、企画中である」と回答した方につきましては、以下の質問はすべて、企画中の調査について、分かる範囲で結構ですのでお答えください。

問4 貴学部では、定期的に卒業生調査を実施していますか。

1. 学部全体で、定期的に実施している
2. 一部の学科でのみ、定期的に実施している
3. 定期的には実施していない

問5 卒業生調査はどのような形態で実施されましたか。（複数回答可）

1. 国や他の調査機関などが実施する調査に対し、貴学部が参加・協力した
2. 大学（あるいは法人）、および学内他部局（大学内のセンターや同窓会など）が実施した調査に対し、貴学部が参加・協力した
3. 貴学部が独自に実施した
4. その他（具体的に _____）

問6 卒業生調査ではどのような内容を質問していますか。（複数回答可）

1. 在学前の経験について
2. 在学中の学習経験について
3. 在学中のその他の経験について
4. 就職活動について
5. 卒業後の職業経歴について
6. 卒業後の学習経歴について
7. 卒業後の、家族、地域などの生活について
8. 在学中に受けた大学教育に対する評価について
9. その他（具体的に _____）

問7 卒業生調査の結果をどのように活用していらっしゃいますか。(複数回答可)

1. カリキュラム改善の資料
2. FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の資料
3. 学習支援、就職・キャリア支援など、学生支援の資料
4. 大学経営に関する内部資料
5. 大学評価など、政府および認証機関への報告
6. 学外（親、受験生など）への情報提供
7. 同窓会の、組織化や運営の資料
8. 大学に関する研究としての、学術論文、書籍の出版
9. マーケティング（市場調査）の資料
10. その他（具体的に _____）

問4～7にご回答いただいた方へのお願い

差し支えなければ、貴学部（あるいは学科）で企画・実施された卒業生調査の調査票、報告書等資料を、ご恵贈いただけませんでしょうか。

いただいた調査票、報告書等資料につきましても、本調査票同様、貴学・学部のみなさまにご迷惑がかかるないよう、取り扱いには細心の注意を払っていく所存でございます。

ご恵贈いただける場合には、同封の封筒に本調査票と一緒に封入し、ご投函下さい。
何卒ご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

→問9へお進みください。

以下、問8～10は、問3で「4.実施していないし、企画もしていない」を選んだ方のみお答えください。

問8 卒業生調査をおこなわない主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. このような調査をおこなう専門的な教職員がいないから
2. 外部の研究機関などから類似の調査結果を得ることができたから
3. 他に優先度の高い事項があるから
4. その他 (具体的に) _____

→問9へお進みください。

以下、問9は、すべての方がお答え下さい。

問9 卒業生調査の必要性について、どのようにお考えいらっしゃいますか。

1. 大学教育成果の点検・評価にとって必要だと考えている
2. 大学教育の改善活動にとって必要だと考えている
3. 必要だとは考えていない



調査はこれで終了です。最後までご回答いただき、ありがとうございました。

今後、追加のご照会をさせていただくこともありますので、最後に、お差しつかえなければ、アンケートに回答いただきました御担当者様のお名前ならびにご連絡先などを教えて下さい。

* 本調査に回答いただいた御担当者様について

氏名	
職名	
ご連絡先	電話
	e-mail

ご協力いただき、本当にありがとうございました。

2009年3月20日

調査にご協力いただきました学部のみなさまへ

謹啓 早春の候、時下ますますご清栄の段、お慶び申し上げます。

この度は私ども研究チームが実施いたしました「大学教育の成果点検・評価方法に関する調査」にご協力いただきまして、大変感謝申し上げます。

予定より半年ほど遅くなりましたが、調査結果の概要がまとまりましたので、ご報告申し上げます。是非ご高覧いただき、ご意見等を頂戴できれば幸甚に存じます。

なお、ユニークな取組をなさっておられる学部のみなさまには、別途個別にお話を伺いいたしたく、ご連絡を差し上げることがございます。その折には、ご多忙とは存じますが是非ご協力を賜りますよう、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

末筆ながら、貴学部のますますのご発展を祈念いたしております。

謹白

科研（基盤A）「企業・卒業生による大学教育の点検・評価に関する日欧比較研究」

研究代表者 吉本圭一（九州大学）

【調査に関する問い合わせ先】

「大学教育の成果点検・評価方法に関する調査」担当 稲永由紀（筑波大学）

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 Tel.&Fax. 03-3942-6941

E-mail iney@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

「大学教育の成果点検・評価方法に関する調査」結果概要

1. 調査概要

調査時期：2008年4月

調査対象：

全国大学学部長悉皆

(学部は2007年現在)

調査方法：

質問紙による郵送調査

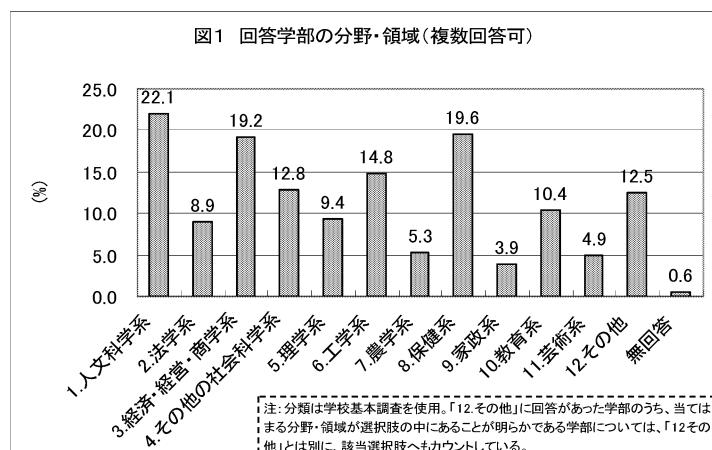
有効回収票：843票

(国立 69 大学 216 学部)

公立 45 大学 64 学部

私立 320 大学 563 学部)

有効回収率：42.6%



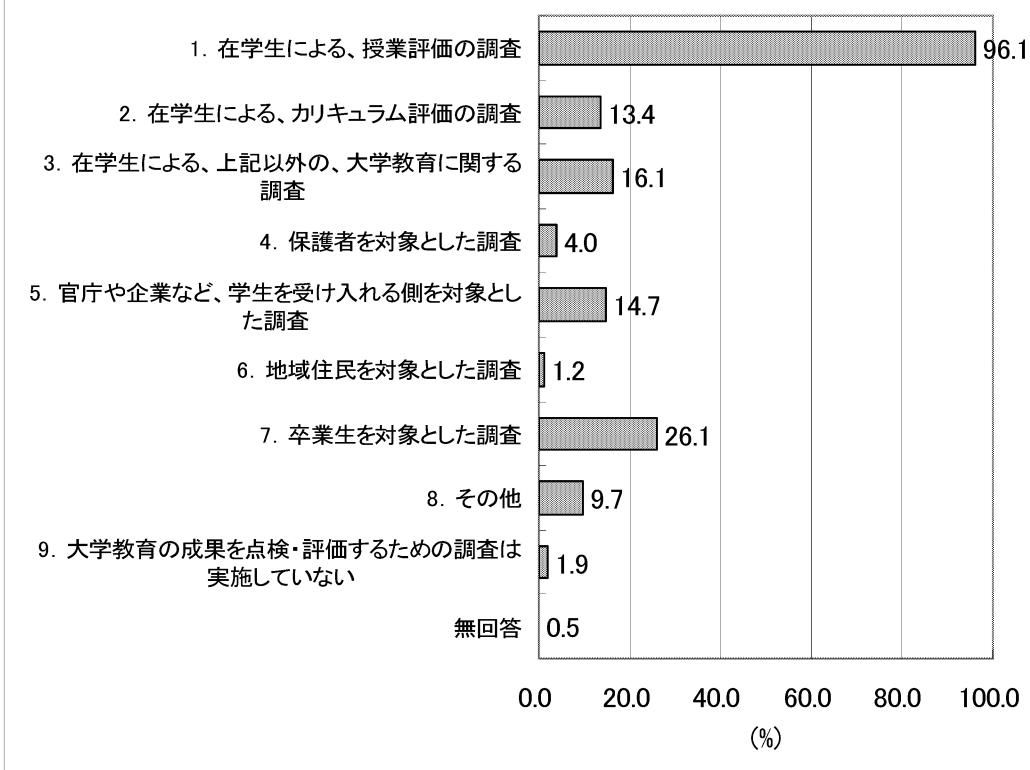
2. 結果概要

【授業評価はほとんどの学部で実施。しかし、その他の調査まで実施しているところは少数。一番割合の高かった卒業生調査でも3割弱。】

まず、大学教育の成果の点検・評価方法を尋ねたところ、ほとんどの学部で利用されている方法は在学生による授業評価であった。しかし、半数の学部は授業評価のみの実施であり、授業評価以外の方法や在学生以外への調査を併用している学部は少数であった。多角的に点検・評価を試みている学部（4領域以上）になると全体の1割もなく、現在の点検・評価方法が授業評価に偏りすぎていることが分かる。（図2）

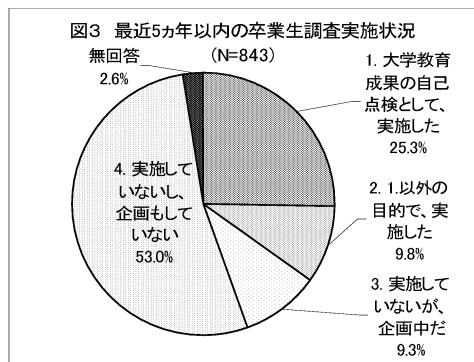
表には示していないが、工学系や保健系（医・歯・薬を含む）、ならびに国立大学の学部では、卒業生や学生を受け入れる側（官庁や企業など）といった学外ステークホルダーからの点検・評価を実施している学部の割合が相対的に高くなっている。特に国立大学の場合は、この5カ年が第1期中期目標・計画の執行と重なっており、中期目標・計画に卒業生調査の実施が書き込まれている大学も少なくない。そのためか、多角的に点検・評価を試みている学部の割合は国立で21%と、公立(6%)、私立(4%)よりも高くなっている。

図2 大学教育の成果点検・評価方法(複数回答可。N=843)



【最近 5 年以内に、大学教育の成果点検・評価目的で卒業生調査を実施した学部は 25%】

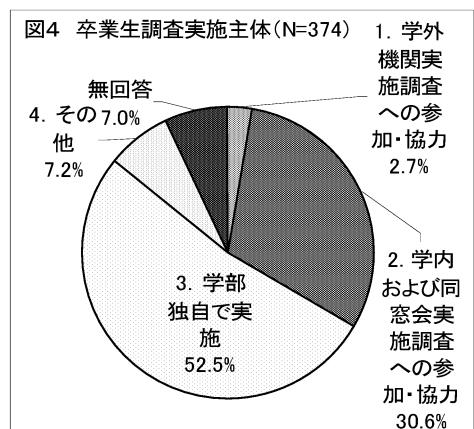
最近 5 年以内の卒業生調査の実施状況について尋ねたところ、25%の学部が「大学教育成果の自己点検として実施した」と回答している一方で、53%の学部は卒業生調査自体を「実施していないし、企画もしていない」と回答している。企画中と回答した学部は約 1 割となっている。(図 3)



【実施された卒業生調査の内容】

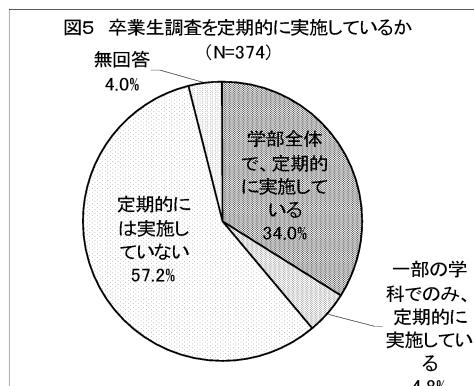
■ 半数が、学部独自で企画・実施

卒業生調査の実施形態を聞いたところ、半数は「学部が独自で実施した」と回答している。「大学および学内他部局が実施した調査に対し、参加した」学部も 3 割あり、併せて 8 割は学内での企画となっている。その一方で、「国や他の調査機関などが実施する調査に対し、参加・協力した」と回答したのは 3%で、そのほとんどは、研究者グループによる調査への協力であると考えられる。(図 4)



■ 卒業生調査を定期的に実施しているのは 4 割弱。

こうした卒業生調査が定期的に実施されているものかどうかを尋ねたところ、「定期的に実施している」が、学部全体か一部かを問わず全体の 37%、「定期的に実施はしていない」は 54%となっている(図 5)。工学系や保健系の学部では、他の分野・領域の学部に比べて「定期的に実施している」傾向が見られるが、設置形態別での回答傾向の違いは見られない。現段階では「定期的に実施していない」学部が、今後、一連の大学評価の流れの中でどのような動きを取るのかが注目される。

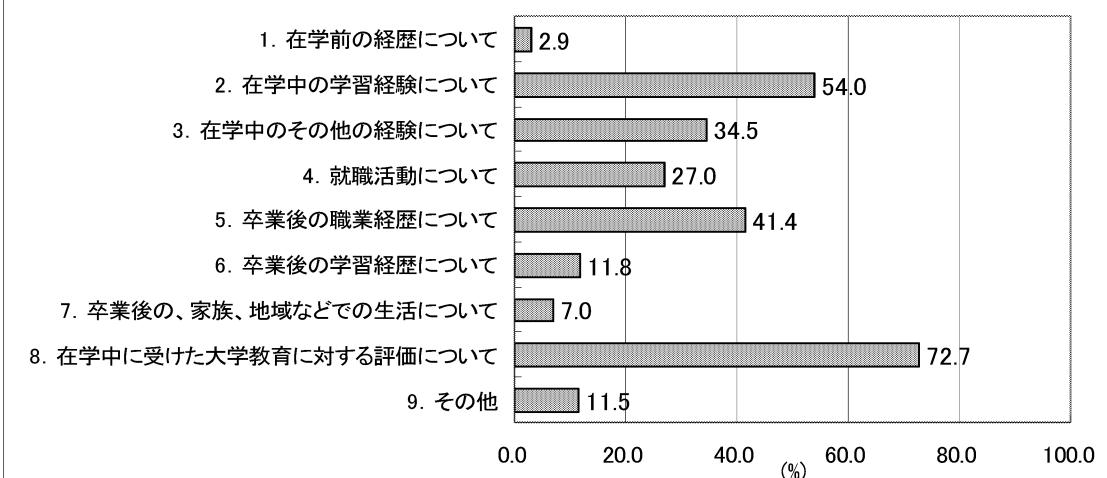


■ 調査項目は、在学中の学習経験と評価に集中。一部で卒業後のキャリアも。

卒業生調査の内容では、7割弱の学部が「在学中に受けた大学教育に関する評価」、5割強の学部が「在学中の学習経験」を尋ねている。その一方で、卒業後の卒業生たちの状況を尋ねているのは、一番高かった「職業経歴」でも4割にとどまっており、「在学前の経歴」や「卒業後の生活」になると1割に満たない。全体として、在学時の状況とその評価をストレートに聞こうとしている傾向にあることが伺える。(図6)

今回の調査では、実施した卒業生調査の資料を恵送いただくようお願いし、多くの実施学部にご協力をいただいた。寄せられた資料には、典型的には大きく、在学中の学習経験（主としてカリキュラム上の経験）とそれに対する満足度評価に調査の力点が置かれているものと、卒業後の状況とそこからみた大学教育の有用性評価に調査の力点が置かれているものとがあるように思われた。前者が大学教育改善（教学）側から設計された卒業生調査に、後者が就職・キャリア支援目的で設計された卒業生調査に、それぞれ見られると予想される。寄せられた資料には、卒業後に実施された調査ではなく、卒業時点前後に行われた調査が数多く含まれていたが、これらのはほとんどどの調査設計は前者の傾向を持つ。もっとも、本調査票には実施部署や実施の経緯に関する設問を設けていないため、あくまでこれは仮説的な傾向ではある。今後、本設問における項目間の相互関係や、寄せられた資料自体を、更に詳しく分析する必要がある。

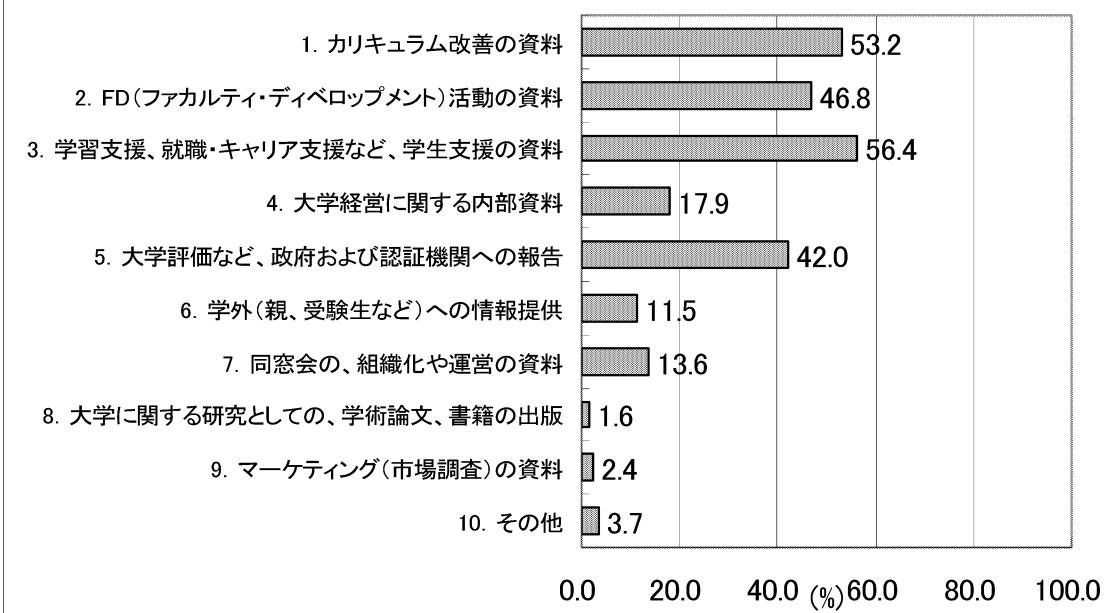
図6 卒業生調査での質問内容(複数回答可、N=374)



■得られた結果は、大学教育改善および認証機関への報告として活用

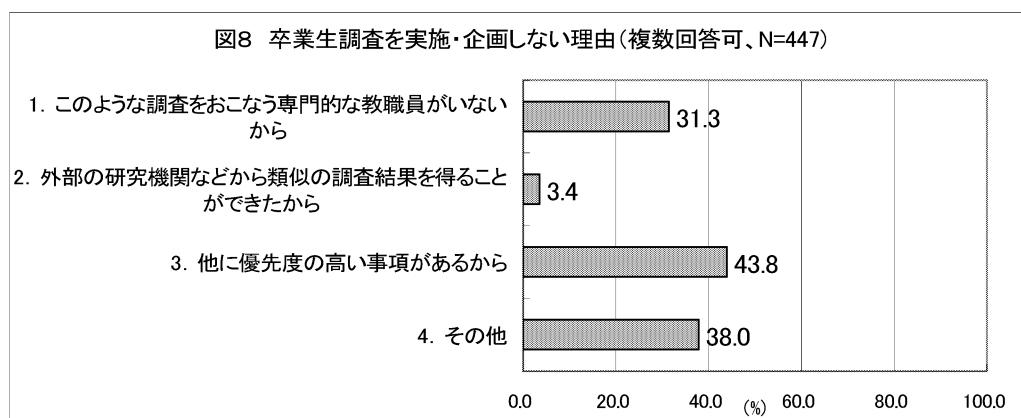
卒業生調査の活用方法について尋ねたところ、「学生支援の資料」「カリキュラム改善の資料」がそれぞれ5割を超えており、「FD活動の資料」で44%、「政府および認証機関への報告（大学評価）」で40%と続いている。一方、「学外（ステークホルダー）への情報提供」へ活用している学部は1割程度であり、比較的高度な分析を要求されると考えられる「大学に関する研究としての、学術論文、書籍の出版」や「マーケティング（市場調査）の資料」となると、ほとんど利用されていない（図7）。本調査時に寄せられた資料を見る限りにおいて、因果関係や相関関係を厳密に求めていくような分析を想定した設計かつそれに耐えられるサンプル数を集めた調査は比較的少ないとから、いわゆる「評価対応」と呼ばれる、成果点検・評価の客観的証拠としての結果利用に加え、大学改善に向けた議論の材料として簡単な集計結果が活用されている状況であると考えられる。

図7 卒業生調査の活用方法(複数回答可、N=374)



【卒業生調査を実施していない理由】

一方、最近 5 カ年で卒業生調査を「実施していないし、企画もしていない」と回答した学部にその理由を尋ねたところ、「3.他に優先度の高い事項があるから」と回答した学部が 42%、「1.このような調査を行う専門的な教職員がない」と回答した学部も 30%あった。一方、「2.外部の研究機関などから類似の調査結果を得ることができたから」はわずか 3%である。今回回答を寄せたほとんどの学部で授業評価が実施されていることを考え合わせると、大学教育の成果・点検方法として卒業生調査がまだそこまで重要な位置づけを与えられていないこと、また、授業評価とは別の専門的な調査スキルが必要であるという認識が現場にあるということが読み取れる。(図 8)



【卒業生調査の必要性は理解しているが.....】

最後に、回答を寄せたすべての学部に対し、卒業生調査の必要性について尋ねたところ、「3.必要だとは考えていない」と回答したのはわずか 4%で、基本的には、大学教育の成果点検・評価、あるいはその延長としての改善活動にとって卒業生調査が必要であるという認識を持っていることがわかる。ところが、すでにみてきたように、ほとんどの学部で何らかの方法を使っての成果・点検が行われていること、また卒業生調査を実際に実施しているのは 1/4 程度にとどまっていることから、現段階で卒業生調査を実施していない学部は、その必要性を理解していながら何らかの学内事情（前項参照）で着手できていない状況におかれている、ということが読み取れる。(図 9)

